平成19年旭市議会第1回定例会委員会会議録目次

公営企業常任委員会 平成19年3月8日（木）

付議事件	1
出席委員	1
欠席委員	1
委員外出席者	1
説明のため出席した者	1
事務局職員出席者	2
開会	3
議案の説明、質疑	4
議案の採決	5 1
所管事項の報告	5 2
陳情の審査	5 6
陳情の採決	5 9
閉会	6 0

建設経済常任委員会 平成19年3月12日（月）

付議事件	6 3
出席委員	6 3
欠席委員	6 3
委員外出席者	6 3
説明のため出席した者	6 3
事務局職員出席者	6 4
開会	6 5
議案の説明、質疑	6 6
議案の採決	1 1 3
所管事項の報告	1 1 4

閉会	121
----	-----

文教福祉常任委員会 平成19年3月13日（火）

付議事件	125
出席委員	125
欠席委員	126
委員外出席者	126
説明のため出席した者	126
事務局職員出席者	126
開会	127
議案の説明、質疑	128
議案の採決	162
所管事項の報告	165
閉会	170

総務常任委員会 平成19年3月16日（金）

付議事件	173
出席委員	173
欠席委員	173
委員外出席者	174
説明のため出席した者	174
事務局職員出席者	174
開会	175
議案の説明、質疑	176
議案の採決	206
所管事項の報告	208

公 営 企 業 常 任 委 員 会

平成19年3月8日（木曜日）

付議事件

《付託議案》

- 議案第 7号 平成19年度旭市水道事業会計予算の議決について
議案第 8号 平成19年度旭市病院事業会計予算の議決について
議案第 9号 平成19年度旭市国民宿舎事業会計予算の議決について
議案第14号 平成18年度旭市水道事業会計補正予算の議決について
議案第15号 平成18年度旭市国民宿舎事業会計補正予算の議決について
議案第31号 旭市病院事業使用料及び手数料条例の一部を改正する条例の制定について
議案第37号 専決処分の承認について

《付託陳情》

- 陳情第 1号 安全・安心の医療と看護の実現を求める陳情

出席委員（6名）

委員長	高橋利彦	副委員長	明智忠直
委員	林一哉	委員	嶋田茂樹
委員	佐久間茂樹	委員	林七巳

欠席委員（1名）

委員 伊藤 鐵

委員外出席者（3名）

議員	神子 功	議員	日下昭治
議員	柴田徹也		

説明のため出席した者（20名）

助 役	重 田 雅 行	病院事務部長	今 井 和 夫
水道課長	堀 川 茂 博	飯岡荘支配人	野 口 國 男
病院事務次長	伊 東 一 直	病院経理課長	鏑 木 友 孝
病院医事課長	加 藤 勝 治	病院整備課長	永 嶋 英 和
病工 ネ 工 課 の 職	院一 ギ 長 担 当 員		
	椎 名 秋 雄		
	1 1 名		

事務局職員出席者

事務局長	来 栖 昭 一	事務局次長	石 毛 健 一
主 査	穴 澤 昭 和		

開会 午前10時 0分

○委員長（高橋利彦） おはようございます。

お忙しい中、大変ご苦労さまでございます。

ここで、委員会を開会する前にあらかじめご了承願います。

この後、議会だより取材のため職員が委員会室内の写真撮影を行いますのでご了承願います。

ただいまの出席委員は6名、委員会は成立いたしました。

なお、本日、神子功議員、日下昭治議員、柴田徹也議員より本委員会を傍聴したい旨の申し入れがあり、これを許可いたしましたのでご了承をお願いいたします。

それでは、公営企業常任委員会を開会いたします。

なお、伊藤鐵委員におかれましては、健康上の理由により本日欠席させていただきたいとの連絡がございましたので、ご了承いただきたいと思います。

初めに、執行部を代表して重田助役よりごあいさつをお願いいたします。

○助役（重田雅行） おはようございます。

本日は、公営企業常任委員会ということで委員の皆様には朝早くから大変ご苦労さまでございます。

本日の委員会に執行部の方からご審議をお願いいたします案件は、議案7件でございます。水道事業、病院事業、国民宿舎事業、それぞれの19年度当初予算関係、それから水道事業と国民宿舎事業の補正予算関係、そして病院事業の使用料手数料条例の一部改正の案件、さらに専決処分の承認ということでこれも病院事業でございますけれども、設置条例の一部改正でございます。以上7件についてご審議をお願いしたいわけでございますので、よろしくご審査くださいますようお願い申し上げます。あいなさつとさせていただきます。よろしく願います。

○委員長（高橋利彦） ありがとうございます。

ここで、重田助役は所用のため退席をいたします。

しばらく休憩いたします。委員の皆さんは、そのまま自席でお待ちください。

休憩 午前10時 3分

(助役退席)

再開 午前10時 4分

○委員長(高橋利彦) 休憩前に引き続きまして会議を開きます。

議案説明のため、担当課長及び職員の出席を求めました。

議案の説明、質疑

○委員長(高橋利彦) ただいまから本委員会に付託されました議案の審査を行います。

去る3月2日の本会議におきまして、本委員会に付託されました議案は、議案第7号、平成19年度旭市水道事業会計予算の議決について、議案第8号、平成19年度旭市病院事業会計予算の議決について、議案第9号、平成19年度旭市国民宿舎事業会計予算の議決について、議案第14号、平成18年度旭市水道事業会計補正予算の議決について、議案第15号、平成18年度旭市国民宿舎事業会計補正予算の議決について、議案第31号、旭市病院事業使用料及び手数料条例の一部を改正する条例の制定について、議案第37号、専決処分の承認についての7議案であります。

これより、付託議案の審査を行います。

初めに、議案第7号について、水道課より補足して説明がありましたらお願いいたします。
水道課長。

○水道課長(堀川茂博) 補足につきましては、することはございません。よろしくご審議お願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

○委員長(高橋利彦) 特にないようですので、質疑がありましたらお願いいたします。

明智委員。

○委員(明智忠直) 何点かお聞きしたいと思います。

企業会計予算書についての7ページ、支出について。建設改良費の拡張工事費、昨年度、今年の臨時議会だっけ、昨年12月だっけ、説明がありまして、ループ化の中での接続工事というような部分で説明がありました、何か所か。その中での工事だと思えますけれども、具体的な個々の事業費、内容を少し説明いただきたいと思えます。

それと、加入率の問題でありますけれども、水道未加入の問題、やっぱりこれ、加入が多

くならなければ水道事業も円満にいかないというようなことの中でいろいろ懸案事項があって昨年度からいろいろ話もあったんですけども、新規加入に対する助成の問題、補助の問題、そういうものが水道課内で話し合いが進んでいるのか進捗しているのかどうか、そこら辺も聞きたいと思います。よろしくお願いします。

○委員長（高橋利彦） 明智委員の質疑に対して答弁を求めます。

水道課長。

○水道課長（堀川茂博） それでは、ご質問の初めに4条の方になりますけれども、拡張工事費の内訳についてご説明申し上げます。

拡張工事費につきましては、初めにループ化ということで配水管の布設工事。これはちょっと建設課の舗装工事と関係するものが1点。金額の方はよろしいでしょうか。

（「金額も。場所も」の声あり）

○水道課長（堀川茂博） 今のは江ヶ崎でございます。金額にいたしますと936万円。それから、足川地先の給水未普及地域の解消の配水管の布設工事、これが648万円。それから、やはり未普及地区の解消の配水管工事ですけれども鎌数地先、これが864万円。それから、消火栓の新設、これが足川、それから鎌数2か所、119万2,000円。それから、工事に伴います路面復旧工事と谷丁場遊正線の歩道ですけれども、そちらが250万円。それから、井戸野浜の元セブンイレブンの西側付近でございますけれども180万円。それから、その他緊急対応工事といたしまして250万円ほど計上してあります。今のは旭地域でございます。

次に、海上地区でございますけれども……

（発言する人あり）

○水道課長（堀川茂博） 一覧表ですか。分かりました。じゃ、説明の方だけさせていただきます。一覧表の方には延長距離も入れますのでよろしくお願いいたしますと思います。

海上エリアが岩井地先、624万円、それからその他緊急対応工事として250万円。

それから、飯岡エリア、給水未普及地区の解消配水管布設工事ということで三川地先になります、672万円。それから、配水区域変更に伴う配水管布設工事ということで、これが後ほど計画書の方で説明いたしますけれども、関連する4つの施設を一体化するための初めての工事になりますけれども、配水区域変更に伴う配水管布設工事、2,895万2,000円。それから、緊急応援連絡管、やはり関連いたしますけれども514万3,000円。それから、消火栓の新規設置でございますけれども、三川地先、119万2,000円。

それから、最後に干潟エリアになりますけれども、干潟エリアにその他緊急対応工事とし

て250万円を計上してございます。これが拡張工事に伴う主な内訳でございます。

続きまして、加入率、普及率でございますけれども、前々お話し申し上げているとおりですけれども、現在、旭市の水道事業につきましては普及率が76%ということで、全国平均が97%ということで非常に低くなっております。したがって、普及促進をする。市長の提案理由でも申し上げましたけれども、普及率を向上させなければいけないという大きな課題がございます。加入者に対する助成ということなんですけれども、現状におきましては検討してございません。

ただ、現在も年間でだいたい数件あるんですけれども、新規加入者が。その新規加入者の中にも引き込みをしてある方が当初加入金を払ってあるということで、ただメーターは付けていません。すなわち、最終的には加入していないということになるんですけれども、1,000件ちょっとございますので、まずそちらの方から進めなければいけないのかなというふうに思っております。

以上、2点についてのご回答ということでよろしくお願ひしたいと思います。

○委員長（高橋利彦） 明智委員。

○委員（明智忠直） 去年も水道課の方で検討するというような話の中で、今1,000件をうちのところまで引いてある、そして加入していないという人が1,000件以上あるということで、その普及をまず第一に考えなければということでもありますけれども、どうしても水道を引きたいというようなことの中で、本管から五・六十メートル舗装を壊してやるというようなことの中で大変な出費がかかるわけですね。それに対して少し検討していきたいというような話も昨年していたように記憶しておりますので、ぜひそこら辺もこれから内部でひとつ煮詰めてできるだけ少しでも補助を、どうしても引きたいという方がいると思いますのでその辺も一緒に普及の方でも考えていただきたいと、そのように思いますけれども、よろしくお願ひします。

○委員長（高橋利彦） 水道課長。

○水道課長（堀川茂博） ただいまの明智委員のお話のとおりなんですけれども、私どもの方でも新規加入者が将来加入者の場所にもよりますけれども、将来うちの方の停滞水の解消あるいはループ化等に非常に効果的な場所であるということが分かれば、それらも含めて地域の区長さん方とも話し合いの上、そういう場所であれば管を延長していきたいというふうに思っております。

以上でございます。

○委員長（高橋利彦） 明智委員。

○委員（明智忠直） その補助の問題ですけれども、原則の条件というようなものは一応水道課の中には原則的な部分の補助対象者というようなことがあると思いますけれども、その辺はどのような状況になっているのかももう1回聞きたいと思います。

○委員長（高橋利彦） 水道課長。

○水道課長（堀川茂博） 補助金につきましては、当初以来、全く要綱等についても特に規定はございません。したがって、現状ですと新規加入したいということであれば加入金10万5,000円、20ミリですけれども、それと引き込みに関係する、先ほど委員おっしゃいました舗装を壊して、それから布設して復旧するというような費用もすべて個人負担となってまいります。

したがって、先ほど私の方から申し上げましたのは、場所によっては水道管をつないだ方が停滞水の解消になる、あるいは圧力の効果があると、ループ化することによって。そういう場所については地域の皆さんと話し合いをして進めたいということで、補助金につきましては全く現時点では補助の制度はございません。

以上でございます。

○委員長（高橋利彦） ほかに質疑ありませんか。

嶋田委員。

○委員（嶋田茂樹） ただいま課長の方から拡張工事、ループ化の問題もありましたけれども、ちょっと海上の件で岩井地先に624万円という予算が計上されているようでございますけれども、昨年でしたか、実は岩井地先の東部地先におきましては非常にパイプを延長するには経費がかかるというような関係の中、銚子地先から水道管を布設してもらった方が経費が安くて済むんじゃないかなというような話の中、銚子市の水道管の大きさあるいはそういうことを調べまして、どのようにできるかというような観点で話し合いを進めて聞いてみるというようなこともちょっと水道課の方であったものですが、その辺はどのようにになっているのか、この予算に反映しているのかどうか、それをちょっとお聞きします。

○委員長（高橋利彦） 水道課長。

○水道課長（堀川茂博） まず初めに予算書の関係ですけれども、これの岩井地先につきましてはループ化の関係でございます。次に、岩井東部につきましては委員おっしゃるように、合併前から岩井東部につきましては要望がございまして、ただご存じのように水道事業につきましては本来給水区域というものが行政区域ごとになっておりまして、ただ緊急連絡管等

については、これは緊急でございますので現在匝瑳市とか何か所かやっておりますけれども、銚子市につきましては現在つないでありません。委員おっしゃる内容の銚子市の配水管を旭市の方につなぐということになりますと、これは公然とはできない話になりまして協議ということになるかと思っておりますけれども、それらにつきましても十分今後視野に入れて新年度に入りましてから銚子市と協議したいというふうに思います。

以上でございます。

○委員長（高橋利彦） そのほかありませんか。

（発言する人なし）

○委員長（高橋利彦） 特にないようですので、議案第7号の質疑を終わります。

続いて、議案第8号について、病院より補足して説明がありましたらお願いいたします。

病院経理課長。

○病院経理課長（鍋木友孝） 私の方からは、この前説明が足りませんでした予算書の方の第9条でありますけれども、重要な資産の取得及び処分というのがございますので、これにつきまして補足説明をさらにさせていただきたいと思っております。

予算書の5ページであります。

こちらの方ですけれども、ここに掲載するのは1件2,000万円以上というのが決まりになっております。まず、器具備品の一番上にあります全自動ジェットウォッシャー超音波洗浄装置でありますけれども、一応参考価格としましては4,700万円ほどかと思っております。これの内容でありますけれども、これは新規に増設をするものでありまして中央洗浄滅菌室にて医療機材を洗浄するためのシステムであります。

その次の2番目の透析患者管理システムでありますけれども、一応参考価格としましては3,250万円ほどを見込んでおります。この内容でありますけれども、こちらの方は新規に購入するもので透析部門のシステムであります。透析と電子カルテの方を接続するシステムであります。

それから、次の3番目の循環器系エックス線診断装置でありますけれども、こちらの方は参考価格としましては1億6,000万円ほどを見込んでおります。こちらの方ですけれども、更新でありまして循環器系の血管の撮影装置でありますけれども、虚血性心疾患でありますとか心不全などの循環器系疾患のカテーテルの検査でありますとか治療をする際に使用する装置でございます。

それから、次の4番目のCARTOシステムでありますけれども、こちらの方は参考価格としま

しては4,600万円ほどを見込んでおります。こちらの方ですけれども、新規に購入するものでありまして不整脈の診断、治療を目的としました装置でございます。

それから、その次の多目的デジタルエックス線システムでありますけれども、一応参考価格としましては5,500万円ほどを見込んでおります。こちらの方は更新でありまして、透視を必要としました内視鏡検査、治療を行う際に使用する撮影装置でございます。

それから、今度は開発費でありますけれども、注射レジメン機能適応ソフトとしまして、一応参考価格としましては5,000万円ほどを見込んでおります。こちらの方も新規でございます。抗がん剤などの注射を使用するときにさまざまな情報を提供して診察を支援するソフトでございます。

私の方からは以上でございますが、ご質問を承りたいと思います。よろしく申し上げます。

○委員長（高橋利彦） 病院の説明は終わりました。

議案第8号について、質疑がありましたらお願いいたします。

明智委員。

○委員（明智忠直） 病院関係で何点かお聞きしたいと思います。

まず、昨年からのいろいろな問題になっております取得する財産やら今説明がありましたそういう問題についての契約の方法を随契が90何%くらいだというようなことでありまして、そこら辺が少しでも、それは病院の器具とか、そういうものについて応分の方法で、適当な方法で契約するというのも納得ができるわけですけれども、少しは検討して随契から入札制度とか、そういうものになったのかどうか、そこら辺の全体のパーセンテージとか、そういうものも分かっていたら教えていただきたいと思います。

それから、8ページでありますけれども、取り立て不能欠損の、これはあるという、項目にありますけれども、その主な要因は医業外費用の雑損失、取り立て不能欠損金、これがどうというような大きな原因があるのか教えていただきたいと思います。また、その対策としてはどのような方法をとられているのかどうか。

それから、人材派遣の問題でありますけれども、今年はまだ2年目が過ぎるわけでありまして、3年契約というようなことで今後の問題としての入札を実施する考えがあるのかどうか。19年、20年で人材派遣のことに入札を希望している業者があるのかどうかも教えていただけたらと、そんなように思います。

それから大きな問題、建設改良費ですけれども、これはまた詳しく説明があろうかと思っておりますけれども、10ページにまとめて建設改良費というようなことで工事費6億288万5,000円

がありますけれども、せんだって公営企業の中で看護学校の修了式に参加させてもらいました。ある程度の説明は聞いたんですけれども、看護師の宿舎の新築、看護学校改修工事、再整備事業基本設計、それらのものについて個々の予算配分がどうなっているのか。それから、具体的な年度はどのくらいの期間をかけてやるのかというようなことを詳しく説明をいただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

以上です。

○委員長（高橋利彦） 病院用度課主査。

○病院用度課主査（片見武寿） それでは、契約件数についてご説明申し上げます。

18年度の契約、これまでの契約件数なんですが、昨年度から一般競争入札、指名競争入札の方に移行しようということで今年度より進めております。実際の件数なんですが、現在までのところ一般競争入札が29件、これは主に医療機械で行っております。指名競争入札が17件、随意契約が143件という形になっております。

以上です。

○委員長（高橋利彦） 病院経理課長。

○病院経理課長（鍋木友孝） 現在の不納欠損、その一連の請求方法とか現状でありますとか、その対策についてお答えさせていただきます。

現状でありますけれども、新たに新規で1日2件の患者様が発生しております。それで、退院時に支払いが困難な患者様の相談をいろいろ受けているわけがございますけれども、その時に患者様の状況から分割払いでありますとか支払い方法を提示していただきまして、期限を設けさせていただきまして念書をとっております。その支払いが終わるまでは私どもの管理下に置くということでもありますけれども、1日なんですけれども、だいたい相談とかも含めまして20件くらいの業務を行っております。その中には振込の入金でありますとか電話での問い合わせ、面談、それからさまざまな督促行為がありまして1日20件からだいたい30件くらいを行っております。その累計でありますけれども、900件余りございます。患者様の支払い、要因ですけれども、支払いの意識の低下というのが一番の原因かなと。その次に経済的な理由がついているのかなと思います。こちらにつきましても年々増加傾向にございます。

その対策としましてですけれども、ソーシャルワーカーが早い段階から相談に入っていたいておりまして、未収の防止というか、そこら辺を行っております。患者様が入院した際ですけれども、問題があればすぐソーシャルワーカーが相談に乗れる体制を作っております。

て、このことによりまして早期の生活保護制度の申請でありますとか、患者様の状況を把握することができまして未収になる患者さん、どっちみちなる患者さんであっても金額を低く抑えられるというふうなことがあろうかと思えます。今、常時2名の専門の督促の職員を雇用しております。そのことも専門的な業務でありますので功を奏しているのかなと思えます。

そのほかにでありますけれども、少額訴訟制度というのがございまして、こちらの方は金額が少ないわけですけれども、実際今のところ2件行っておりますけれども、これからもどんどん進めていきたいと考えております。

そのほかに、さらにですけれども、18年度からそこら辺を管理するソフトを作っております。入金面の面談のスケジュールを組んだりでありますとか、そういうようなことに役立てております。本来よその病院を見ますと規模の割には多いなと感じるんですけれども、私どもの方は以前、もう20年近く前から外国人の患者様とかが入り出しまして、そこら辺の対策は早目に打っていたつもりでございますので、規模の割には状況としましてはよろしいのかなと思えます。この件につきましては……（聴取不能）……。

○委員長（高橋利彦） 人材派遣。

病院用度課主査。

○病院用度課主査（片見武寿） それでは、3番目の派遣の問題についてお答えをいたします。

19年度なんですが、契約については継続という形でいきたいと思っております。現在のところ他社からそういうアプローチがあるかというご質問なんですが、今のところ他社からのアプローチはございません。

以上です。

○委員長（高橋利彦） 病院経理課長。

○病院経理課長（鍋木友孝） それでは、最後にご質問いただきました建設関係につきましてその概要とか、そこら辺をちょっとしゃべらせていただきますけれども、ちょっとお待ちくださいませ。順序が不同になってしまいますけれども、まず看護師宿舎の新築事業につきましてであります。その必要性でありますけれども、看護師宿舎の老朽化と設備不備のために看護師自らが賃貸住宅アパート、それに契約して入居している方が多くいらっしゃいまして、それで夜間、特に深夜であります。通勤の利便性とか欠如があります。そして、防犯上の問題もあります。ということで、また看護師の離職率が増加しております。その辺から看護師を確保するためにも必要と思われま。

それで、建設費でありますけれども、32戸であります。4階建てで1階当たり8室。それで32戸を予定しております。設計監理料、消費税も含めまして建設費の方ですが、2億6,103万円であります。この予定地でありますけれども、第1医師マンション、こちらの方ですけれども、こちらの方が老朽化しております関係もありまして、これを解体いたしましてここに建設したいと考えております。こちらの方の解体費用でありますけれども、787万5,000円を見込んでおります。これに当たりまして、アンケート調査を独身の看護師にいたしました。その中で現在アパートに入居している人が23名おりまして、希望しているというような状況です。それから、実家から通勤している人が62名いるようでございます。

以上でございます。ちょっとお待ちくださいませ。

看護学校の2クラス化の改修工事の関係でございます。当医の看護学校でありますけれども、看護師確保とそれから質の向上を目指しまして昭和39年に2年生課程として開始したものでありますけれども、その後3年課程に変更いたしました。それでなんですけれども、そのまま現在に至っているわけでありまして、今回どうしても今の看護師の確保というような関連でこちらの方も2クラス化を行いたい。実際は、19年度の予算で改修いたしまして県にも申請をいたしまして20年度ですか、そこから2クラス化にしたいと考えております。今、定員40名なんですけれども、30名で2クラス化で60名にしたいと考えております。

内容でありますけれども、4階、大講堂があるんですけれども、ここを教室に変えたいと思います。それから、3階の物理化学教室を情報科学教室、コンピュータ関連のお部屋です。学生がコンピュータを操作するというような部屋です。それから、3階のコンピュータ室ですけれども、それを教員室でありますとか在宅老年看護実習室というふうに変えたいと思います。それで、こちらの方の費用でありますけれども、改修工事、設計監理料、それから消費税を含めまして4,754万9,250円でございます。

それから、再整備事業でございますけれども、数字的なものだけをちょっと私の方から言いますけれども、今回、基本設計料としまして9,500万円。それから、消費税が475万円ございますので全部で9,975万円になります。その積算でありますけれども、工事費本体の見込みをおおよそ200億円程度と考えまして、そこからの逆算になりますけれども、設計監理料の見込みですけれども、工事費の見込みの3.09%で6億1,760万円で、その基本設計料になりますので15.4%になりまして全体で9,500万円というような積算でございます。

以上でございます。

○委員長（高橋利彦） 明智委員。

○委員（明智忠直） 何点かちょっとお聞きしたいと思いますけれども、不納欠損の対策としては万全にやっているというような話も聞きましたけれども、全体でどのくらい年間不納欠損額が生じているのか。不納欠損の基準というのはやはり税と同じで5年ぐらいの取り立てができなかったのを不納欠損にするのか。そこら辺の基準というものがあつたら教えていただきたいと思います。

それと、大きな問題として再整備計画でありますけれども、この問題は市としても全体で考えなければならぬところもあるし、病院の経営としても考えなきゃならない問題もあろうと思いますけれども、きのう、5日と7日の一般質問の中でも話がありましたように再整備、今この時期に200億円、実質公債費比率もかなり今グレーゾーンというような部分の中で市の全体がある中での建設計画でありますので、慎重の上にも慎重でやっていかなければというようなことがあります。資金計画や財政推計といいたいまいしょうか、病院単独のそういった経営の問題についても少し詳しく聞かせていただけたらと。どのくらいの病院の全体の中での債務償還をしていくのかというような部分も病院内部だけでもあろうと思いますので、市の全体でなくて病院側の部分での返還計画やら資金計画、そういうものもちょっと教えていただきたい。

それともう一つは、やはりこの問題、今、東総地域広域医療連絡協議会みたいなのが立ち上がったというようなことの中で、これから先いろいろな部分で協議をするわけでありませうけれども、前の一部事務組合的な部分でやるのか東総地域が公立病院を統合してやるのか、そこら辺も視野に入つての計画なのか。今この病院を建てて、それで銚子市、匝瑳市、東庄町、それを吸収合併するのか。そういった部分もだいぶ引かかる部分、経営統合というような部分と組合立病院というような部分も東総広域の連絡協議会の中で話し合つていくわけでありませうけれども、そこら辺の病院側の考え方としては最初に病棟を新築しちゃうのか、そこら辺のところの微妙な問題があろうかなと思いますけれども、その辺をもう少し病院側の姿勢、方針、そういった部分も聞かせていただけたらと思いますけれども、よろしくお願ひします。

○委員長（高橋利彦） 病院経理課長。

○病院経理課長（鏑木友孝） それでは、私の方から最初の未納、不納欠損にする基準でありますとか、そこら辺のことをちょっとご説明させていただきます。

以前は時効というのが5年であつたわけなんですけれども、実は一昨年11月に時効に対する最高裁の判決がございまして3年というふうになつております。それで、基準というの

は相手方が債務を確認しているというような状況の間は時効にはいたしません。一応、今まで5年で一律にしていたんですけれども、徐々にこれから3年というようなことになってきましたので、徐々に短くして今はその調整期間であります、最終的には3年というふうなことにしたいと思っておりますけれども、基本的には相手方が債務を確認している間は、つまり入金をしてくるとか、そこら辺のことをやりとりしている間は時効にはならないので不納欠損から落とすということはいたしません。

19年度の予算でありますけれども、その他雑損失の中に3,183万5,000円が含まれております。こちらの方ですけれども、日本人の方が99名で2,245万8,924円、それから外国人の方が16名で937万5,856円であります。どれも先ほどお話ししました担当者の方からもいろいろ請求とかするんですが、ほとんどがもう要するに転居しちゃいまして、それでその後例えば市役所ですとかいろいろなところにその後の調査をお願いしてどこに転出したかとか、そこら辺も行っているんですけれども、こちらの方につきましてはほとんどが今もう分からなくなっちゃったと。外国人につきましてもそのような状況であります。未納に関しましては以上でございます。

○委員長（高橋利彦） 病院事務部長。

○病院事務部長（今井和夫） 再整備計画の関係のお尋ねでございますけれども、病院統合と申しますか、そういった協議との関連でのお尋ねということですが、旭中央病院というのは私よりも皆様の方がよくご存じかと思っておりますけれども、今まで時代のニーズを先取りしたような形で、ある意味で先行投資のような形で病院整備が過去50年間にわたって行われてきたかと思っておりますけれども、そういった先見性を持った経営の中で今日のような姿になっているというのがよその病院との大きな違いだろうというふうに認識しております。再整備計画につきましては議会でもご説明いたしましたけれども、耐震強度の問題というのも一番大きな要因でございますけれども、それ以上にやはり分散した診療機能を集約すること、そして効率的な診療機能を確保し、病棟配置も適正なものにするというのが一番のねらいでありますし、急務になっているというふうに考えております。

そして、統合との関係、統合というのはどういう形になっていくのか分かりませんが、いずれにしてもそういった協議を進めていく際にもあくまでも今新聞報道等でご案内かと思っておりますけれども、例えば先般は成東病院、今度は銚子市の市立病院も内科医が非常に拮据していきというふうな話も聞いておまして大変危機的な状況になってきているわけで、そういった中でこういう協議を進めていくというのはやはり一にも二にも旭中央病院の経営

が良好であるということ、病院経営がうまくいって診療機能が確保されているというのが一番の前提であろうというふうに思っております。

したがって、そういうことを考えていくとやはり院長が一番心配していることでもございますけれども、中央病院の基盤をより強固にしていくということがそういったもろもろな連携を進めていく上での出発点といいますか大前提であってそれなくしては、要するに弱い者同士だけでは幾ら集まっても自立できないと。やはり確固たる病院経営をする中核になる病院があつてこそその協議だろうというふうに考えております。

今回の統合というんでしょうか、医療連携の話し合いというのは千葉県も補助金をくれるそうですけれども、ある意味では全国に先駆けてのモデルケースでもございますので、そういったことも念頭に置きながら県・国とも今後協議もしてまいりますし、そういった指導のもとで計画を進めていきたいというふうに思っております。

したがって、先ほどのご質問の中で一部事務組合なのかと、どういう形になるんだというようなこともございましたけれども、経営の将来の姿というのは私どもにも分からないわけで、今後の議論を待ちたいというふうに思っております。

それから、病棟の整備計画の詳しい内容ということでございます。これは後でまた時間をいただいて詳しく別途ご説明させていただきたいと思っているんですけれども、よろしゅうございましょうか。

内容については、また詳しく説明させていただきますが、ごく大きなところだけかいつまんで今申し上げますと、現状での病院再整備事業費の予想額というのはトータルで病棟の建物以外の経費もいろいろかかりますので総額でおおよそ300億円前後というふうに想定しております。この資金の調達につきましては、現時点では自己資金を除く200億円から210億円程度を起債に頼るといふ形になるというふうに考えております。これまで建物関係というのは、これも議会の質疑の中でお話させていただきましたけれども、充当率100%ということで政府資金が満額これまではついていたわけですが、例えば今年度の電子カルテの関係なんかは、実は一部もう民間資金といいますか縁故資金の配分がされてくるようになってきて、建物についてはやはり来年度以降、必ずしも100%ではない時代が遠からずやってくるというふうに見ておまして、したがって1点は例えば75%を政府資金、残りの25%を銀行等の融資という場合はどうなのかと。あるいはさらに充当率50%だったらどうかというようなケースを幾つか分けまして試算をいたしまして、いわゆるシミュレーションをやってみましたけれども、多少の短期資金調達の可能性はございますけれども、病院側としては

経済性があるというふうに考えております。

それから、一番ご心配になるのは要するに一般会計から持ち出しが増えるんじゃないかというふうなご懸念あるかと思えますけれども、私どもの試算では特にそういうことはなく、病院の公営企業の会計の中でやりくりができるという試算をしております、そういう意味では現時点で着手させていただきたいというのが病院側の考え方でございます。

○委員長（高橋利彦）　じゃ、議案の審査は途中でありますが、ここで10分まで休憩します。

休憩　午前10時54分

再開　午前11時15分

○委員長（高橋利彦）　休憩前に引き続き会議を開きます。

議案第8号の質疑を行います。

林七巳委員。

○委員（林　七巳）　看護師寮の新築工事についてお聞きいたします。

今現在、看護師寮、それから医師マンション、それから職員宿舎、何室あって何室あいているのか。

それから、いただいている金額は幾らくらい1室当たりいただいているのか。

それから、医師マンション及び看護師寮にほかの人が入っていないのか。そこのところを文書でもしあれだったらいただきたい。分かれば答弁でいいんですけども、間違っていたら困るからよく調べてお願いいたします。

○委員長（高橋利彦）　分かる範囲での答弁をお願いします。

病院経理課長。

○病院経理課長（鍋木友孝）　それでは、私の方から幾らもらっているかというのを申し上げます。最高が医師マンションでありまして月ですけれども、月額1万1,500円が最高であります。最低ですけれども、6,500円、職員宿舎の、看護師とかですね、6,500円です。

看護師寮でありますけれども、最低がちょっと粗末と言ったらあれなんですけれども、部屋がありまして、それが3,500円で最高でありますけれども、6,500円であります。

○委員長（高橋利彦）　病院整備課長。

○病院整備課長（永嶋英和）　医師マンション、看護師宿舎等の部屋数の件なんです、ちょ

っとぴったりした数字を把握していませんもので後日。

それと、あいている部屋の関係ですが、今現在、もう3月末に離職する人、看護師、医師ということで徐々にもう既に申し出、看護師等出ている関係がございまして、数字もきょう現在把握してございませんもので至急調べて委員の方に提出したいと思います。

以上でございます。

(発言する人あり)

○病院整備課長(永嶋英和) すみません、答弁漏れがございまして申し訳ございません。

宿舎に関して若干古い建物においてコメディカルというか検査技師等が入っている部屋がございまして。この辺も何名云々ということで調べて文書でご報告したいと思います。

以上でございます。

○委員長(高橋利彦) 林七巳委員。

○委員(林 七巳) 看護師宿舎ですか、それと医師マンションについては結局即対応できるという面から敷地内に居住地区が欲しいという、そういう要望は分かりますけれども、違う人が入るとことはまず宿舎に入る緊急性が無いわけですよ、要は。医者だとか看護師というのは緊急性があるからすぐ対応できるところに入るわけですよ。それ以外の人に混在して貸すということは先ほど言われたのからちょっと外れるんじゃないかと思いますが、その辺はどなたがお貸ししたのか。そういったお貸しするときにどういう委員会があるのか。

また、それから金額を決めるにもよくこの間も国で物すごくかけ離れた安く貸しているというあれが指摘されましたが、一般市民からこの金額で納得がいく金額なのか、その辺を。ましてこういう何億円と毎年かけてやっているわけですから、その辺の答えをお願いしたいんですが、よろしく願いいたします。

○委員長(高橋利彦) 病院事務次長。

○病院事務次長(伊東一直) 医師、看護師以外の者が入居しているというのは今整備課長が申しあげましたけれども、いわゆる技師を入居させております。これの理由については、24時間対応の必要性ということから入居させております。といいますのは、24時間、救急もやっていますし入院患者も持っていますので、それらの急変に即対応するために宿舎というのは用意してあるわけですので、医師、看護師に限らず検査技師、放射線技師あるいは人工透析をやります臨床工学技師、夜間即対応ができるといったような意味で入居をさせております。ですから、宿舎には今医師宿舎と看護師宿舎の料金等の話をしましたけれども、それ以外の者も入れるということで職員宿舎という名目で建築したのも存在しております。

それから、家賃につきましてはあくまでも24時間対応ということで半ば強制的に住まわせているという意味もあります。医師については、もう初代の諸橋院長の時代から全部病院の構内あるいは隣接地に住めと、それが条件だということをおっしゃいました。

また、看護師につきましても原則宿舎に空きがあれば宿舎に入らせていただくと。ただ、本人の希望によって自宅から通いたい、あるいはアパートから通いたいという方があればそれはそれでよろしいといったことになっておりますので、家賃の設定は一般のアパート並みに取るということとはしていません。

これ、ちょっと筋が違うかもしれませんが、税務署の方からは部屋代を安く設定するといわゆる現物給付ということで課税対象になるんですけども、これは何回も税務署の税務調査が入ったときにも救急対応、24時間対応ということでこれは非課税でよろしいといったような承認も持っておりますので、低い料金の設定が一概にまずいということにはならないかと考えております。

以上です。

(発言する人あり)

○病院事務次長（伊東一直） 宿舎を建てた時期がもうそれぞれ違いますので、その建てた都度、古い新しい、設備のよしあしで事業管理者の権限で金額を決めているということです。

○委員長（高橋利彦） 林委員、よろしいですか、それで。

明智委員。

○委員（明智忠直） 先ほどの質問の中で少しちょっとお聞きしたい部分がありますのでもう1回お願いしたいと思いますけれども、人材派遣の問題ですけれども、人材派遣、たしか昨年からは始まったわけですが、1年契約と3年契約の会社があったわけですね。それで、今年、今聞いたところ継続ということで全然入札の問題とか、そういうものを受け付けていないと、継続してやるというような話があったんですけども、1年の契約の部分の中で入札をして透明性を持たせる、そしてまた人件費の削減といういろいろな部分で人材派遣に移行したわけでありまして、そうした透明性の中で1年契約の部分の人材派遣会社の問題については、今年は全然病院側としては受け付けはなかったんでしょうか。それとも、そういうアプローチがどこの会社からも来ていなかったのか、それとも病院側で継続をするんだから今年を受け付けないというような部分があったのかどうか、そこら辺ちょっと聞きたいと思います。

○委員長（高橋利彦） 病院事務部長。

○病院事務部長（今井和夫） 私のところには、担当からは特にそういうアプローチがあったという報告は受けておりません。

それから、透明性云々ということをいろいろ議会でもご議論もいただきましたし、ご指摘もいただきましたし、ありますけれども、やはり実際にお勤めいただいている方の身分の安定性だとか、そういうことを考慮して私どもとしては特に今のところほかの事情がなければそういった契約を更新していきたいとは思っておりますけれども、これはあくまでも議会の中でいろいろご議論いただいたことですので、例えば常任委員会でこうだというふうな一致した皆様方のご意見があればそれを尊重して検討することにやぶさかではございません。

○委員長（高橋利彦） 明智委員。

○委員（明智忠直） 1年契約の会社について今年は当然更新の手続をすると思っておりますけれども、その時に新たな会社が参入したいというようなことであればやはり入札というようなことにするのか。それとも、1年契約を更新しながら3年間は安定的にその会社にやってもらうというようなことになるのかどうか、そこら辺の見解もちょっとお聞かせをいただきたいと思っております。

○委員長（高橋利彦） 病院事務部長。

○病院事務部長（今井和夫） 他に申し入れがあったからやるとかやらないとかということではなくて、やはり実際にお勤めいただいている方の身分の安定というのが第一義的にやはり尊重していかなくちゃいけないだろうという観点から契約更新したらどうかというのが今のところの私どもの考え方でございまして、ほかにそういったやりたいという会社があればそれは大変結構な話だと思いますし、今後行うことについては、これは昨年来いろいろご指摘をいただいたことでもありますのでやはり例えば入札であるとか、そういうふうな透明性の高い形でやるのが一番適当だというふうに考えております。

○委員長（高橋利彦） 議案第8号、質疑の途中でございしますが、病院の整備事業計画、この質疑に大きな意味合いを持っておりますので、ここで質疑途中ですが、協議会に切り替えたいと思っておりますので、議員の皆さん、いかがでしょうか。

林委員。

○委員（林 一哉） 議案の審査でございしますので、委員長はどう考えているか分かりませんが、一応これを中断するとか、そういう形で後で議案を後回しにするとか、そういう考えならいいですけれども、ここで協議会という意味合いがよく私、分からないんです。ですから、この議案を一応ストップして後回しに、きょう5議案ありますから。後でという

ような形ならばいいと思いますけれども、協議会という自体、私ちょっと意味が分かりませんので、その点よろしくをお願いします。

○委員長（高橋利彦）　じゃ、議案第8号はこれで中断して、それで次の審査ということにしたいと思います。

それでは、続いて議案第9号について、飯岡荘より補足して説明がありましたらお願いいたします。

飯岡荘支配人。

○飯岡荘支配人（野口國男）　それでは、補足説明をさせていただきます。前回の会議での追加しての説明ということでございます。

本日お配りしております事業計画を見ていただきたいと思います。A3の大きい紙になります。私の方は19年度と20年度、2か年で施設改善事業、それとそれに伴います経営改善事業をお願いしたいと思います。改修のイメージ図につきましては、前回の全員協議会の方でパース図をお配りしておりますので、その概要についてはご承知のことと思いますけれども、本日はもう少し踏み入れましてご説明させていただきます。

1つは、リニューアルをするわけですが、そのコンセプト。それと改修の詳細なイメージですか、この辺を説明させていただきまして、その後、工事の概要。そして、工事を行いますけれども、経営改善といいますか、いわゆるソフト面での改善も必要ということで経営改善の概要。それと、最後に起債を起こしますので経営収支のシミュレーションということで説明させていただきます。

それでは、1ページ目を開けていただきましてコンセプトとありますけれども、かねてから市長の方で食の郷ということで進めておりますけれども、やはり飯岡荘におきましても食を前面に押し出しまして食彩の宿へと変身をしていきたいというふうに考えております。今回のコンセプトにつきましては、料理がおいしいおしゃれな海浜リゾート施設ということで1つ挙げておりますけれども、いわゆる今までのお客さん、いわゆる土曜日等の休前日と、それと夏季シーズン等のシーズンですが、ここは実は安泰なわけでございます。それ以外で何とか来ていただけないかということで、熟年のご夫婦あるいは50歳から60歳の女性をターゲットにしていきたいというふうに考えております。

宿泊料金につきましても施設と、それと接客のサービスを上げますので1万円から1万3,000円程度を予定しております。

次に、イメージの方ですが、2ページ目をあけていただきたいと思います。

まだ基本設計ができておりませんので、こういったイメージで改修をしたいということでございます。まず、外観ですけれども、やはり第一印象が大切ということでリゾート感を演出するためにサンドカラー等を活用したいというふうに思っています。

それと、やはり公共の宿ということで人的サービスが非常に難しい面もありますので、やはり玄関の方は車寄せというような形で新たに設置いたしまして、施設の方で人的サービスをカバーしたいというふうに考えております。それと、カウンター、ロビー周りにつきましても十分目配り気配りができるような、そういう配置にしたいと思えます。また、ソファ等のロビーにつきましても優しさとか、そういったぬくもりを感じるような表現を出したいなというふうに思えます。

それと、現在の食堂ですけれども、これはラウンジスペースというような形になりますけれども、右の上の方ですけれども、外にデッキテラス等も出してみたいなというふうに思えます。

それと、次の3ページ目ですけれども、現在の1階の大広間をダイニングというふうな形に変えていきたいというふうに考えております。リラックスして食事をしていただけるようなレイアウトを考えておりますし、肝心の食につきましてもただ来て並べるのではなくて、食べたくなるような演出もしてみたいと思えます。

右側が客室の方のイメージになっておりますけれども、東側を洋室、西側を和室ということで内装を変える予定になっております。シンプルで清潔感があるような空間をイメージしております。それと、現在付いておりませんが、全室にユニットバス等を付ける予定でございます。

次のページ、4ページ目ですけれども、どのような改修をするかということで施設の改善計画でございます。19年度につきましては、今申し上げましたダイニングルーム、食堂の改修と玄関の車寄せ、それと外壁工事が主な内容でございます、これに伴います家具等も新設する予定でございます。

平成20年度につきましては、ただいま申し上げました客室の方を改修したいと思っております。現在39室、全室和室ですけれども、改修後は和室を12室、洋室を18室ということで30室になる予定でございます。

総事業費につきましては、一応2億5,252万5,000円を予定しております。

次の5ページ目ですけれども、施設の改修に伴いましてやはりソフト面も改善していきたいということで、民間でいいます開業コンサルティングを行いたいというふうに思っております。

ます。大きく6つ挙げておりますけれども、一番の改革につきましては料理改革でございます。真ん中に挙げておりますけれども、調理面につきましては料理長をホテル・旅館の専門の人材バンクの方から採用したいというふうに思っておりますし、料理につきましてはフードコーディネーターという部門があるそうですけれども、四季折々の旭市の食材を使ったメニューを作りたいというふうに思います。

それと、現在、営業面が非常に薄いわけですが、やはり同じ人材バンクから営業担当を採用いたしまして営業面につきましては民間の経営手法を十分取り入れた営業体制を整えていきたいというふうに思っております。

それと、かねてからご指摘いただきます従業員教育につきましても専門の講師を呼びまして充実した体制を作りたいと思います。

それと、名称の変更とございますけれども、やはり食彩の宿に180度方向転換をするというような考え方もございまして、ぜひ名前も変えてみたいということでございます。これは国民宿舎運営委員会におきましても同様の意見をいただいておりますし、やはり変わったというイメージを作るためにも名称の変更については必要かなと思っておりますし、実際には公募するような形をとりたいと思います。

それと、料金の体制につきましても現在基本料金7,200円ですが、これから説明いたしますけれども、1万円前後を予定しております。

それでは、次の最後のページですが、起債の方を2億3,290万円、2か年で起こすわけですが、そのシミュレーションを实はしております。まず、左の上の方ですが、売上原価とございますけれども、宿泊客につきましては一泊二食、3年度目、工事が終わった次の年ですが、1万1,500円程度の平均単価を見込んでおります。それと、日帰り客につきましても宴会から入浴を含めて6,980円、これを見込んでおります。

下の方の表が稼働率になっております。現在の稼働率、約60%ありますが、部屋数の方が減ってきますけれども、3年度目で一応65%の稼働率を見ております。

それと、真ん中の売上高、今申し上げました売上原価と稼働率を合わせました売上高をここに載せております。それを起債の償還等々を合わせまして資金計画が右側の表になっております。一番上が売上高ですが、営業収支計画につきましては10番目に当期純利益を載せております。下の方が資金収支計画になっておりまして、④、⑤、⑥の記号を振っておりますけれども、⑦のところは差引累計残高とありますが、これが余剰資金といえますか、これだけ資金が残るといような計算でございます。これは8年度目で2億3,500万

円残るといふ計算ですけれども、実際は再投資分がここに含まれておりません。したがって、再投資は必ず必要になってまいりますので、この中から再投資分を見出していくというようなことをごさいます。

それで、最後になりますけれども、あくまでも国民宿舎経営、独立採算ということで、この表でいきますとかなり楽な形になりますけれども、売上がこれだけでももちろん期待をしたいわけですけれども、この事業につきましては従業員ともどもこの表になるような形で頑張りたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

以上で補足説明に代えさせていただきます。

○委員長（高橋利彦） 飯岡荘の説明は終わりました。

議案第9号について、質疑がありましたらお願ひします。

佐久間委員。

○委員（佐久間茂樹） 1点だけちょっと。値段、一泊二食で今7,000円から8,000円でしたっけ。来年が改修した後、8,960円、その次が1万960円、3年度が1万1,500円というふうに予定されていますけれども、3年度の間はかなり上昇していくわけですけれども、とらぬタヌキの何とかじゃないですけども、ほかの一般的な相場というのはどうなんですか。建て替えてこのくらいのホテルだからこれで十分この宿泊人数を確保できると、その辺の見通しというか自信というか、大変でしょうけれども、頑張るしかないんでしょうけれども、ちょっとお聞かせ願えればと思います。

○委員長（高橋利彦） 飯岡荘支配人。

○飯岡荘支配人（野口國男） ご指摘いただきましたので、実は国民宿舎運営委員会の方でも出ておまして、お答えさせていただきます。

実は、この調査計画ですけれども、JTB商事というところにお願ひしたわけですけれども、実はもう少し施設の方でお金をかけたかったわけですけれども、やはり2億5,000万円程度が適当かなということで私の方、最初から踏んでおまして、やはりこれ以上は少し無理が来るんじゃないかなというようなことを考えておりました。

それで、国民宿舎運営委員会もほぼ毎月やっておりますけれども、その都度JTBの方からトレンド情報といいますか、現在こういう形で旅行の傾向があるよというようなことを発表させていただいておりますけれども、やはり特徴のある宿舎しかはやっていないんですね。そんなことで、これだけの食がそろうわけですので新しい総料理長を迎えまして専門のデザイナーを使った料理も開発をしてみたいと思いますし、営業面につきましてもやはり今まで

ほとんど民間に準ずるような営業はしておりません。そんなことで、営業マンも人材派遣の方から実は来ていただくということで、総合的に進めないとただ料理だけよくしても駄目じゃないかなというふうに考えております。

それと、やはり官庁が運営しますので消費税以外は取られないわけですね。そこで、一番最初に申しあげましたように、やはり料金に値ごろ感が無いとこれはちょっと無理じゃないかなということを考えておりまして、この設定でいきますと十分可能ではないかなということで予想を立てております。

以上です。

○委員長（高橋利彦） ほかにありませんか。

（発言する人なし）

○委員長（高橋利彦） 特にないようですので、議案第9号の質疑を終わります。

続いて、議案第14号について、水道課より補足して説明がありましたらお願いいたします。
水道課長。

○水道課長（堀川茂博） 補足はございません。よろしくお願ひしたいと思います。

○委員長（高橋利彦） 特にないようですので、質疑がありましたらお願いいたします。

（発言する人なし）

○委員長（高橋利彦） 特にないようですので、議案第14号の質疑を終わります。

続いて、議案第15号について、飯岡荘より補足して説明がありましたらお願いいたします。
飯岡荘支配人。

○飯岡荘支配人（野口國男） 補足説明で申し上げましたとおりでございます。補助率のアップによる補正ということでとらえていただきたいと思います。よろしくお願ひいたします。

○委員長（高橋利彦） 飯岡荘の説明は終わりました。議案第15号について質疑がありましたらお願いいたします。

（発言する人なし）

○委員長（高橋利彦） 特にないようですので、議案第15号の質疑を終わります。

続いて、議案第31号について、病院より補足して説明がありましたらお願いいたします。
病院事務部長。

○病院事務部長（今井和夫） 改めて補足ということはございませんけれども、お手元に本日、新旧対照表を付けさせていただきます。改正部分については赤い表記でございます。よろしくお願ひいたします。

○委員長（高橋利彦） 特にないようですので、質疑がありましたらお願いいたします。

（発言する人なし）

○委員長（高橋利彦） 特にないようですので、議案第31号の質疑を終わります。

続いて、議案第37号について、病院より補足して説明がありましたらお願いします。

病院事務部長。

○病院事務部長（今井和夫） 議案第37号、専決処分の承認についてでございますが、これも改めて補足ということはないんでございますけれども、同様にお手元に新旧対照表を付けさせていただきます。改正部分については赤字で表記をさせていただきました。よろしくお願いいたします。

○委員長（高橋利彦） 特にないようですので、質疑がありましたらお願いいたします。

（発言する人なし）

○委員長（高橋利彦） 特にないようですので、議案第37号の質疑を終わります。

ここで昼食のため1時まで休憩します。

休憩 午前11時48分

再開 午後 1時 0分

○委員長（高橋利彦） 休憩前に引き続き会議を開きます。

議案第8号についての審査を行います。

林一哉委員。

○委員（林 一哉） それでは、議案第8号についての質疑をいたします。

人材派遣についての問題でございますけれども、これにつきましてはもう市民の皆さんも我々もそうですけれども、新聞報道とかいろいろな報道で承知しているわけございまして、これだけいろいろな問題が起きて、先ほどの答弁では1社はまた従前どおり契約していくような話も異論がなければですか、そういうような話も聞きましたけれども、もう1社についても千葉日報の新聞にも茨城の会社の問題についてもいろいろ問題があるというような指摘がされているわけございまして、できれば今改めて問題解決のために堂々と随契じゃなく希望者を募って指名競争入札を実施したらどうかなというふうに思いますけれども、この点についてのまずお答えをいただきたいことが1点と、それときのうですか、一般質問の答

弁の中で今回の建設改良費の中の工事費の関係ですけれども、今井事務部長は基本計画を策定中という答弁をきのうしておりますよね、基本計画策定中。きょう、私、たまげたのは、委員会に入ってきましたら素案ではありますけれども、総合病院国保旭中央病院再整備事業計画概要というのをきのう策定中ということを書いていきなり急にすぐできるんですか、こういう資料が。これはちょっと私もどういう感覚でいるのかなというふうに思った次第ですけれども、以上2点についてお答えをいただきたいと思います。

○委員長（高橋利彦） 病院事務部長。

○病院事務部長（今井和夫） まず1点目の人材派遣の件でございますけれども、確かにご指摘のようなことかと存じますけれども、先ほども申し上げましたように、やはり実際に働いている方の気分の安定といいますか情緒の安定とか就業条件であるとか、そういうことを考慮しますと問題がありますけれども、必ずしも今ここで1年たたないうちにすぐに再度入札して例えば会社が変わるようなことがあればその辺の影響というんでしょうか、それを私ども恐れているわけでございます。

ただ、そうは言いつつもやはりご指摘のようなこともありますから、議会が皆さん一致してこうすべきだということであればやはり慎重な中にもそういう検討はせざるを得ないのかなというふうに理解をしております。

それから、2点目の基本計画策定中だけれども、素案が急に出てくるのはどうなんだということですが、これはまさしくそのとおりで、急に作ったわけじゃありませんけれども、いろいろ議会でもご議論いただいていますし、実は私ども前から提出しなければいけないという考えでいたわけですが、率直に申し上げますとまだ年度末まで若干時間があるわけで完成度の高いものを出したいと思っていただけにお出しできなかったんですけれども、いろいろご議論いただくためにはやはり収支の見通しも含めて議会にご提示しなければいけないということで急遽資料を取りそろえて提出させていただいたわけございまして、この辺はぜひご理解をいただきたいと存じます。

○委員長（高橋利彦） 林一哉委員。

○委員（林 一哉） 人材派遣の問題でございますけれども、確かに現状では今事務部長のおっしゃった雇用者の方々のいろいろな身分、環境、働く状況とかの関係で確かにまた会社が違うという場合があった場合にいろいろな問題があろうかとは思いますが、これだけの議論をいろいろな問題点が出た以上、早急に何らかの形で3年とは言わず、できるだけ早い時期に私は新たな正式な入札をやるべきじゃないかというふうに思っております。

それと、聞くところによると何社かが希望があるというような形で事務局の方に一応提案してあるような話も聞いておりますけれども、その点はどうなんですか。

それと、2点目のただいまの基本計画策定中にもかかわらず、きょう何も出さなくてもいいような、そういうような、早目の方がいいということできょうこれを出したと思いますけれども、中央病院は基本計画を策定して実施計画というのはいないんですか。基本計画を作って、即あれですか、この素案みたいな事業計画に変えて、普通は基本計画ができたなら、じゃ何年度にどういうふうにといい実施計画があつて私はしかるべきだと思いますけれども、その点はどうなんですか。お答えをお願いします。

○委員長（高橋利彦） 病院事務部長。

○病院事務部長（今井和夫） まず1点目の何社か希望があるのではないかということですが、これは午前中にもご答弁申し上げましたけれども、私のところにはそのような報告は上がっておりません。

ただ、1つあるとすれば、いわゆる物品ですとか工事委託等の市への登録というのがございますので、その登録をしている業者があるいはあるのかもしれませんが、それはまだ締め切ったばかりで例えば書類の不備であるとか、そういったものを指導中のところがあつて整理されたものがまだ私のところまで上がってきておりませんので、至急調べましてそういう登録が寄せられているのかどうかまず調べたいと思います。

ただ、くどいようですけれども、そういうわけで参加をしたいというふうに直接お申し出になつた業者は今のところございません。

それから、基本計画があつて実施計画があつてというようなご指摘ですが、いわゆる行政で言うところの5か年計画であるとか今回基本計画でしたか、基本計画があつて実施計画という自治法で定められたものとは違ひまして、これはあくまでも建設に絡めてのアウトラインを定めた基本計画、事業計画という意味の計画でございます、この後はこれである程度概要が固まりまして県とか、もちろん議会のご了解をいただいて県・国に事前協議が終わった段階では、今度基本設計あるいは実施設計というような段取りになるものでございますのでご理解を賜りたいと思います。

○委員長（高橋利彦） 林一哉委員。

○委員（林 一哉） じゃ最後ですけれども、人材派遣について何か部長のところに来るまでには相当期間がかかるような感じがいたしますので担当課の誰ですか、そっちの方で知っている範囲でもしできればお答えをいただきたいということと、2点目の今、じゃ今回の再整

備事業計画ですけれども、きょうこれからこの内容を説明して我々が了解といいますか、ある程度納得すれば次の段階へ進んでいくというような形になるのか、その点だけお伺いいたします。

○委員長（高橋利彦） 病院事務部長。

○病院事務部長（今井和夫） 2点目の方の計画のことについてご説明しますけれども、これはあくまでも今回当初予算を出している関係で収支はどうかという一番懸念されるどころについて、今出し得る範囲内で推計したものをきょう取りあえずやはりお出しして十分ご理解をいただきたいという趣旨で出したものでございまして、この計画全体につきましては先ほど申し上げましたようにこれから県とか国への事前協議というような手続もありまして、そこでまたいろいろと注文が付く可能性はもちろございまして、それと今回あくまでも非常に簡単なものをお出ししているわけですけれども、年度末までにさらに精力的に作業を進めさせていただきまして、もう少し詳しい最終版の報告書がまとまった時点で改めて議会には常任委員会も含めて全員協議会等も開いていただいて、全員の方に十分ご説明をする時間をまた別途いただきたいというふうに考えております。

ですから、きょうゴーサインを出したらすぐやるのかということではなくて、あくまでも今回は収支計画を中心にしたご理解を賜りたいという趣旨でございまして、実際の内容についてはこれもまたあくまで基本計画ですので、正直申し上げますと例えば基本設計であるとか実施設計の段階で専門家がいろいろ手を加えていく中で多少変更される場面も当然出てくると思います。例えば、フロアの構成とか手術室の配置であるとかというのは十分変わり得るものだと思いますけれども、おおむね例えば投資額がこのぐらいとか、あるいは改修するところはこういうところであるというようなおおむねなアウトラインの計画についてはやはりある程度早い時期にご納得をいただきたいと思っております、それは年度末過ぎて4月以降になってしまうかもしれませんが、しかるべき時期にもう少ししっかりとしたものをご覧に入れたいというふうに考えております。

○委員長（高橋利彦） 病院事務次長。

○病院事務次長（伊東一直） 今、派遣の件につきまして用度課の主査というご指名ですので回答いたさせます。

○委員長（高橋利彦） 病院用度課主査。

○病院用度課主査（片見武寿） では、入札関係の業者登録の件なんですけれども、2月末に締め切りまして現在書類のチェック等を行っております、まだどこの会社がどの業務を申請

したかというところまでまとめ切れておりません。正直、私自身もまだ把握できておりませんので、それがまとも次第、またご報告という形にさせていただきたいと思うんですが、よろしいでしょうか。

○委員長（高橋利彦） そのほか。

佐久間委員。

○委員（佐久間茂樹） ちょっと予算の方に戻っていただきまして、最初、明智委員の方からお話ありました雑損失ですけれども、18年度の決算予定が6億9,000万円になっていますよね。昨年度の予算も5億円台だったんですけれども、19年度も5億円台で立てられているんですが、この辺の1億円以上の違いというか、まずその辺の予定を教えてくださいなと思います。

それから、建設改良費の中で看護師宿舎新築工事、当初、去年12月の定例会では5億円くらいかかるのかなという話があったんでそんなにかかるのかなと思ったんですが、今お伺いしたら2億6,000万円ぐらいだというようなお話で、32室で1部屋約800万円というくらいになりそうなお話なんです。それで、けさほど中央病院の再整備事業計画概要をいただいてざっと見させていただいたんですけれども、自己資本で約100億円、建物関係で33億円、備品関係で60億円、自主財源が予定されているようですよね。

決算というか資産状況を見ますと、今約37億円の国債をお持ちで自主財源100億円を用意するとなればどうするのかと思っていますんですけれども、その関連の中で例えば看護師宿舎、要するに支出の中で給与費が124億円から130億円くらい。減価償却は毎年十七・八億円出ているわけなんですけれども、こういう宿舎を建てれば次年度以降減価償却に回ってくると思うんですね、何年で償却するか知りませんが、民間では減価償却は利益だという、そういう見方をする人もいるかもしれないんですが、再整備事業に向けてある程度自主財源、市役所でもそうですけれども、基金の積み立てとか準備しているわけです。中央病院で100億円近い自主財源をどのように考えてくるのかなと。

減価償却を減らして、多分これから看護師さんの数も増えて、今年は700人で見ていますからそれで予算を見ているんでしょうけれども、またこれから先できるだけ余裕を持ったスタッフでやるということで考えれば、給与費、人件費の方もある程度余裕を見ておこなきゃいけないのかなと。そのためには、できるだけ減価償却費を減らしていくといいですか、今、再整備前に例えば看護師の宿舎とか、できれば民間のマンションを借り上げて、それで看護師さんに提供すると。そうすれば減価償却も減るでしょうし、人件費に充てる、少しでも回

せるのかなと。それと、やはり再整備に向けてある程度のプール、少しでも多くのプールをというような気がするんですけども、具体的に看護師宿舎新築工事、これを今この時期に本当にどうしても必要なのかなと。看護師さんにある程度の補助をして好きな所を選んでと、近場でね。その方が喜ばれるんじゃないのかな、逆に宿舎に入れてしまうよりも。そういった設備投資というのは少し控えてもいいのかなというような気がするんですけども、その辺はどのようにお考えですか。

○委員長（高橋利彦） 病院経理課長。

○病院経理課長（鍋木友孝） 最初のお答えですけれども、ちょっとお待ちくださいませ。すみませんでした。今年度でありますけれども、全体で5億8,006万1,000円であります。この内訳ですけれども、増になっている……。

（発言する人あり）

○病院経理課長（鍋木友孝） ちょっとお待ちください。

○委員長（高橋利彦） 暫時休憩します。

委員の皆様は、そのまま自席でお待ちください。

休憩 午後 1時23分

再開 午後 1時25分

○委員長（高橋利彦） 休憩前に引き続いて委員会を再開します。

病院経理課長。

○病院経理課長（鍋木友孝） 申し上げます。これの主な要因なんですけれども、この項目は消費税処理によってかなり違うところがございます。というのは雑損失、税込みの予算と税抜き処理の予算での差が一番表れるところであります。予算では収益的支出でありますとか、それから貯蔵品の雑損失、これを処理するようになっているんですけども、税抜き処理のときでありますけれども、それは貯蔵品の部分が除かれまして、というようなことになっておりますので、そこで18年度のところでいきますと1億3,000万円くらい違うというようなことがあって、それが一番の原因でございます。申し訳ございませんでした。

（発言する人あり）

○病院経理課長（鍋木友孝） ですから、予算の方では損益計算書の方の雑損失のところでは

消費税の貯蔵品の部分というもので計算がなくなってしまうんですね。ですから、予算同士の比較でありますとか決算同士の比較であれば的確な差が出るんですけども、予算と決算で申し上げますとそのような差額になってしまいます。

以上でございます。

○委員長（高橋利彦） そのほか。

（発言する人あり）

○委員長（高橋利彦） 病院経理課長。

○病院経理課長（鏑木友孝） 要は宿舎の関係でございますけれども、今委員がおっしゃるのは再整備事業を前に本当にそのようなマンションをつくる必要があるかというような、何かほかの方法でもっと有利な方法を……

（発言する人あり）

○病院経理課長（鏑木友孝） 私の方から資金面のところを……

（発言する人あり）

○病院経理課長（鏑木友孝） 分かる範囲でなんですけれども、今それも今後、きょう提出いたしております再整備事業の中にも看護師宿舎も含めて資金面での長期的な予定も見てるところなんですけれども、今回そういうような中でやっぱり先ほどその必要性のところから近くに住ませた方がいいということと、そことほかに賃貸とかというようなことをやるよりもやっぱり自前で長くという方が総合的に見て有利だろうというような判断から含めたものであります。

自己資金の関係でございますけれども、それもきょうのこの後ご説明する中で長期的に見てるところなんですけれども、その辺も十分に検討してのことでございますので、それは後ほど資金的なところでも一緒に説明させていただきたいと思っております。

○委員長（高橋利彦） 佐久間委員。

○委員（佐久間茂樹） 失礼しました。要するに、看護師宿舎建設費というのは2番目、これに書いてあることなんですか、再整備事業計画に。

○委員長（高橋利彦） 病院経理課長。

○病院経理課長（鏑木友孝） はい、そうです。

○委員長（高橋利彦） 佐久間委員。

○委員（佐久間茂樹） すみません。そういうことは、この再整備事業計画と予算書とちよつとまだ先の話かなと思ったんですけども、実際に平成19年度で2番目の看護師宿舎建設費

2億6,000万円というのはもう組まれているわけですね。そういうことですね。それは了解しました。

それで、じゃ、そうするともう早速6ページの中で看護師宿舎建設費2億6,103万円と書いてありますのでこの中で自己資金33億円、それから自己資金(2)が60億円となっていますね。まず、それでケース1が、もう入っちゃっていいんですよね、関連ですから。じゃ、まず今のところに絞ります、話を戻しまして。

私らは看護師宿舎を民間で建てていただいて、それで最低限の費用でもってそういった費用を直接医療に関係しないということはないんですけども、周辺のものについてはできるだけ民の力をかりるといいますか、民間のマンションを借りて直接看護師さんなりどなたかに費用として援助すると。そうしていただくことによって民間の資産が増えますし固定資産税も上がるし、全部これ300億円官費で公営企業の自前でやるよりは民間で造ってもらって、できるだけ借りて25年、30年の返済期間になるわけですけども、その辺の負担をできるだけ軽くできるんじゃないかなと。そうすることによって民間の資産が増えるので固定資産税でも何でも、また市税でも国税でも返ってくるわけですね。300億円の事業ですから、できるだけそういうふうに病院だけじゃなくて周りにも民間がやっぱり幾らかでも活性化できるような格好でやってもらえたらいいなと、そう思うわけです。

そういう意味で、宿舎なんかと言ったら悪いですけども、民間から徴用できるものは徴用してもらいたいと、そう思うわけなんですけれども、もう早々と予算にのっちゃっていますから、その辺はどのようにお考えですか。

○委員長(高橋利彦) 病院事務部長。

○病院事務部長(今井和夫) 確かに民間のアパートを借り上げて補助をするというのは1つの有力な手段だとは思いますが、先ほど次長がちょっとご説明をした税の関係の問題とかもありますし、やはりもう一つには看護師募集という観点からいきますと、これはごく最近の事例ですけども、例えば八千代市に東京女子医大が周産期医療センターを造りましたけれども、その看護師宿舎なんていうのは大変豪華なマンションを丸ごと借り上げたようなものだと思いますけれども、やはり住んでいただくのにそういうところとの競合という形になってきますので、例えば九州だとか青森だとかあちこち出かけて行って病院挙げて看護師確保に動いているわけですけども、そういった看護師を、応募してくださる方にPRするときに写せないんですね、ビジュアルに。こんな立派な宿舎がありますよと。個室のトイレもあり浴槽もありと、全部こういうのは完備していますよというビジュアルで見せない

とやはりなかなか今の若い方は来てくださらないということがありまして、宣伝になるようなものを造りたいという私どもの考え方もございまして、ここはひとつ看護師確保等のためにも新しい時代に即した施設を造らせていただきたい。

というのは、くどいようですけれども、今まで過去に整備したものが共同トイレ、共同浴室ということで、それで我慢してくださる方もいらっしゃるんですけれども、正直申し上げてあまり評判がよろしくないというところもございまして、それは改造すればいいじゃないかということも私も実は職員にも指示をして検討させたんですけれども、これが実は耐震上の問題がございまして壁を壊せないとか、そういうふうなことでちょっと引っ掛かりが出ちゃいまして改造もできる建物もあるんですけれども、どうも思うに任せないということで、できるものはそういうふうに既存のものを有効利用したいと思っていますけれども、やはりどうも新しく建てさせていただかないと具合が悪いというふうなこともございますし、それから救急対応であるとか、いろいろな看護師さんの人事管理上の問題とかも考えますとやはり寮生活というんでしょうか、そういう宿舎で近場で暮らしていただくというのも1つの病院側としてはアイデンティティーの確保ということからも望まれることかなと思っておりまして、今回はそういうことでお願いをしたいなと思っております。

それから、全体的な財源等についてはご懸念はごもっともだと思いますけれども、これについてはこれからトータルのこの資料に基づきましてまず最初に全体的な説明をさせていただきたいと思っております。

○委員長（高橋利彦） 佐久間委員。

○委員（佐久間茂樹） 看護師さんが集まって、これから今看護師集めはすごく大変だということはお話をお伺いしています。大変だと思います。どうでしょう、でもやっぱり看護師さんの好みの問題もあるんでしょうけれども、でも若い人はそんなに、いわゆる官舎というとおかしいんですけれども、官で用意した宿舎にそんなに集まってくるのかなというような気がしないでもないんですね。例えば年間1,000万円で借りましょと。20年間の契約でやりますよと。そういうことで40室のマンションを造ってくれと民間に声をかけてプロポーザルしてもらって幾つか案を出してもらって、看護師さんにどれがいいですかと選んでもらって1,000万円で、金額は分かりませんよ。だけど、20年で2億円ぐらいの契約を打って、それで応募してくれるマンションメーカーといますか、幾つか出してもらって看護師さんにどれがいいでしょうかと選んでもらってもいいような気がするんですけれども、その辺は無理ですかね。

○委員長（高橋利彦） 病院事務部長。

○病院事務部長（今井和夫） 実は今回、場所をどうしようかという議論をしたときにかなり遠隔のところに病院の所有地というのがあるということを私、聞きまして、現地も見に行っ
てまいりましたけれども、それから民間のアパートもいいんですけれども、やはり一番心配
なのは通勤の問題なんですね。特に看護師さん、勤務が変則な方が多うございますので、夜
間に移動されるケースが多くて、やはり独身の若い女性の方がそういう通勤をされるとい
うことを考えると、やはりある程度集団で暮らしていただく場所を病院の近くに提供するとい
うのが1つの病院の責務ではないかなと思っております、これは内輪話で大変恐縮ですけ
れども、ごくまれにストーカーみたいなケースもありまして投書が来たり、警察に訴えても、
警察も実際に事件にならないとどうにもならないよというようなことでなかなか相手にして
いただけないようなこともございまして、そういう訴えが看護部から私のところにもたまに、
ごくまれですけれども、来るのを聞いていますと、やはり駐車場まで追っかけてくるとか、
そういうケースもありますので、やはり女性に対する配慮というのは一定のものはやはり必
要なんだろうというふうに思っております。

それから、民間でどうかということ。これは実は例えば都市部の話ですけれども、病院の
駐車場を民間にお願いしてやっているという例が現にございます。これは私、病院側は一銭
もお金がかからなくてすごくいいなと思っているんですけれども、ただ残念ながら今この中
央病院を取り巻く敷地の状況からするとなかなか駐車場といってもやっぱり病院のごく近場
で、隣接した所でそういうことが可能なかどうかというのはありますし、これもすぐには
難しいなと思ったんですが、ただ宿舎でそういうものがあるとすれば利用は可能だろうと思
っていますけれども、やはり先ほど申し上げましたように、来年度建てさせていただいて看
護師募集に積極的に活用していきたいという観点からすると、ここはひとまず病院側で建て
させていただいて、と申しましても既に宿舎は古くなっているものも多うございますので、
次の場面ではご提案いただいたようなことも含めて検討させていただきたいと思います。

○委員長（高橋利彦） 佐久間委員。

○委員（佐久間茂樹） 分かりました。

ただ、病院から瀬戸山、東足洗、あの辺にかけては民間にそういう提案をしたら、あの辺
の、結構あいているところ多いですから、一般質問でも駐車場、木内議員から出ましたけれ
ども、土地を求めるといような話が出ましたけれども、まだまだ余裕はあるのかなと、そ
ういうふうに思うものですから。これだけ大きな事業を先ほどの国民宿舎なんかも本当に吹

いて飛んでしまうような予算規模なんで好きにやれというような感じになっちゃうんですけども、そういう意味で中央病院の事業というのは利用すればすごく利用できるというか、旭市にとってすごいプラスになると思うんですね。特に民需というか、民間の経済の活性化のためには利用すればかなりできる場所があると思うんですよ。できるだけそういった格好でお願いしたいなと思います。取りあえず、この点についてはこれで。

○委員長（高橋利彦） 林七巳委員。

○委員（林 七巳） 先ほど私がお願いしておいたのを教えていただきたいんですが。

○委員長（高橋利彦） 病院整備課長。

○病院整備課長（永嶋英和） 先ほど委員からありました宿舎の数と空き部屋云々のことですが、今文書でということでご回答させていただきましたように、今連絡をとって調べております。それと、先ほどお話しした3月ということが入りということが既にもう出ておまして、その辺も含めて早急に連絡をとって調べて書類ができ次第、文書で委員の方にさしあげたいと思っています。

（発言する人あり）

○病院整備課長（永嶋英和） それも含めて。

（発言する人あり）

○病院整備課長（永嶋英和） 事務系は誰も……

（発言する人あり）

○病院整備課長（永嶋英和） 事務系は入っておりません。

（発言する人あり）

○病院整備課長（永嶋英和） そうですか。すぐ調査します。

（発言する人あり）

○病院整備課長（永嶋英和） その辺、ちょっと至急調べます。

○委員長（高橋利彦） 林七巳委員。

○委員（林 七巳） この図面で院長やそのほかのところの住宅はどこに位置するんですか。

（発言する人あり）

○委員長（高橋利彦） 明智委員。

○委員（明智忠直） ひとつ聞きたいんですけども、8ページの医業費用の給与費ですけども、損益計算書、18年の中で124億円、ことしの予算が約130億円あるんですけども、職員も年々経験を積み上げていくという部分、自然増の部分もあるでしょうけれども、人

材派遣に移行しての部分もあるし、かなり上げ幅が多いのかなと、そんなように感じるころでありますけれども、人員も1,544人というようなことで聞いていますけれども、そこら辺の問題についてちょっと説明をいただきたいと思います。

質問の内容、分かったでしょうか。損益計算書、16ページかな、給与費124億4,710万円、それから今年の予算の給与費が130億908万円ということで、昨年比べてかなりのアップというような部分で自然に給与もアップするわけでしょうけれども、そんなにも毎年上がっているのでしょうか。それと、人材派遣会社に今までよりも多くかかっているというような部分も含まれているのかどうか。

○委員長（高橋利彦） 病院経理課長。

○病院経理課長（鏑木友孝） まず、人材派遣の方はこちらには全然もう関係ございません。委託の方でやっております。

それと、今回の増でありますけれども、職員の方が病院全体では1,544人というようなことで人数も上がっているわけなんですけれども、今回の中で一番の上がっている要因というのが法定福利費であろうかと思えます。それで、かなり法定福利費のところ率がいきますと上がっておりまして、法定福利費だけで金額が1億8,700万円ほど上がっております。今回、負担の率とかが変わっておりまして、事業者の負担が多くなったのが一番のことです。

以上です。

○委員長（高橋利彦） 明智委員。

○委員（明智忠直） 人件費、職員数1,544人は昨年よりも多くなっているんですか、よほど。その辺もお聞かせをいただきたいと思いますが、今、多くなっていると聞きましたけれども。

○委員長（高橋利彦） 病院経理課長。

○病院経理課長（鏑木友孝） 人数でありますけれども、全体では若干減っております。ただでありますけれども、そのほかに……すみません、ちょっと暫時休憩をお願いいたします。

○委員長（高橋利彦） 暫時休憩。

休憩 午後 1時50分

再開 午後 2時 0分

○委員長（高橋利彦） 休憩前に引き続き会議を開きます。

病院経理課長。

○病院経理課長（鏑木友孝） 大変申し訳ございませんでした。決算見込みの方と予算を比較しますと5億円くらい上がっているんですけども、それは年度の途中ではどんどん途中退職というのがありまして、一般会計の方ではそれほど増減ないことと思うんですけども、病院職員の場合はやっぱりかなり年間では差が出てきます。予算の方ではそこら辺を1年間ずっと勤めるものとして見ておりますので、そのような決算見込みとの比較ではそのようになっています。

23ページをご覧いただきたいと思うんですけども、職員給与費の明細がございまして、私、人数が増えていきますと言いましたけれども、これを見ますと職員数の比較というところですけども、医業費用のところでは34名のマイナスというようなことになっております。今回の予算では、数字的には1億9,600万円、前年よりも上がっているんですけども、予算との比較ですね。一番大きな原因は法定福利費のところ、比較というところを見ていただきますと1億6,840万9,000円となっております。こちらの方は先ほどもちょっと言いましたけれども、法定福利費の割合が18年度までは1,000分の195というようなことだったんですけども、19年度になりましては1,000分の220ということで率が上がっているのが一番の原因でございます。

以上です。申し訳ございませんでした。

○委員長（高橋利彦） そのほかありませんか。

（発言する人なし）

○委員長（高橋利彦） それでは、ないようですので、これから整備事業計画の概要についての説明をしていただきたいと思います。

病院事務部長。

○病院事務部長（今井和夫） この内容の説明につきましては次長の方からいたさせますが、冒頭申し上げましたように、まだきょうのところは素案の段階でございますのでくれぐれも取り扱いには注意をお願いしたいということと、それからきょうはごくあらあらの説明でございまして、またいずれ機会をとらえてもう少ししっかりした資料で説明をさせていただく機会もいただきたいというふうに思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

○委員長（高橋利彦） 病院事務次長。

○病院事務次長（伊東一直） それでは、資料につきましてご説明を申し上げます。

これにつきましては部長の方から今報告がありましたように、いわば途中経過というまだ段階ですので、病院の中で建設の準備室という委員会を作りましてその辺で検討し、さらに建設委員会の要望を受けてあります。これにつきましては病院職員以外に市の助役と財政課長にも参加していただいて会合を持っております。それらの結果を踏まえた現段階での資料だというふうにご理解いただきたいと思います。

それで、資料につきまして下にページが打ってあります表紙の次から1ページ、2ページにつきましては必要性でありますとか現段階で病院の方で考えている項目について書いてあります。これについては、私の方から説明させていただきます。

それから、3ページ、4ページにつきましては今病院の方で考えられる案として位置でありますとか、あと内部の配置、今検討中ですけれども、今後変わることにはなろうかと思えます。それが2ページあります。

それから、5ページ以降につきましては金目の話、事業費、財源、それから建設中、それから建設後の収支についてシミュレーションをした結果の資料になります。

それでは、1ページの方から説明を申し上げます。ちょっと朗読ぎみになろうかと思いますが、一番上の方からご説明申し上げます。

当院は昭和28年3月に開設され、その後53年間にわたり……

○委員長（高橋利彦） 座って説明してくださいよ。

○病院事務次長（伊東一直） その後53年間にわたり、地域の中核病院としての役割を果たし、建物の医療需要に合わせて増築・改築が繰り返され現在に至っております。医療の進歩は急速で、また地域のニーズも多様化し、これらに応えるように増築をしてきましたが、現時点では効率的に病院運営を行うには多くの問題が出てきております。

1番目といたしまして、病院再整備の必要性ということでございます。

(1) まず、機能の集約。上記のとおり、度重なる増改築により診療機能が大きく分散し、患者様及び職員動線の悪化、院内移動の距離・時間の延長等により診療プロセスの効率が低下しております。例えば先進医療に不可欠な放射線機器MR Iに外来あるいは病棟から到達するための移動距離は最長300メートルを超えるということで患者様、特に高齢者、それから障害を持っていらっしゃる患者様にとっては肉体的、また精神的にも大きなストレスとなっております。また、同時にこのような機能の分散は病院職員の配置上も非常な非効率性をもたらしております。これを放置いたしますと、将来の病院経営の負担になることが大いに

予想されると思います。

(2)として、老朽化への対応ということで、極めて重要な課題といたしまして病院建物群の老朽化というものがございます。これの抜本的改善が必要であろうと思います。建物延面積約8万平米ございますが、1号館、2号館を除いて50%近くが築後40年以上を経過しているものもありまして老朽化が進んできております。改修には特殊な病院建築というものの問題がございまして、新設に近いような高額な費用を投入する必要があるというふうに思われます。また、改修工事中はいろいろな工事によります問題で医療環境の悪化あるいは外来、入院とも十分な診療行為をすることが困難になるといったような事情が出てくるかと思いません。

それから、3番目の必要性の問題としては人材の確保ということが挙げられると思います。今回のこの計画の完成後には環境が大幅に改善されますので、患者様のみならず職員の労働環境も優れたものになると思われます。こういうことを踏まえて優秀な医師、看護師を確保することができるんじゃないかというふうに思われます。

続いて2ページの方、2番目の項目といたしまして新しい病院のコンセプトということでございます。

現在の建物の問題点を改善しまして、市民が安心して信頼できる医療提供を効率的に行うことを前提として、下記のことをテーマとして整備を行う予定としております。(1)から(5)まで掲げてあります。

1番目は、診療機能、設備も含めて集中的に配備することで効率のよい医療提供を実現する。そして、患者サービスの向上を目指すと同時に業務の効率化を図るということでございます。

2番目には、建物を免震構造化しまして災害拠点病院でありますので、その機能を十分に果たすと。

それから、3番目として地域の中核病院でありますので高度な医療を提供できる体制を実現すると。

それから4番目といたしましては、患者様のプライバシーを守り、癒しあるいは利便を患者様に対して提供できるような施設とすると。

それから5番目は、新本館は建てるんですけども、耐震性のあります1号館、2号館との連携を重視しまして有効な土地の活用をしていきたいというふうに考えております。

それから3番目、機能の配置計画案ということで、ここでは(1)から(5)まで挙げて

おります。

1番目は、病棟は高層階に配置することによりまして、自然光を取り入れて空調あるいは照明等のコストを削減していく。それから一方、低層階には検査・放射線・手術等の診療部門を集中的に配置しまして機能の効率化を図る。それから、電気・ガス等エネルギーの問題も大きな問題ですので、これの効率的な供給についても十分検討していきたいというふうに考えております。

それから、2番目といたしまして、今現在手狭になっております救急外来は拡張を図るとともに、旭中央病院アクセス道路からも容易に進入できる位置として新本館の1階北側に配置を予定するものでございます。また一方、救急外来からの夜間入院には救急病床とは別に即座に入院できると、オーバーナイト病床というふうな言い方だそうですが、そんなに長期間じゃなくて1日、2日、点滴等で入院される方がおりますので、それに対応する病床を設けたいと。

それから、3番目として一般病床は個室率を50～60%程度を目標にして患者様の人権、それからプライバシーの確保、これを容易にしていきたいと。

それから4番目、最上階、建物十数階になろうかと思えます。最上階、せっかくですので展望ラウンジ、簡単なものになろうかと思えますが、これを設けて癒しの空間とでも言うんでしょうか、そういうものを設置したいというふうに考えております。

それから5番目に、これは新聞報道等でご覧になっているかと思えますが、障害を持った子どもさんの療育センター、これがこの地区にないということで患者の会の方から市長の方に要望がありまして、また県知事も進めてほしいというような考え方のようですので、病院内での設置の可能性も検討してまいりたいというふうに思っております。

以上、計画の概要を説明申し上げました。

○委員長（高橋利彦） 病院整備課長。

○病院整備課長（永嶋英和） 引き続き概要ということで3ページから説明させていただきます。

3ページは配置予想図でございます。真ん中にL型の反対の形をしたところに新本館ということを示してございますが、これが今回の新病棟の建物でございます。それとそれに続いて右側に1号館、2号館、ちょっと奥に7号館という形で新耐震を満たしている建物は残し改修をしてという形になります。それと、先ほどの50%近くが新耐震基準以前の建物ということで、この辺が新設駐車場（1）、（2）ということで図面の上の方に、新本館の上に書

いてありますが、この辺を最終的には解体しまして駐車場という形に考えております。

次ページの4番目をお願いしたいんですが、これが今回の再整備事業におきますフロア構成図ということで先ほど事務部長、次長から今後どんどん変化していくということでお話でしたが、現在ですと展望ラウンジを含め12階、病棟までは11階でございます。そして、先ほどの概要の中にもございましたように、5階以上11階までを病棟という形に配置を示されております。また、1階部分、救急から始まりまして4階部分まで手術室を含め診療部ということで集約した形で、こういう配置を今現在考えております。

また、その下に1号館、2号館、7号館というのが示されておりますが、1号館については1階、2階、3階、4階まで従来の建物を使用という形で何ら変わりませんが、5階部分に第二透析センターというのを新たに改修して持っていきたいと思います。また、6階、7階に関しては従来の緩和病棟、それとその下の透析関係の病棟、これもさほど変わりません。

2号館に関しては、現在は1階において総合受付、薬局等がございますが、これを新館の方に移転していただきまして、その場に解体する方の建物からリハビリ等を1階部分、整形を持っていきたいと考えております。あと2階部分に関しては従来の内科、泌尿器科、採血という形で何ら変わらないような形で今現在考えております。4階、5階については、3号館というのがなくなりますので管理部門という形でこちらに配置、持っていきたいというふうに考えています。

それと、7号館でございますが、これ、現在は救急棟及び病棟ということで現在されておりますが、ここに精神科病棟を持ってきたいというような考えでおります。

続きまして、5枚目からは金目のことということで経理課長の方をお願いしたいと思います。

○病院経理課長（鍋木友孝） それでは、資料の5と6につきましては私の方から説明させていただきます。失礼して座らせていただきます。

資料の5でありますけれども、事業費予想額ということであります。こちらの方、資料の6にももっと細かいのがあるんですが、大まかにまとめたものであります。新本館建設費ということで、こちらの方には工事費と、それから設計監理料も含めた額で170億9,447万5,000円とあります。そして、建物部分の積算でありますけれども、平米当たり31万5,000円掛ける5万2,065平米であります。建物でありますと164億47万5,000円、そして設計監理料の方が6億9,400万円となります。それは次のページに出てきます。

それと、既存棟の改修工事費としまして38億9,028万円ということでもありますけれども、

こちらの方のあれが下の部分に既存と改修工事内訳となっております。その積算をするに当たりまして改修費の単価の方ですけれども、軽度な改修工事という部分は平米当たり16万円、それから重度な工事費の部分というのは20万円で積算しております。1号館の方ですけれども、重度な部分というのが1,836平米ありますのでここで3億6,720万円。それから、2号館の方ですけれども、重度な部分が4,678平米ありますので、その部分が9億3,560万円と軽度な方が3,368平米ありますので5億3,888万円。それから、7号館ですが、重度な部分が1万243平米ということで20億4,860万円であります。合計しますと38億9,028万円ということになります。その他ということで医療機器とか情報システムとかというのがありますけれども、それらが92億4,004万1,000円ありまして、合計では302億2,479万6,000円になります。

次にまいります。6ページです。

こちらの方が資金調達比率によるケーススタディ結果サマリーということでありまして、今回、投資資金のうち自己資金以外の部分、外部から調達する部分でありますけれども、それを従来の財政投融资資金と、それから新たに銀行等引受資金というふうな、これはいわゆる縁故債でございますけれども、その組み合わせによりまして2ケースを検討しております。

先ほど事務部長からもお話ありましたけれども、ケース1番では財政投融资資金を75%、銀行等引受資金を25%というのがケース1です。そして、ケース2番では財政投融资と銀行等引受資金を50%ずつというようなことであります。

計算に当たっての前提条件でありますけれども、(1)の投資であります。こちらの方ですが、新本館建設工事というのがケース1もケース2も変わりませんので164億47万5,000円、先ほど出ましたように5万2,065平米であります。

それから、2番の看護師宿舎新築工事でありますけれども、2億6,103万円であります。こちらの方、本来は新病棟建設工事とは関係ないんですけれども、資金計画的なものを図る上でやはり加えさせていただきました。

それから、3番の駐車場建設・整備費でございます8,064万円であります。近隣の隣接地に6,390平米ございまして、そこの方をお話が進んでおりまして、そこを借りられるようなことであろうということで、今回その埋め立てと造成費を加えさせていただきました。

それから、設計と工事監理費であります6億9,400万円あります。それから、外構工事費が2億1,840万円、調査費が1,000万円。それから、先ほど出ましたが改修工事費であります38億9,028万円ありまして、1号館、2号館、7号館の分です。それから、院内の引越

し用の費用であります、2,000万円。それから、什器備品が5億円。情報システム更新としまして15億円であります。今回、今完成したところであるんですけども、ローテーション的にこのころ建て上がるころに更新の時期が来るのかなということで加えさせていただきました。

それから、11番の医療機器更新ということで60億円であります。こちらの方、毎年器具備品10億円ありますとかソフト開発費おおむね2億円とかというのがございまして年間12億円なんですけれども、これを5か年で60億円ということで加えさせていただきました。新たにこれを設けるというものではなくて、通常、今の運営で行っているものをここに加えさせていただきますというようなことであります。

それから、その他の費用でありますけれども、ケース1の場合が6億4,997万1,000円、ケース2の場合が6億7,789万7,000円で、予備費、これが1億5,000万円程度。それと建設中の金利ということでありまして、金利の高いの低いのにおきまして約2,800万円ほどの差が出てきます。

合計しますと、ケース1の方は302億2,479万6,000円、ケース2が302億5,272万2,000円あります。

それで、資金調達というところでケース1の方でいきますと、資金を自己資金(1)と自己資金(2)、それから財政投融资資金と、それから銀行等引受資金というふうに分けました。それで、金額の右側にあります対応投資項目の番号ということでありますけれども、この上の前提条件の番号のものを指しております。違いというのですけれども、財政投融资の方、ケース1では75%ですので156億8,700万円、それから銀行等引受資金の方が25%ですので52億2,900万円になります。

この表の右の方を見ていただきますと、自己資金の(1)と(2)、これにつきましては内部留保の方から補てんさせていただきたいと思っております。それから、金利の方が2.2%から1年置きに0.1ずつ上がっております。こちらの方は起債の方でありますけれども、返済30年、うち5年間は据え置きというようなことで計算をしております。それから、機器につきましては1.3%を返済ということで、こちらの方は返済期間5年間、うち1年間は据え置きです。その下の銀行等引受資金の方の利率でありますけれども、民間の方の利率になりますのでちょっと高目になるんですけれども、3%から始まりましてこちらの方も0.1ずつ上げております。こちらの方はトータル15年間で、据え置き3年で計算しております。最後の機器の方ですけれども、利率が2.3%であります。

次のページをお願いいたします。

ケース2の場合でありますけれども、こちらの方は先ほど来から申し上げていますように、財政投融资資金と銀行等引受資金ともに104億5,800万円ということで50%ずつを計算しております。

それで、次の計算結果は後に回しまして、すみません、8ページの方をお願いいたします。結果ということでケース1であります。こちらの方ですが、上にグラフがありまして下にその数字が載っております。数字の方は単位が100万円となっております。まず、このグラフの方の説明ですけれども、緑色のところが損益収支になります。それと、この茶色っぽいところが収益の累計ということになります。

まず、その下の数字の方ですけれども、単年度損益収支ということでマイナス5年度で2億4,900万円とありますけれども、こちらの方は平成18年度、今年度の決算見込みから入っております。それからだんだん横に見ていきますと、開院後1年目から3年目までにつきましては、1年目が18億2,100万円の赤字というようなことで3年間赤字が続きます。マイナスが予想されております。この要因なんですけれども、減価償却費の既存分と新規分がダブるためでありまして、取り壊す部分とかは資産減耗費ということになるんですけれども、以前減価償却の計算につきまして建物部分は50年とかということで計算していたんですが、平成11年から39年に変えるようになりました。今その修正を行って毎月50年から39年の年間の額で増やしているところなんですけれども、そのようなことがありまして開院の時にはそういうことがまだ未償却になっている部分が残ってきます。そのためにこのようなことになるんですけれども、実際どこの病院でも建て替える時期になりますとそういうような状況でありまして、実際に名前を出してしまいますと君津中央病院とかも建設してから数年間は償却費の増というようなことでマイナスのようでありました。

それから、見ていきますと3段目のところで累積損益収支というのがありますけれども、その一番下の一番右のところがありますけれども、201億9,600万円ということで開院後25年後には累積の利益が201億9,600万円になりますというような結果になっております。

それから、次のページをお願いいたします。

こちらの方は資金繰りの方であります。それで、緑のところが単年度の資金余剰でありまして、黄色っぽいのが累積の余剰、それから紫のところが借入金というような表でございます。単年度資金の余剰というのは、年度によりましてプラスだったりマイナスだったりいろいろあるんですけれども、開院後1年目でありますけれども、この年はマイナス9億9,900

万円単年度ではマイナスなんですけど、累積の方は23億円あるというような状況です。

それから、大きい列の3番目のところで右下の上から2番目の累積資金余剰、25年後なんですけれども、146億4,400万円というようなことになっております。

なお、この時点の借入金の残高ですけれども、33億1,400万円。一番下のところです。

それから、次のページ、10ページの方をお願いいたします。

今度はケース2の場合であります。先ほども見ていただきました単年度損益収支の開院後1年、2年、3年度なんですけれども、開院後の最初の年は18億5,300万円のマイナスというようなことで、先ほどの資料の8よりは金利が高い分ちょっとマイナスが多くなっております。それから、右下の方を見ていただきますと、この時点での25年の累積の収支は207億9,800万円という状況でございます。

それでは次のページを、11ページの方をお願いいたします。

こちらの方はケース2の資金繰りの方でありますけれども、まず累積余剰のところを見ていただきますと25年のところ、こちらの方は142億4,600万円というような状況となっております。それから、この時の借り入れの資金残高が23億3,700万円であります。

なお、ここで平成10年度、11年、12年、13年というのは若干10億円を下回っているというようなことが見込まれております。

それでは、恐れ入りますけれども、7ページの方にお戻りいただきまして、その試算の結果であります。損益というところでケース1の場合が201億9,600万円、それからケース2が207億9,800万円ということで、ケース2の方が多くなっております。といいますのは、ケース1の場合は借り入れの利息は低いんですけれども、償還期間が長い。それから、ケース2の方は逆に借り入れの利率は高いんですけれども、期間が短いということで、総合いたしますと利息では約6億円くらいの差が出てしまうというような状況です。

それから、資金繰りの方ですけれども、ケース1の場合が146億4,400万円、ケース2の場合が142億4,600万円ということで、こちらの方は逆にケース1の方が資金残高が多いということでもありますけれども、ケース1の場合は資金残高が多いんですけれども、借り入れの残高も多い。ケース2の場合は、逆に資金残高が少ないんですけれども、借り入れの残高も少ないというような状況でございます。

備考欄右下にございますように、財政投融资資金50%と銀行等引受資金が50%のケースの場合は、開院後10年から13年の間に累積資金余剰が10億円を下回り、短期的には資金調達の可能性が高まるということで、この期間は今回示させていただいております数字は年度末の

見込みでございまして、1年間に資金が多いときとか少ないときいろいろございますので、この期間というのは最終的には資金は足りるようにはなっているんですけども、道中では一時借り入れする必要が出てくるのではなかろうかというようなことでございます。

それから、今回の運営費の方の収支につきましては基本的にフラットでございます。入院収益は今年度の見込みのままとか、外来収益あるいは給与費も同じままでずっと最後までいっております。それといいますのは、事業性があるかないかというようなことで数字が変わっているのは現在分かっている企業債の残高での返済とか利息とか、そういう大きなところでの確実に分かっているものを変動させているということで、これによりまして事業性があるかないかというのを示させていただきました。

なお、今後、基本設計に入りますと工事費とかいろいろもっと詳しいことが出ると同時に、そこら辺では収入の伸びですとか、それから給与費の伸びというのも実際に出てきてまとめ上げるようになっております。

以上でございます。

○委員長（高橋利彦） ありがとうございます。

それでは、説明が終わりましたので何か質疑ありましたらお願いします。

佐久間委員。

○委員（佐久間茂樹） ケース1とケース2で多少違うという話だったんですけども、ケース2の方は返済期間が短いと言われたんですが、みんな返済30年、変わらないように思うんですけども、どこか違うところがあるんですか。

○委員長（高橋利彦） 病院経理課長。

○病院経理課長（鏑木友孝） ケース1とケース2ですけれども、財政投融资資金と銀行等引受資金の割合を変えております。ケース1の場合は、財政投融资が75%で残りが25%です。ケース2の場合は半々にしております。そうしますと、ケース2の方が当然返済に回る、長くても15年で見えておりますので金利が高くなる分、それだけ負担が多いんですけども、早目に終わってしまうということで、どうしても期間が長ければ長いだけ総利息、支払い利息が増えますので、そこら辺での状況でございます。

○委員長（高橋利彦） 佐久間委員。

○委員（佐久間茂樹） ケース2は民間資金が大きいというのは分かるんですけども、ここに返済年数が書いてありますよね。特に変わっているところが無いんですけども。

（発言する人あり）

○委員（佐久間茂樹） なるほどね、分かりました。

○委員長（高橋利彦） 明智委員。

○委員（明智忠直） 詳しく出た今のところを聞かせてもらったんですけども、このデータの基礎となる部分もだいたいのは説明いただいたんですけども、その基礎となる基準の患者数の問題ですけども、病院側としては最大の変動幅はどのくらいなのかという部分も見通しを立てなければならないと。このままずっといくわけにはいかないと思いますし、いろいろな医療事情も変わってくると思いますので、そこら辺の最大幅というような部分もこれからある程度セキュリティの部分でやっぱりやっていかなきゃならないと思いますけれども。

それともう一つは、それと関連するわけですけども、山武市に九十九里の総合病院ですか、そういった部分も成田市にも、きのうの一般質問で高橋委員長がやったんですけども、成田にも徳州会の病院ができるというような部分がありますし、診療圏人口100万人というような部分も縮小されるのではないかと、患者数も減ってくるのではないかとというような部分もある程度は予想されると思いますけれども、その辺の見通しとしてはどうなんでしょうか。お聞かせをいただきたいと思います。

○委員長（高橋利彦） 病院事務部長。

○病院事務部長（今井和夫） 確かに気になる場所かと存じます。冒頭申し上げましたように、今回ちょっとあらあらのところでお示ししましたのでその辺の数値が入っていないので分かりにくい点があるかと思いますが、今回はそういったこともお示ししたいと思います。

ただ、私どもの予想ではこれから20年程度を予想しましても実はそう大きな患者数の変化はないというのが前提として把握しております。そのような調査結果を基に考えております。

それから、九十九里のセンターの構想あるいは成田市は徳州会ですか、というようなことがございますけれども、それも患者数の推計の話と同様のことですけども、そういったことを踏まえてもやはり旭中央病院が基幹病院としての役割というのは、私どもの考えでは、県もそう言うておりますけれども、そう大きな変化はない。むしろ現在の状況ですと銚子市の市立病院あるいは匝瑳市民病院、東庄町も含めて、あるいは香取方面を見てもある意味で少しずつ、あちら様の事情を申し上げるのは大変失礼かもしれませんが、少しずつ地盤沈下をされているような状況の中ではやはり旭中央病院というのが基幹病院としての役割をしっかりと果たしていくことによって、ある意味では患者さんはそう大きな変化はないだろう

うというふうに思っております。

それから、診療圏についてももちろん全く影響が無いということはないと思いますけれども、相変わらずここが基幹病院であり続けるということは役割としても引き受けなければいけない場面であろうかというふうに思っております。病院部会なり何なりの会議の中に県の担当課の職員にも出てもらって、その辺の実は山武市のセンターの影響はどうなんだという質問が医師会から選出していただいている部会の委員からも同じ質問が実はございまして、それに対して県の職員の方の説明とすればそう大きな影響はないというふうに県の方では見ているというふうな説明もございました。

○委員長（高橋利彦） 明智委員。

○委員（明智忠直） それともう一つ、投資の方の部分ですけれども、医療機器更新というふうなことで60億円予算化、見通しとして投資をするようになってはいますが、これ毎年12億円ぐらいで5年で60億円ということでもありますけれども、一気に新しいときにすべてそろえるという部分も大事なこともあるかもしれませんが、一気にそろえなくていいもの、今まだ使えるものというようなものも5年の投資なんですからあると思います。そこら辺の部分の行く先といいましょうか、まだ使える部分のものは東総医療圏の中でどこかに使ってもらおうとか、そういうことも含めるわけですか。それとも、私としてはそんなにも一気に60億円も出さなくても少しずつでもいいのかなと、そんなような。全体の試算ではそんなにも変わらないと思いますけれども、その辺はこれからもひとつ考えてくれていてもらいたいと思いますけれども、いかがでしょうか。

○委員長（高橋利彦） 病院事務部長。

○病院事務部長（今井和夫） これは経理課長からもご説明申し上げましたけれども、特別この60億円を今回のために用意したということではなくて、実は毎年度今までもお願いをしている金額でございまして決して大きな、もちろん60億円という数字は大きいんですけれども、旭中央病院にとって必ずしも飛び抜けた数字というわけでは実はございません。むしろ今までは毎年12億円以上にもう少し多く投資をさせていただいた時期もございまして、最近ではむしろ控えめに、抑えぎみでこの病院建設に向けて少し抑えているというのが実情でございまして、そういう意味からは割と手がたい数字であろうというふうに思っております。

もっと率直に言えば、5年先、10年先も実は毎年やはりこういうふうに投資をしていかななくてはいけない。それから、この資金計画の中の例えば7ページの、今ちょっと目に付きましたのであれですけれども、7ページのケース2のところでは真ん中辺に機器で10億円という

のがありますけれども、これは備考欄を見ていただきますと返済5年というふうにあるんですね。要するに、これはいわゆるソフトであるとか機械とかというのは償却5年で見えておりますので、5年たつと実は非常に新しい活発な技術革新が進んでまいりましてやはり次々に、だから新しいのがいいんだということではないんですけれども、やはり医療の技術というのが年々進歩してまいりますので、がん治療をはじめとしてやはり新しい機器の力というのは非常に大きなものがございますので、現場の医師がそういう機械を使って治療をしたいという意欲を失わないためにもやはりある程度のところは新しい機器に、無駄があってははいけませんけれども、ある水準はやはり維持していくというところに旭中央病院にドクターの間でも人気が出る1つの理由もございましてご理解をいただきたいと思っております。

○委員長（高橋利彦） 佐久間委員。

○委員（佐久間茂樹） ちょっとまだよく分からないんですけれども、合計302億円というトータルを出して、財政投融资資金75%、50%というケースで計算しています。これは最終的に公的資金というか、あくまでも借りですよ。グラフの方は返済をしていくということでしょ。それから、補助金としてもらえるという話ではないですね、その確認をまず第1点。返済するということですね。

その前に、今現在、多分155億円という企業債があるんだろうと思うんですよ、現在。国債が多分37億円とか38億円ぐらい。この30億円という資金はいいんですが、今ある155億円という借入れ、企業債の返還、これはこの中に入っていませんよね。

○委員長（高橋利彦） 病院経理課長。

○病院経理課長（鏑木友孝） 入っております。その上での計算となっております。

○委員長（高橋利彦） 病院事務部長。

○病院事務部長（今井和夫） トータル約300億円ほどのとか、資金計画に対して自己資金でやれる部分がありますので200億円ちょっとお借りしよう。それは金利を払って15年ないし30年で返済をしていくということです。

それともう一つは、もちろんここには書けないといいますか、県あるいは国に出すときには書けないわけですが、私どもの心づもりとしてはできれば何がしかの補助金を別途、ぜひ獲得したいというふうに考えております。

ただ、それを書くと県に怒られちゃいますのであらかじめ書くわけにはいきませんが、そういう際にも、これ、私が言っただけなんですけれども、ひとつ議会の方も一致してぜひ声を上げていただければそういう補助金も獲得しやすいわけですので、ぜひひとつ議会も

そういうふうにも、県も補助金を出せよというような声を上げていただくと私も非常にやりやすいなと思っておりますので、何分よろしく申し上げます。

○委員長（高橋利彦） 佐久間委員。

○委員（佐久間茂樹） もう1点ちょっとお伺いしたいんですけれども、補助金で89億円くらいという、負債の方に載っているんですけれども、これは例えば既存の建物を壊したり、そうしたりするときには返すとか、そんなお話の種類の金額ですか。

○委員長（高橋利彦） 病院経理課長。

○病院経理課長（鏑木友孝） すみません、予算書の方、どちらでしょうか。15ページの補助金でありますでしょうか。資本剰余金の中の補助金88億3,200万円というのが。これは別に返済する必要はございません。といいますのは、今の機能を新しいところにみんな移ります。そこら辺が不足していると一部返還とかという話になるんですけれども、もちろんこれからの協議の上なんですけれども、説明しての上なんですけれども、基本的には返済ということは起こらないと感じております。

○委員長（高橋利彦） 病院事務部長。

○病院事務部長（今井和夫） その辺の細かい協議を実はまだ県あるいは国としているわけではございませんでこれからのご相談ということなんですけれども、例えば今補助金のお話ございましたけれども、起債もやはり同じようなことございまして、場合によっては一部繰り上げ償還するものがあるかもしれないんですけれども、それも今後の協議ということでございまして、ただ内々県の方に感触を聞いている段階ではそう大きな心配はないんだろうと。君津中央病院でも同じような補助金なり起債の例もございましたので向こうにも照会しておりますけれども、やはり結果的にはあまり大きな支障はなかったというふうに聞いております。

○委員長（高橋利彦） ほかにありませんか。

じゃ、ここで暫時休憩します。再開は3時とします。

休憩 午後 2時50分

再開 午後 3時 0分

○委員長（高橋利彦） それでは、再開します。

質疑ありませんか。

(発言する人なし)

○委員長（高橋利彦） 特にないようですので、議案第8号の質疑を終わります。

以上で付託議案についての質疑は終わりました。

議案の採決

○委員長（高橋利彦） これより討論を省略して議案の採決を行います。

議案第7号、平成19年度旭市水道事業会計予算の議決について賛成の方の起立を求めます。

(賛成者起立)

○委員長（高橋利彦） 全員賛成。

よって、議案第7号は原案のとおり可決されました。

議案第8号、平成19年度旭市病院事業会計予算の議決について賛成の方の起立を求めます。

(賛成者起立)

○委員長（高橋利彦） 全員賛成。

よって、議案第8号は原案のとおり可決されました。

議案第9号、平成19年度旭市国民宿舎事業会計予算の議決について賛成の方の起立を求めます。

(賛成者起立)

○委員長（高橋利彦） 全員賛成。

よって、議案第9号は原案のとおり可決されました。

議案第14号、平成18年度旭市水道事業会計補正予算の議決について賛成の方の起立を求めます。

(賛成者起立)

○委員長（高橋利彦） 全員賛成。

よって、議案第14号は原案のとおり可決されました。

議案第15号、平成18年度旭市国民宿舎事業会計補正予算の議決について賛成の方の起立を求めます。

(賛成者起立)

○委員長（高橋利彦） 全員賛成。

よって、議案第15号は原案のとおり可決されました。

議案第31号、旭市病院事業使用料及び手数料条例の一部を改正する条例の制定について賛成の方の起立を求めます。

（賛成者起立）

○委員長（高橋利彦） 全員賛成。

よって、議案第31号は原案のとおり可決されました。

議案第37号、専決処分の承認について賛成の方の起立を求めます。

（賛成者起立）

○委員長（高橋利彦） 全員賛成。

よって、議案第37号は承認することに決しました。

以上で、本委員会に付託されました議案の審査は終了いたしました。

なお、委員長報告につきましては委員長に一任願いたいと思いますが、これにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○委員長（高橋利彦） ご異議ないようでございますので、委員長報告は委員長一任とさせていただきます。

所管事項の報告

○委員長（高橋利彦） 次に、所管事項の報告に入ります。

報告がある所管課は随時報告をしてください。

水道課長。

○水道課長（堀川茂博） 水道課の方から旭市水道事業基本計画書についてご報告申し上げます。

ご配布のこの資料の方をご覧いただきたいと思います。

この基本計画につきましては、ほとんどが料金改定等で説明済みですけれども、いま一度、旭市水道事業運営協議会のご承認をいただきましたので委員会の方にもご報告したいと思っておりますのでよろしく願いいたします。

初めに、1ページをご覧いただきたいと思います。

水道事業の現況となっております。概要につきましては割愛させていただきます。

水道事業の現況につきましては、計画給水人口が5万8,723人、それから計画給水量が2万6,979立方メートル/日として現在の水道事業については厚生労働大臣の認可を受けて現在に至っております。

次のページをご覧いただきたいと思います。

給水区域の図となっております。海上エリアのちょうど田んぼの部分が一部給水区域となっておりますけれども、そのほかにつきましては旭市の行政区域と一致するものでございます。その中に黄色い印で専用水道が一部記載されております。病院ほか、あるいは公共ですと県営住宅の専用水道等がございます。

次の3ページをご覧いただきたいと思います。

その専用水道の状況の表となっております。

次の4ページをご覧いただきたいと思います。

4ページにつきましては、計画給水量について記載してございます。17年度の実績値、それから10年後の28年度の計画値、給水人口の方は6万1,700人としております。それから、日最大給水量は2万2,500立方メートル/日というふうになっております。これにつきましては一番下に記載してございますけれども、普及率の増加に伴う給水人口の増加及び給水量の増加を見込んでおります。

次の5ページをご覧いただきたいと思います。

給水量の推計表となっております。料金算定等につきましてもこの資料については添付してございますけれども、10年後を推計してそれぞれ行政区域内人口、人口につきましてはやや減少傾向ということで先ほど申し上げました一日平均給水量、給水人口につきましては普及率を増加させなければいけないということで右肩上がりとなっております。そのほかにつきましては、ほぼ横ばい状態でやや上昇ということで見込んで推計しております。

次の6ページをご覧いただきたいと思います。

水道施設の概要でございます。先ほど言いましたように、計画目標年次である平成28年度の日最大給水量につきましては2万2,500立方メートル/日ということで、次のページにそれらに伴う施設の概要が記載してございます。7ページ、事業計画のフローシートとなっております。現在4つの配水池があるわけでございますけれども、それらに各配水ポンプがあるという。

次の8ページをご覧くださいと思います。

水位の高低図ということになっております。お手元に配布の資料には記載してございませんけれども、計画では旭エリアにつきましては機械的にポンプで水圧を得ているということで、そのほかの干潟、飯岡、海上につきましては自然流下で高架タンク、分かりやすい表現ですと高架タンクということになりますけれども、それらで配水しているということで、余裕のあるのが干潟配水場、それから飯岡ということになりまして、一応平成17年度と比較いたしますと干潟配水区の方がプラス598立方メートル／日増やすと。それから、旭もやはり普及率の増加に伴いましてプラス463立方メートル／日を増やすと。それから、飯岡は余裕がありますのでプラスの1,229立方メートル／日増やすということですので。海上エリアについてはメイン管をつなぎませんけれども、プラス395ということではほぼ現状どおりということになっております。したがって、この高低図で見ていただきたいのは旭エリアを補うために干潟、飯岡配水区で支援していくということになります。

次に、9ページ、ご覧くださいと思います。

9ページにつきましては、施設の位置、構造、規模等々となっております。

次に、10ページについても同様の9ページの続きとなっております。

次に、11ページをご覧くださいと思います。

水道施設の整備計画ということになっております。先ほど私の方から申し上げておりますけれども、本来的には自然流下方式が望ましいということで、自然流下方式ですと維持管理費が削減され、あるいは給水の安定性を高めることができるということで将来像としては自然流下方式が好ましいと。

下の表になりますけれども、施設整備の概要、平成19年度から25年度まで計画的に記載の主な事業を行います。19年度は飯岡配水区、旭配水区の東部まで広げるとともに、飯岡配水区の安定供給を図るために150ミリの配水管を国道の飯岡バイパスを横断させると。この際に、飯岡バイパスにつきましては飯岡の合併の要望もございましたので、ただ単に横断することではなくて路線を選びながら少しでもバイパスの中を数百メートルでも通しながら管を布設していくというふうに現状では考えております。

それから、20年度はやはり飯岡の配水区の関係になりますけれども、片貝線に配水管200ファイを布設します。それから、21年度、飯岡配水区及び旭配水区の主要地方道飯岡一宮線に配水管150ファイを布設すると。これで飯岡と旭はつながることになります。それから、22年度以降、22年、23年ですか、現在ですと干潟配水区と旭配水区は緊急連絡管ということ

で新町地先に1か所あるわけですがけれども、今回の施設整備計画の中で配水管150ファイをもう1個布設するというので計画をしております。

それから、24年、25年、集中管理システムと。現在の配水場はそれぞれ別個に管理しておりますけれども、端末を付けまして集中的に配水場と末端の水質等について常時見られるような整備を行うと。先進地ではこのような集中管理システムというふうに現在なっております。

それから、26～28年度空白になっておりますけれども、これらにつきましてははだいぶ先のことので一たんつないでみて部分的にもう一度見直す必要があるのではないかというふうなことで空欄になっておりますけれども、その他の事項に記載のとおり旭の配水場の電気計装設備がもう既に耐用年数25年以上経過しておりますして非常に老朽化が厳しくなっております。今週の土曜日にもヘッダー管という600ファイの一番太い管が腐食して穴があいてバンドをかけてあるんですけれども、交換するようなことになっております。

(発言する人あり)

○水道課長(堀川茂博) 分かりました。じゃ、12ページ以降についてはその支援の図となっております。

(発言する人あり)

○水道課長(堀川茂博) 分かりました。では、表の方は全部割愛させていただきます。

じゃ、一番最後の方になりますけれども、29ページをご覧いただきたいと思います。

まとめということで、水道施設の整備計画につきましては旭配水区の一部の区域を先ほど来申し上げましているとおおり、飯岡、干潟の配水区に編入して配水系の相互の連携を可能にすると。水道施設の一体化を図るということを目的としております。

総事業費につきましては11億9,310万円となっております。

料金等については、この前議決いただきましたように1か月20立方使用する世帯で5,040円、税込みとなっております。料金については、今年度の4月1日、来月の4月1日から施行されるようになっております。

今後の課題、次のページ、30ページになりますけれども、まず安全性ということで、それから維持管理性の向上ということで掲げてございます。

それから、2番目に他の事業体、先ほどもちょっと触れましたけれども、銚子市あるいは香取市についても緊急連絡管等を結んだ方がいいのではないかということで課題事項に入れてございます。

それから3番目として、旭配水場の老朽化に伴う大改修が予測されるということになっております。

一番最後に4番目になりますけれども、今後は配水方式の検討ということで自然流下方式を目指さなければいけないという課題になっています。

以上でございます。何かご質問等がございましたらよろしく申し上げます。

○委員長（高橋利彦） ありがとうございます。

所管事項の報告でございますが、何かお聞きしたいことがありましたらお願いします。

佐久間委員。

○委員（佐久間茂樹） 最後の「自然流下による配水方式が安全性・維持管理性において有利であることから、今後、配水方式の変更を検討します」という話なんですけれども、今、旭配水区はポンプ配水ですよ。ここに1万2,923ですか、この量を例えば干潟とか飯岡に持っていくということですか。

○委員長（高橋利彦） 水道課長。

○水道課長（堀川茂博） 全部持っていくということは不可能でございますので、例えば3か所の配水場を増設等が考えられます。あるいは新規に中央、より効果的な場所に1か所とか、一番少なければ、そういう集中する方式がというふうになります。したがって、現状のままでは旭エリアをすべて補うことは不可能ということで、取りあえず今回の計画におきましては飯岡と干潟のエリアを増やすということで計画してございます。課題につきましては、将来像とその先の将来像ということでご理解いただきたいと思っております。

○委員長（高橋利彦） ほかにありませんか。

じゃ、所管事項についてほかの課、ございませんか。

（発言する人なし）

○委員長（高橋利彦） 特にならぬようでございますので、所管事項の報告を終わります。

陳情の審査

○委員長（高橋利彦） 次に、陳情1件の審査を行います。

病院以外は退席をしてください。

しばらく休憩いたします。委員の皆さんはそのまま自席でお待ちください。

休憩 午後 3時25分

再開 午後 3時26分

○委員長（高橋利彦） 休憩前に引き続き会議を開きます。

去る3月2日、本会議におきまして本委員会に付託されました陳情は、陳情第1号、安全・安心の医療と看護の実現を求める陳情の1件であります。

それでは、陳情第1号の審査を行います。

初めに、病院より参考意見がありましたらお願いいたします。

病院事務部長。

○病院事務部長（今井和夫） 私どもといたしましては、病院の加盟団体でございます全国自治体病院協議会や日本病院会の場で厚労省を交えていろいろな議論もしていただいておりますので、そういう団体を通じて陳情活動は行うようにしていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○委員長（高橋利彦） ありがとうございます。

それでは、審査をお願いいたします。ご意見がありましたらお願いします。

（発言する人あり）

○病院事務部長（今井和夫） 全国自治体病院協議会ですとか日本病院会を通じて働きかけをしていきたいという考え方でございます。

○委員長（高橋利彦） 林一哉委員。

○委員（林 一哉） 今回の千葉県の千葉県医療労働組合連合会の委員長名で来ていますけれども、こういう団体との関係のない団体を……私、ちょっと意味が。

○委員長（高橋利彦） 病院事務部長。

○病院事務部長（今井和夫） 関係が無いといいますが、そういう個々のいろいろな団体もございますけれども、私どもとすれば中央病院が加盟しております全国自治体病院協議会や日本病院会を通じて訴えていくのが通常そこで厚労省といろいろな議論もされておりますので、それが一番妥当な病院側にすれば一番ふさわしい活動であるというふうに理解しておりますのでそのようにしたいということでございます。

○委員長（高橋利彦） 事務局長。

○事務局長（来栖昭一） それでは、県内の陳情書の取り扱いの方法ですけれども、一応北総11市、ふだん我々が付き合いをしている11市について調査をいたしました。その中で、銚子市と香取市と匝瑳市が、この3市におきましては提出がございません。それで、佐倉市につきましては19年2月、選挙があるもので2月定例会だったんですけれども、そこへ上程をしまして不採択となりました。あとのほかの成田市、四街道市、印西市、白井市、富里市、八街市につきましては、陳情はありましたけれども、議員に対しての文書の配布のみと。取り上げなかったという結果でございます。

以上でございます。

○委員長（高橋利彦） 今、局長から参考意見がありました。何か委員の皆さん、ご意見ありましたら。

（発言する人あり）

○委員長（高橋利彦） 事務局長。

○事務局長（来栖昭一） 陳情というのは、各市議会において支部か何かが多分出すと思うんです。同じ陳情書でも県内まちまちです。出されないところもあるし出すところもある、そういうことでございます。

○委員長（高橋利彦） 何かご意見ありますか。

佐久間委員。

○委員（佐久間茂樹） 陳情趣旨というのは、今回病院は匝瑳病院もそうですけれども、特にお医者さんが足りない、看護師が足りないという話はどこへ行っても出ているんですよ。どこの団体が言おうともこの事実だけはあまり変わらないのかなと私は思うんですよ。千葉県医療労働組合連合会というところで陳情来たということなんですけれども、私、言っている内容は別にいいのかなとと思っているんです。この組合というか、これは陳情ですよ。これはどこに、議会に対してどうしろというんですかね。陳情書を書けという話じゃないんですよ。施策を進めることということで理解していいんですか、これ。

○委員長（高橋利彦） 事務局長。

○事務局長（来栖昭一） 結局、意見書を国等に対して提出していただきたいということでございます。

しかしながら、1つの団体で2つも3つも陳情書を出してあるのはどうかなという考えも持っています。病院としては、自分らが加盟している団体を通して同じものを出すからとい

うことだと思えます。

以上でございます。

○委員長（高橋利彦） 佐久間委員。

○委員（佐久間茂樹） そうしますと、中央病院が加盟している団体から同じような趣旨の陳情書が別に出されるわけですか。

○委員長（高橋利彦） 病院事務部長。

○病院事務部長（今井和夫） こういった全自病というふうに省略して呼んでおりますけれども、全国自治体病院協議会とか日本病院会というのは必ずしも本日の陳情書と同じ文面ですとは限りませんが、同様のことについてはもろもろ問題がございますので看護師の今回の改正で大変病院も困っております。7対1配置の問題とか、あるいは医師不足の対策の問題等々含めていろいろな形で協議をし、あるいは陳情、要望活動もされておりますので、ほぼ同様のものは出ていくというふうに理解しております。

○委員長（高橋利彦） ほかにありませんか。

（発言する人なし）

○委員長（高橋利彦） 特にないようですので、陳情第1号の審査を終わります。

ここで執行部の皆さんは退席してください。大変ご苦労さまでした。

ここでしばらく休憩いたします。議員の皆さんはそのまま自席でお待ちください。

休憩 午後 3時32分

再開 午後 3時33分

○委員長（高橋利彦） 休憩前に引き続き会議を開きます。

陳情の採決

○委員長（高橋利彦） 次に、討論を省略して採決を行います。

陳情第1号、安全・安心の医療と看護の実現を求める陳情について、採択とするに賛成の方の起立を求めます。

(賛成者起立なし)

○委員長(高橋利彦) 賛成者なしです。

改めて採決いたします。

不採択とするに賛成の方の起立を求めます。

(賛成者起立)

○委員長(高橋利彦) 全員賛成。

よって、本陳情は不採択と決しました。

以上で、本委員会に付託されました陳情の審査は終了いたしました。

なお、委員長報告につきましては委員長に一任願いたいと思いますが、これにご異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

○委員長(高橋利彦) ご異議ないようでございますので、委員長報告は委員長一任とさせていただきます。

○委員長(高橋利彦) 以上をもちまして、審査は全部終了いたしました。

これにて本委員会を閉会いたします。

大変ご苦労さまでございました。

閉会 午後 3時35分

旭市議会委員会条例第30条第1項の規定により署名する。

旭市議会公営企業常任委員会委員長 高橋 利彦

建設経済常任委員会

平成19年3月12日（月曜日）

付議事件

《付託議案》

- 議案第 1 号 平成19年度旭市一般会計予算の議決についてのうち本委員会所管事項
議案第 5 号 平成19年度旭市下水道事業特別会計予算の議決について
議案第 6 号 平成19年度旭市農業集落排水事業特別会計予算の議決について
議案第10号 平成18年度旭市一般会計補正予算の議決についてのうち本委員会所管事項
議案第13号 平成18年度旭市下水道事業特別会計補正予算の議決について
議案第28号 旭市中小企業資金融資条例の一部を改正する条例の制定について
議案第33号 市道路線の認定について

出席委員（5名）

委員長	向 後 和 夫	副委員長	滑 川 公 英
委員	神 子 功	委員	嶋 田 哲 純
委員	平 野 忠 作		

欠席委員（1名）

委員 鈴木正道

委員外出席者（1名）

議長 嶋田茂樹

説明のため出席した者（26名）

助 役	重 田 雅 行	商工観光課長	神 原 房 雄
農水産課長	堀 江 隆 夫	建設課長	米 本 壽 一
都市整備課長	島 田 和 幸	下水道課長	山 崎 健 次

農業委員会議
事務局長
その他担当
農事
そ職

小 田 雄 治
19名

事務局職員出席者

事務局 長 来 栖 昭 一 事務局次長 石 毛 健 一
主 査 穴 澤 昭 和

開会 午前10時 0分

○委員長（向後和夫） おはようございます。

本日は、建設経済常任委員会ということで、委員の皆様方には大変ご多忙の中をご出席をいただきまして大変ありがとうございます。

今年は暖冬ということで、桜の開花も非常に早いようであります。銚子地区は4月1日が開花予定ということで、4月7日の旭市の桜まつり、満開の中でのすばらしいお祭りが期待をされております。

それでは、先般の議会におきまして、議長より付託をされました7議案につきまして、委員の皆様方には慎重審査をお願いいたしまして、あいさついたします。

ここで、委員会を開会する前に、あらかじめご了承願います。

この後、議会だより取材のため、職員が委員会室内の写真撮影を行いますので、ご了承をお願いいたします。

ただいまの出席委員は5名、委員会は成立いたしました。

それでは、建設経済常任委員会を開会いたします。

なお、鈴木正道委員におかれましては、健康上の理由で本日欠席させていただきたいとの連絡がございましたので、ご了解をいただきたいと思います。

本日、嶋田議長にご出席をいただいておりますので、ごあいさつをお願いいたします。

○議長（嶋田茂樹） おはようございます。

委員の皆様方、大変ご苦労さまでございます。本日は、付託されました一般会計予算を含む7議案について審査をしていただくことになっております。どうぞよろしく願いいたしたいと思います。ご審議のほどよろしく願いしまして、簡単ではありますが、あいさつにかえさせていただきます。ご苦労さまでございます。

○委員長（向後和夫） ありがとうございます。

議案説明のため、助役、担当課長及び職員の出席を求めました。

それでは、執行部を代表して重田助役よりごあいさつをお願いいたします。

○助役（重田雅行） おはようございます。

本日は、建設経済常任委員会ということで、議長、そして委員の皆様には大変お忙しい中をご苦労さまでございます。

本日、執行部から当委員会に審議をお願いいたします案件は、当初予算関係が一般会計、それから下水道事業特別会計、農業集落排水事業の特別会計の3件、それから補正予算関係が一般会計、そして下水道事業特別会計の2件、それと条例関係でございますが、中小企業資金融資条例の一部改正が1件、そしてさらに市道路線の認定が1件ということで、合計7件、7議案でございます。どうかよろしくご審議くださいますようお願い申し上げまして、あいさつとさせていただきます。よろしくをお願いいたします。

○委員長（向後和夫） ありがとうございます。

議案の説明、質疑

○委員長（向後和夫） ただいまから本委員会に付託されました議案の審査を行います。

去る3月2日の本会議におきまして、本委員会に付託されました議案は、議案第1号、平成19年度旭市一般会計予算の議決についてのうち本委員会所管事項について、議案第5号、平成19年度旭市下水道事業特別会計予算の議決について、議案第6号、平成19年度旭市農業集落排水事業特別会計予算の議決について、議案第10号、平成18年度旭市一般会計補正予算の議決についてのうち本委員会所管事項について、議案第13号、平成18年度旭市下水道事業特別会計補正予算の議決について、議案第28号、旭市中小企業資金融資条例の一部を改正する条例の制定について、議案第33号、市道路線の認定についての7議案であります。

これより付託議案の審査を行います。

初めに、議案第1号中の所管事項について、担当課より補足して説明がありましたら、お願いいたします。

商工観光課長。

○商工観光課長（神原房雄） それでは、商工観光課所管の第5款、それから7款について補足説明を申し上げます。

当初予算でございますので、全般の説明を行います。その中でも特に来年度変わる部分、それから新規の部分を中心に説明したいと思います。

それでは、第5款労働費でございます。ページは150ページになります。

労働費につきましては、18年度予算対しまして19年度予算12.3%増ということになっております。主な内容につきましては、職員給与費が平成18年度当初3人だったものが、平成

19年度は4人、1人増という部分が大きな理由でございます。

それでは、個々の事業について説明いたしたいと思えます。

150ページ、第5款労働費、1項1目働く婦人の家費、説明欄の2になります。働く婦人の家の管理費で、13節委託料、151ページになります。管理委託料103万5,000円でございます。これはシルバー人材センターによる働く婦人の家の夜間及び土曜日の管理委託料でございます。これにつきましては、臨時職員が婦人の家におりましたが、アクションプランの中で平成19年度につきましては、臨時職員を廃止するということの中での部分でございます。

次の説明欄3、働く婦人の家活動費でございますが、これは昨年と変わるところはございません。33講座、282回、716人を予定しているところでございます。

次の2目労働諸費は152ページになります。説明欄の2、職業相談室運営支援事業で、昨年7月に県下3番目の旭市地域職業相談室が開設されました。さらに地域に密着した求職者への情報発信や相談体制の強化充実を図るため、市の負担によります職員1名を配置するものでございます。

5款労働費については以上でございます。

次に、7款商工費になります。

7款商工費につきましては、18年度に対しまして19年度予算は9.1%の増と。2,875万8,000円の増ということになります。増の主な理由は、海岸の環境整備のトイレ3,000万円、それから商店街活性化のためのプレミアム商品券の発行が1,000万円、それから長熊スポーツ公園の調査委託が主なものでございます。

それでは、随時、事業別に説明したいと思えます。

180ページの7款商工費の1項1目商工総務費につきましては1億1,179万5,000円で、商工観光課の事務的経費及び消費生活相談による消費相談業務の経費でございます。

次に、181ページ、2目商工振興費は1億2,702万2,000円で、182ページの上段の説明欄、19節負担金補助及び交付金の商工会育成補助金これが1,791万円、これは商工会の運営費補助及び商工会の事務局長、それから旭市観光協会事務局長の人件費でございます。

次の説明欄の2、中小企業金融事業の21節貸付金でございます。市の中小企業融資資金制度に基づきまして、中小企業者が市内の金融機関から融資を受けるに当たり、あらかじめ市が市内の6金融機関に預託を行うもので、6,000万円を預託して10倍の6億円までの融資が可能となるものです。

それから、22節保証金につきましては、代位弁済のための科目設定でございます。

次の説明欄 3、制度融資資金利子補給事業の旭市中小企業融資資金利子補給補助金1,188万4,000円は、融資した貸し付けに対する利子補給補助金でございます。利子補給率は年2.5%以内ということになっております。これは匝瑳市、銚子市よりも高い率でございます。

次の商工業の近代化資金利子補給補助金1万4,000円は、合併前の干潟町分の利子補給で平成20年まででございます。

次の中小企業振興資金利子補給補助金243万5,000円につきましては、旧海上町及び飯岡町の利子補給分でございます。海上町については26年まで、飯岡町につきましては24年までの利子補給補助金でございます。

次の説明欄 4、商業活性化推進事業は、旭市商店街等の活性化事業補助金254万円につきましては、商業団体等が実施するイベントや環境整備に助成するもの4団体を見込みました。

次の旭市商店振興事業補助金1,258万円は、商店街の活性化を図るためのプレミアム付き商品券の発行を夏及び年末の2回予定するための費用1,000万円が主なものでございます。

183ページになります。

旭市商店街等施設及び景観整備事業補助金210万円につきましては、街路灯・フラッグ等の改修及び駐車場の借上げの助成でございます。

次の説明欄の 5、中心市街地活性化対策事業276万5,000円は、中心市街地の空き店舗の活用でありまして、まちかどギャラリー「銀座」の管理運営の費用でございます。

次の説明欄 6、企業誘致促進事業1,108万円は、184ページになります。上段19節負担金補助及び交付金で、鎌数工業団地への企業誘致関係費が100万円及び企業が立地した場合の排水処理施設等の企業誘致奨励助成金1,000万円でございます。

次の説明欄 7、工業振興支援事業につきましては、干潟のさくら台工業団地の調整池の維持管理費及び工業団地の排水に係る干潟土地改良区への負担金でございます。

次に、3目観光費につきましては1億751万5,000円です。

説明欄 1、観光事務費は1,222万1,000円で、これは観光PRや観光団体等に対する補助金が主なものでありまして、185ページになります。19節負担金補助及び交付金の2番目、観光協会補助金1,010万4,000円は、旭及び飯岡観光協会の運営補助金です。

なお、この中には、七夕市民まつり補助金の750万円も含まれております。

次の説明欄 2、観光施設管理費1,400万7,000円は、観光施設の維持管理費で186ページになります。15節照明等改修工事、これは腐食による飯岡地区観光街路灯の改修工事を予定するものでございます。

次の説明欄3、観光イベント事業1,019万9,000円は、袋公園桜まつり、それからYOU・遊フェスティバル等のイベント開催の関係費用です。特に変わったところはありませんが、12節広告料を見ていただきたいんですが、これは千葉テレビ放映をしております。本年度30分放映で、従来七夕だけの放映でございましたが、19年度につきましては七夕と併せてYOU・遊フェスティバルを放送する予定でございます。

それから、187ページになります。説明欄の4、観光施設整備事業3,000万円、これは本会議でも申し上げましたが、老朽化した萩園公園の駐車場のトイレの改築費用でございます。

次の説明欄の5、海水浴場開設事業1,610万9,000円、これは飯岡、それから矢指ヶ浦の海水浴場2か所の開設に伴う費用でありまして、主なものは13節委託料の2番目、監視員業務委託料で安全を確保するためのライフセーバー16人の費用796万6,000円と、それから188ページになりますが、15節海水浴場整備工事477万9,000円は、砂の撤去や臨時駐車場の整備等の費用でございます。

次の説明欄6、飯岡刑部岬展望館の維持管理費1,416万7,000円、これは旭市が指定管理者となっております刑部岬展望館の管理運営に係る費用が主なものであります。

189ページになります。

17節土地購入費債務負担償還金431万2,000円、これは旧飯岡町で造成しました上永井公園の用地取得に係る千葉県地方土地開発公社への償還金で20年度が完了ということになります。

次の説明欄7、長熊釣堀センター管理費1,081万2,000円は、これは長熊の釣堀センターの運営管理に係る費用が主なものでありまして、13節委託料、190ページになります。2行目、施設調査委託料250万円ですが、長熊スポーツ公園施設の老朽化が著しいことから、施設全体の現状調査をする中で具体的な整備方針を策定する費用でございます。

以上で予算及び事業概要の説明を終わります。

○委員長（向後和夫） 続いて、ほかの課の方。

農業委員会事務局長。

○農業委員会事務局長（小田雄治） それでは、農業委員会でございますけれども、156ページ、これ6款の農林水産業費のスタートでございますけれども、156ページをご覧くださいと思います。

1目農業委員会費、本年度総額1,732万円でございますけれども、説明欄1にございますように、農業委員報酬1,286万4,000円、それと2の農業委員会運営費333万8,000円が主たるものでございます。

以上でございます。

○委員長（向後和夫） 農水産課長。

○農水産課長（堀江隆夫） それでは、農水産関係につきまして説明をさせていただきます。ページ的には158ページから177ページでございます。主要施策等の説明の中でも若干説明してあります主な新規の事業、あるいは特に知っていただきたい事業、そういうものにつきましてご報告をさせていただきます。

ページ的には160ページの方をお開きいただきたいと思います。

160ページの一番下の方に、いきいき旭・産業まつり、あるいは海上産業まつり、ふるさとまつり・ひかた、3つのお祭りをそれぞれ記載をさせていただいております。昨年秋に実施をしまして、それぞれ実行委員会の中で反省会等を持ちまして、合併をしたからこそ1か所だという意見もありましたけれども、各地域のいろいろなことをそれぞれ伝承していく必要もある、そんなことで3つの地区、予算が通れば平成19年も3か所でそれぞれ実施をしたいということで組ませていただいております。

実行委員会の方からも既に日にち的には、いきいき旭・産業まつり、ここにつきましては10月21日、あるいは海上産業まつりは11月23日、ふるさとまつり・ひかたは11月11日というようなことで、約2週間のスペースをあげながら、市内でそれぞれ3か所で祭りを展開していきたい、そんなことで予算を考えております。

なお、飯岡地区で考えております水産まつり、これにつきましては企画課の方で別途交流事業の中で約300万円近くの事業費を盛り込まさせていただいております。

続きまして、161ページの農業後継者育成事業でございます。これにつきましては、平成19年に羽ばたくルーキー農業者決起事業という実は名前を持ちまして、特に新規に就農をされた方、これはUターンも含みますけれども、そういう方々を市の中に一堂に会しまして、歓迎会的あるいは研修会的なものを実施をさせていただきたい。そんなことで報償費あるいは食糧費等を組まさせていただきました。

それと、この161ページの中段に負担金及び交付金ということで、農水産業後継者海外等研修補助金100万円組まさせていただきました。これは隔年で実施をしておりますけれども、本年19年につきましては、農業後継者等が海外ということていろいろあったわけですが、海外今いろんな病気等もあります。そんなことで、日本国内でもいい所もあるのかなど、そんなところで海外あるいは国内に後継者が視察に行った場合、そういう際に市から補助をしたい、そういう事業でございます。

あと、中段の制度資金の利子補給事業でございます。これにつきましては、市長の報告の中にありましたように、平成19年度4月から実は農業近代化資金、それと公庫のスーパーL資金、これが無利子ということで、実は実施をされる予定で現在動いております。現在、俗に言います貸し渋りじゃなくて借り渋りがだいぶ農家があります。1月から3月までで借りるであれば4月から借りた方が金利がゼロになると、そんなことで4月からどっと申請が上がってくるのかな、そんなことで農業近代化資金、あるいは一番下の農業経営基盤強化資金利子補給、これにつきましてはそれぞれ18年から比べまして予算書の方、増額をさせていただいております。平成18年度に比べまして、制度資金の利子補給約1,000万円ほど増額をさせていただいております。

その次の162ページの方をお開きいただきたいと思います。

162ページの実は説明欄の6の豊かな産地づくり支援事業、ここに売れる米づくり推進事業ということで、230万円ほど組まさせていただきます。これは現在、生産調整お米等いろいろやられているわけですが、その中に単なる生産調整をするだけじゃなくて売れる米づくり、これを市で目指そうということで今動きがございます。紙袋を特色あるものに変えたり、あるいは栽培を特色あるものに変える、そういう動きがございます。そういう団体に補助をしていきたい、そういうことで組まさせていただきました。

さらに、163ページの方をお開きいただきたいと思います。

163ページの方に、ベンチャー農業支援事業ということで90万円、これは平成18年と同じでございます。国・県の支援に頼らず、市独自で農業のいろんな新しい発想、あるいは栽培技術、そういうものに対しまして30万円を事業費と見込みまして、そのうちの半分15万円をそれぞれ農業者の方に上限としまして補助をしていきたい。合わせまして6件ほど見込んでおります。

その次のページの、大変恐縮ですけれども、164ページの方をお開きいただきたいと思います。

上から2行目のところに、地場野菜フレッシュ加工推進事業補助金ということで、50万円ほど組まさせていただきました。これにつきましては、市内で日本一の野菜の産地でありますけれども、なかなか学校給食あるいは市内のいろんな飲食店にそういう食材が回っていないというのが、我々ちょっと判断をしております。そんなことで、その背景としては何かあるかということですが、本当に市内の野菜を、例えば学校給食の栄養士の方々が知っているのか、あるいはどういう時期にしゅんの野菜があるのか、そういうものを一つ

我々の情報の提供も乏しい、そんなことで19年につきましては、そういう地産地消の部分、学校給食あるいは市内の飲食店に発信をしたい、そういう事業でございます。

さらに、165ページの方をお開きいただきたいと思います。

この中に農業経営基盤強化促進事業の中の19節負担金補助の中に、遊休農地解消対策事業補助金25万円ほど組まさせていただきました。これにつきましては、農業委員会からの要望、あるいは農業委員会の調査の中で、市内に優良農地が数多く遊休化している、そういうところも実は情報としていただいております。それらにつきまして、農業委員会あるいは農水産課とさらに担い手の農家、これが連携をしまして、それをうまく活用できないか、これをこのモデル事業で探してみたい。

具体的には、担い手の農家の方が土地を借りて遊休農地を耕作する場合、これにつきまして若干の補助をしていきたい。どういうものを担い手の農家の方に想定しているかということですが、実は専用の遊休農地、何かいろいろな大きな竹なんかでも伐採チップ、チップ状態にする機械等もございます。そういう機械を導入する際の経費の一部に充てていただきたい、そういうことを一つ想定しております。

166ページの方をご覧になっていただきたいと思います。

農業振興費の中に園芸王国ちば強化支援事業ということで、4,700万円ほど組まさせていただきます。これは19年矢指の花弁組合、あるいは干潟地区の椿の里、海上のいちご組合、この3つの組織がトラクターあるいはパイプハウス、こういうものを導入する際、県の補助金を使わせていただく。県の補助金は3分の1以内ということになっております。それと、ハウス栽培の緊急促進事業ということで10件ほど見込んでおります。これにつきましては、補助率は4分の1以内ということでもあります。千葉県下約1億5,000万円程度の予算ということで聞いております。市内の中で約4,700万円使わせていただきまして、3分の1をこの旭市で使わせていただく。既に県の中では、この4,700万円は確保していただいております。

さらに、申し訳ないです。167ページの方をお開きいただきたいと思います。

ちょうど中段辺りに、さわやか畜産総合展開事業7,000万円ほど組まさせていただきます。これにつきましては、市内の3つの生産組合、これが県から2分の1、それと市から6分の1、そういう補助金を持ちまして、受益者は6分の2、3分の1ですか、こういうものを負担をしまして畜産から出ます廃棄物、有機物を堆肥化して地域で還元をする、そういう事業を予定をさせていただきます。

さらに、ページの方、すみません進んでいただきまして、170ページの方をお目通しいただきたいと思います。

170ページのちょうど真ん中に、仁玉川補修事業ということで負担金が62万9,000円入れさせてございます。これにつきましては、市役所の東側に仁玉川通っていますけれども、今、一番危険なものがサンモールの北側ですか、あそこが鋼矢板でだいぶ鋼矢板が腐ってきつつあるとそんなことで、今、県の事業としまして仁玉川の補修事業、農水の関係で要求をしております。ただ、あの水路が農業関係の水路ですかという問いも今来ております。先般、助役にも県庁の方へ行っていただきまして、場合によってはアロケーションも必要なことかなということ言われております。ただ、早急にこの補修事業につきましては取りかかりをしたい、そんなことで県と関係機関との連絡協議会等も作ってございます。そこの負担金でございます。

それと、さらに申し訳ありません。175ページの方をお開きいただきたいと思います。

一番上の方に、漁業経営改善支援資金利子補給補助金ということで、175ページに記載をさせていただいております。これは平成18年の予算の中で、実は公庫資金につきまして追加で0.16の追加利子補給をさせていただきました。平成19年につきましても、中谷里の方で1そう実は導入をしたいということで、金額的には約3億円近くの造成費になるかと思っております。それに対しまして、公庫から借りますお金を5か年利子補給をさせていただくということで、やはり利子補給の金額が18年から比べまして増加をしております。

あと最後に、175ページの一番下に工事請負費ということで、漁礁の設置工事が3,200万円ほど組まさせていただいております。これは栽培する漁業というようなことで、ヒラメ等を飯岡沖になるべく呼びたい、そんなことでコンクリート製の漁礁を36基、鋼製を4基それぞれ平成19年に設置をしたいということで考えております。

以上、農水産関係の主な事業等につきまして補足説明を申し上げます。よろしくお願いいたします。

○委員長（向後和夫） 担当課の説明の途中ではありますが、5款と6款につきまして質疑を受けたいと思います。

神子委員。

○委員（神子 功） ご苦労さまです。

それでは、5款と6款ということでご質疑申し上げたいと思います。

まず、5款の関係でございますが、ページは150ページ、ただいま担当課長から説明があ

りましたけれども、働く婦人の家につきましては、今年は1名増ということでスタートする。昨年が3名で今年が4名ということでございますけれども、これ確認ですが、この内容ということにつきましては、1名増はどういうような人員配置になるのか。また、1名増になったことによって、この働く婦人の家の関係の運営についてはどういう形になるのかどうか、基本的な考え方についてお伺いをさせていただきます。これが第1点目です。

それから、今年度の事業ということで、働く婦人の家の活動費ということに関係すると思っておりますけれども、32講座、716人という、そういう話をいただきましたが、従来と変わって事業を計画している内容、そしてまた今平成18年でございますけれども、働く婦人の家の運営委員会ということが開催されていると思っておりますけれども、この運営委員会の中で反映するような意見、こういったものがあって19年度新たに事業として活動の内容が変わったような状況があるのかどうか、変わるような状況があるのかどうか、これにつきましてもご説明をいただきたいと思っております。

今回は、特に働く婦人の家につきましては、管理が若干変わるというご説明がありましたけれども、これは1名の方が管理をするという考え方でよろしいのかどうか確認をいたします。

それから、152ページでございますけれども、負担金の関係ですが、説明欄のちょうど中ごろの上でございますけれども、21世紀の職業財団の賛助負担金ということで、昨年もこれは5万円予算を計上してございます。これについては確認ということで、もう一度ご説明をいただきたいということで、この財団の賛助負担金というものは全体的にどのような負担団体があるのかどうか、そしてそれが旭市で5万円という形になりますけれども、全体的な賛助の予算規模並びに団体の構成団体のことも含めて確認のためにお伺いいたします。

それから、旭市雇用対策協議会の補助金ですが、これは合併いたしまして75万円、いわゆる従来ですと旭地区では35社、これが昨年18年度については50社を見込んでスタートを切っております。今回も同様の75万円ということでありますけれども、干潟には工業団地ございますし、鎌数にもございますし、飯岡地区にも一応工業団地ということで、これは以前誘致をしたということがありますけれども、この50社を見込んだものかどうか、そしてまた干潟、鎌数、あるいは飯岡、こういった地区的なものの協議会についていわゆる団体の企業の数、こういったものに変動があるのかどうか、そしてまた全体的な予算の規模については従来と変わっていないのかどうか、この辺をお伺いいたします。これが5款の関係です。

続いて、6款につきまして若干お伺いいたします。

まず、農業委員会の関係でございますけれども、昨年と同様規模ですが、若干減額になっておりますのは、いわゆる台帳システムというのがこれ754万4,000円組んであったものが、平成19年度はないということが、大きな予算の減額の位置付けだと思いますけれども、この台帳システムというのは今現在、運営としてはうまく運営されているのかどうか、この点確認だけさせていただきます。

159ページですが、説明の3、農村公園維持管理事業でございます。これはいわゆる直売所と申しますか、そういうことでの一貫した管理ということで、この内容を見てみますと、農村公園維持費のその管理委託料が若干、平成18年よりも8万円ほど予算はプラスされておりますし、需用費の維持補修も若干増額。それから、工事請負費ということで45万3,000円、これは昨年は8万円程度予算の計上がありましたけれども、若干プラスした予算計上がされておりますが、この農村公園全体的な維持管理ということで、予算が8万円ほど委託料として計上されている。それから、公園の改修工事というのがありますけれども、これは委託をどうするか、現状と変わっているのかどうか、工事費についてはどういった工事をするのかどうか、簡単で結構ですからお伺いをいたします。

次に、ページ160ページから161ページにかけて、担当課長から説明がありましたけれども、合併いたしまして、それぞれ産業まつりなり、あるいは祭りが予定をされております。昨年と変わったのは、ふるさとまつり・ひかたの270万円から30万円アップの300万円ということが、若干祭りでは補助が大きくなったのかなという感じがいたしますが、既に予定をされているようでございます。これについては、人が多く来ていただいて、旭を知ってもらうということの位置付けがあると思います。一番大事なのは、人を寄せるためにはどうしても駐車場のいわゆる確保、そしてまた迷惑をかけないで事業が進められるということが大事だと思いますけれども、これに当たりましては民間からの駐車場の用地を借りる場合には、当然迷惑をかけてはいけないという民間の方々の思いもありますけれども、そういった配慮がこの裏には必要だというふうに思います。大変祭りとしてはいいことでございますけれども、そういった祭りをするための安全上の問題、駐車場の問題についてどういうふうにお考えなのかどうかよろしくお伺いをいたします。

それから、161ページの制度資金利子補給の事業でございますが、これについて現在予定されているこの利子補給をする件数が、もしも予定件数が今回の予算で計上しているものの把握ができておりましたら、簡単で結構ですからお伺いをいたします。

それから、168ページでございます。これは今年度の大きな事業の1つでございますけれ

ども、畜産環境総合整備統合事業ということで——失礼しました。その下の食肉等流通体制の整備事業、これは鎌数工業団地の中に設置をされるというふうには伺っておりますが、これは確認でございますけれども、鎌数工業団地につきましては、これまでの経過からいたしますといわゆる電子部品関係、電子関係が集合体として集まった方がいいのか、それとも将来どういう形でA、B、C、D地区が振興したらいいのかどうかということで議論があった年がありました。今現在、ちょうど旧干潟航空といえますか、滑走路を利用したところには日清紡、そしてまた食肉公社ということがありますけれども、この施設が来ますと畜産というそういった形で来るわけでございますけれども、周囲のいわゆる現在既存の施設が設置されておりますけれども、それらの整合性といえますか、いわゆる環境面からすると問題があるかないかということについて議論があったのかどうかということについてお伺いをしたいと思います。

以上でございます。

○委員長（向後和夫） 神子委員の質疑に対し、答弁を求めます。

商工観光課長。

○商工観光課長（神原房雄） それでは、順を追ってお答えしたいと思います。

1点目の働く婦人の家の職員給与費3名から4名にという、1名増の理由ということですが、婦人の家につきましては、臨時職員で事務の臨時職員が1人に管理の方で1人というふうに今までおりました。その2名について廃止をするという部分の中で、1名は9月でやめているんですが、それは事務の者、それから先ほど説明した部分については、管理の方の臨時職員1名という部分、そういった中で事務の方の臨時職員の代わりということではないんですが、臨時職員を配置しましたので、職員が1名その分増えたというふうに考えております。

それから、関連で、その中で管理の方の1名、今度はシルバー人材センターということになるわけですが、結果的には今まで管理していた臨時職員が、今度はシルバー人材センターの方に就職したというか、そういう形の中で見ますので、今までどおりの管理ができるというふうに考えております。土曜日についてはその臨時職員だけではなくて、職員も1名日直として配置しております。

それから、2番目になるんでしょうか、働く婦人の家の活動費、先ほど32講座というふうに委員おっしゃいました。私ども33と言ったつもりですが、33講座、282回、716人という、その中で昨年と大きく変わったところはないんですが、1つ韓国語講座というのを新しく実

施します。これはその後の質問にも関係するんですが、運営委員会の中で何か要望があつてという部分ですが、そのとおりでございまして、運営委員会の方から今韓国ブームでもあるし、韓国語講座をしたらどうかという運営委員会の話があつて、それを入れたという部分でございまして。

それから、あとは152ページでよろしいですね。152ページの補助金の中の21世紀職業財団賛助負担金ですが、これは旭の場合、平成6年より賛助会員になっておりまして、県下を見ますと賛助会員数は28、そのうちの8団体が地方公共団体と。旭市ほか8団体が地方公共団体ということに。28賛助会があるんですが、そのうちの8団体の1つが旭市ということになります。この目的ですが、施設が婦人の家というふうになっておりますので、この21世紀職業財団については女性労働者雇用の手伝いといいますか、そういう部分でございまして、そういう女性の研修セミナー等を実施する部分でございまして。能力開発という部分を女性の地位向上、能力開発というのを目的にしている団体でございまして。

それから、その下の雇用対策協議会補助金ですが、確かに昨年と予算額同様でございまして、昨年は35社の中で合併をしたので50の団体、多くの団体に入っていただくという部分でございましたが、結果的に35社が5社増えまして40社になりました。そのほかにもいろいろ声かけしてございますので、19年度についてもかなり数は増えるんじゃないかな。もちろん、先ほどお話があったように、干潟の工業団地4社すべて入っていただきました。そういう関係もあつて、来年19年度もかなり増えるだろうということの中で、現在40社の中でもう10社を予定して50社というふうに考えているところでございまして。

以上でございまして。

○委員長（向後和夫） 農業委員会事務局長。

○農業委員会事務局長（小田雄治） 農業委員会でございます。

それでは、156ページ、農業委員会費で前年度より減になっている理由ということで、委員の方からもお話がありましたように、これは合併に伴います電算システムの統合化事業が前年度に終了したことによるものでございまして。これによりまして、農家台帳の情報の一元化管理が図られまして、諸証明の発行、また農地の照会等にスムーズな対応が可能となりました。

以上でございまして。

○委員長（向後和夫） 農水産課長。

○農水産課長（堀江隆夫） それでは、委員のご質問でありますけれども、1点目の農村公園

の関係でございます。農村公園につきましては、実は市内いろんな箇所があります。今回増額をちょっと予定しましたところは、清滝に溜池というのがございます。ここに、周りが散策道というようなことで、地域の方々が年に4回ほど草刈り等を実施していただいております。それらがほとんど無報酬に近いというようなことで、実はここの公園につきましては旧海上時代に農業関係の補助金で造ったという経過もあります。そういうようなことで、我が方の課の中で委託料としまして8万円ほど盛り込ませていただきました。

それと、農村公園の中には、旧干潟の方で松沢農村公園あるいは鎌木農村公園、萬力農村公園という3か所あります。その中の今回は松沢農村公園の中で、ベンチが相当老朽化してもう使えない。これは既に撤去はしてございます。ただ、熊野神社の奥の方でございます。神社へ来るお客も結構いるもので、そういうようなことでベンチを5か所新たに設置をさせていただきたい、そんなことで予算を計上させていただきました。

あともう一つ、江ヶ崎の水路、ここ先に委員にも一度見ていただきましたけれども、実は予算の中では転落防止にいろいろ仕掛けをしようかということがあったんですけども、地域の方々から、いや、あそこは浚渫をする場所もあるよというようなことで、実は看板を掲げようというようなことで、当初予算の中に転落の防止というようなことで3基ほど見込ませていただいたというのが、この予算の中身でございます。

それと、先ほどの祭りの関係でございます。干潟のふるさとまつり・ひかたにつきましては、270万円から300万円に実は予算要求を30万円ほど増額をさせていただきました。これは旧町時代に、実は農協さんから30万円ほど補助金があったわけですけども、合併を農協さんしまして、その1地区だけに30万円を補助するわけにいかないというようなことで、そんなことで18年270万円という予算でなかなか見つかったというようなことで、30万円ほど増額をさせていただきました。

それと、駐車場の関係でございますけれども、委員おっしゃいましたように、祭りを成功させるのはやはり駐車場。地域の方々のご理解、ご協力も本当に不可欠だったなど。そんなことでご指摘、前回ちょっといろんな場面でご指摘をいただきました。それをちょっと真摯に受け止めまして、逆に地域の方々に協力をさせていただくような、その祭りに参加していただくようなちょっとしくみづくりを考えようか。干潟地区が特にそういう駐車場の関係トラブルがあったわけですけども、そんなことで考えております。これから関係者の方にも事前によくお知らせをして、ご協力を賜るようにしたいというふうに考えております。

それと併せまして、旭地区の実は国道を挟んで大きな店舗からの苦情があったよというこ

とを聞いております。一つ店舗の方とも打ち合わせをしながら、店舗の売上げも伸びるような何かいい方法はないのかなということで、祭りが来てくれたおかげで相乗効果があったよというように、要は売上げがアップになれば、何かうまい仕掛けができないかな。

それと、遠くの方、例えば旭市の市民まつり等につきましては、例えば市役所の職員の駐車場等を使っていただいて、そこからバスで乗ってきていただいた方には、例えば記念品的なものを何かうまくお渡しできて、向こうの遠くへ止めると、駐車場に止めると何かいいことあったよみたいな、何かいい仕掛けができないかな、そういうことを19年に仕掛けをしていきたいというふうに考えております。

あと、制度資金の利子補給の関係でございます。この制度資金につきましては、新規の見込みも、あるいは今までの借入れも含めましてご説明をさせていただきます。農業近代化資金で449件、県単の災害資金で118件、災害融資で68件、農業経営基盤強化資金で285件を見込んでおります。

それと、最後の食肉等の流通体制整備事業でございます。施設の中身的には以前ご説明しましたように、卵を処理の施設の方に持ち込みます。それを洗浄してパッキングして、そこから出荷をするということでございます。卵ですので、においは一切ないということで、ただ洗浄したものが浄化槽を通過してきれいな水でお返しをさせていただくということで、においあるいは搬入の際のあれはという部分はないのかなということで、施設につきましては我々もちょっと議論をしましたがけれども、特に問題はないのかな。

逆に今、卵というのは、相当きつい流通になっていまして、昨日の卵ですよじゃなくて、その日産んだ卵というのがよく売れているということでございます。夜中の12時過ぎて産んで、朝方にとって、それを午前中にパッキングして、夕方には店頭へ並べる、そういう世界になってきているということで、そんなことで我々農水産課の中では食肉センターと併せまして、あそこに食糧の一つの基地というんですか、そういうものをうまく発信して、産業振興できればな、そんなふうに考えています。一切においあるいは騒音、そういうことは出ないということで確認をさせていただきます。

以上でございます。

○委員長（向後和夫） 神子委員、ありますか。

○委員（神子 功） どうもありがとうございました。

働く婦人の家につきましては、女性の方々が長らく活動しているということで、マンネリ化傾向にもある場合には、それを何とかしなくてはいけないということもありますし、また

下が保健センター、そしてまた上が働く婦人の家、国で言うと厚生労働省という、そういった意味では先見の明があったのかなというように思いますけれども、今お話を伺いましたら、運営委員会の方々のご意見も取り入れての活動を、19年度でスタートできるような体制ということもありますので、なるべくフレキシブルなそういった形で運営ができるように、ひとつ今後ともよろしくお願ひしたいと思ひます。

雇用対策協議会並びに21世紀の職業財団の賛助負担金につきましては分かりました。特に、旭市雇用対策協議会につきましては、これ従来からずっと補助金を出しているといひますが、補助金があるこの協議会でございますけれども、所期の目的ということよりも、これからどういふ活動をしたらいいのかどうかということ、できましたら参画している企業の皆様のご意向、例えば道路の問題を一番やっぱり懸念しているような状況がありますけれども、最近では谷丁場遊正線の方については開通できたということもありますし、そういった意味で雇用対策協議会に入っている方々のいろいろな考え方があると思ひますけれども、そういったことを十分酌み入れていただき、鎌数工業団地ができれば誘致が逆に促進できるようなそういった体制づくりについても、市の方としても十分情報をキャッチしていただき、逆に意見を市の方から出していただき、協議会がますます前進できるような体制をぜひお願ひしたいと思ひます。

ちょっと1点質問が漏れましたけれども、175ページ、追加で大変恐縮でございますが、先ほどご説明をいただきました漁礁の関係の件ですけれども、平成19年度についてはコンクリートブロック36基等の対応をしたいということですが、これは将来的にもいろいろ進めていかなければいけないと思ひますが、この漁礁については担当の方としてはどういふお考えで進めていくのかどうかというのは、長期的にはこの漁礁の設置についてはどのようにお考えかどうか。お金がかかることなんですけれども、これについてのお考えについて一つお願ひをしたいと思います。

あとは結構でございます。

○委員長（向後和夫） 神子委員の質疑に対し、答弁を求めます。

農水産課長。

○農水産課長（堀江隆夫） それでは、漁礁の関係でございます。実は漁礁の方につきましては、事業費が実は国が2分の1、さらに県が6分の2ですか、残り6分の1を地元でこれを負担をするということになっております。

ただ、6分の1の地元負担、海匠漁協さんが2分の1、それと併せまして関係市町がさら

に6分の1の半分、2分の1ずつですか、実は匝瑳市、横芝光町、旭市、これらの2市1町で負担をすることになっています。そんなことで市の負担は約5%前後かなということで、非常に補助率の高い事業でございます。国の方は第10次漁港漁場整備計画の中で、平成14年から23年まで銚子市と1年置きに飯岡漁港の方実施をする。これをするによって、漁獲量が増えるというようなことで、実は匝瑳市あるいは横芝光町にもご負担をさせていただいているわけでございます。

計画ですと、19年にやりまして21年、23年というようなことで予定をされております。特に、我々は海の中に物が入っているもので、本当にそれが効果があったかどうかということで、ちょっと疑問があったわけですが、実は会社の方から、その後の1年たった後の海の中を撮影した写真、あるいはいろんなデータ等をとっていただきまして、確実にヒラメ、いろんな魚がその周りには多く来ているということで確認をさせていただいております。漁業協同組合の方との協議をして、この漁業協同組合の方も実は地元負担の2分の1を負担させていただいている。漁師の方からも、一つこれは必要だということで理解されていますので、国の計画に沿った形で市の方としましても取り組んでいきたい、そういうふうを考えております。

○委員長（向後和夫） 質疑の途中ですが、11時15分まで休憩をいたします。

休憩 午前11時 5分

再開 午前11時15分

○委員長（向後和夫） 休憩前に引き続き会議を開きます。

引き続き議案の審査を行います。

質疑がありましたらお願いいたします。

嶋田哲純委員。

○委員（嶋田哲純） 1つ制度資金でお伺いいたしますが、認定農家におけます農業近代化資金の……

○委員長（向後和夫） 嶋田委員、ページをちょっとお願いします。

○委員（嶋田哲純） 161ページです。農業近代化資金の無利息ということでございますが、これは何名までできますか、ちょっとお尋ねいたします。

○委員長（向後和夫） 嶋田委員の質疑に対し、答弁を求めます。

農水産課長。

○農水産課長（堀江隆夫） それでは、ただいまのご質問でありますけれども、農業制度資金、実はこの4月から認定農業者に限ってはということで、実はハードルが認定農業者のみでございます。そういう方々が資金融資を受けた場合に農業近代化資金、それと農林漁業金融公庫資金の中のスーパーL資金、これが4月から無利子になるということでございます。

関係につきましては、お手元の資料の中に1つ入れさせていただいてございます。資料の中のページの的には、すみません3ページの方をお目通しいただきたいと思います。

この中にスーパーL資金等の無利子化の措置というようなことで国等が補てんをしまして、実は4月から3か年の集中期間に限りまして、貸し付け農業者は認定農業者に限っております。個人が1億円、法人が3億円ということでなっております。現在、市内では849経営体が認定農業者になっております。そういう方々が使えるということでご理解いただきたいと思います。特に、国等につきましては認定農業者ということですので、何人までという制限はないということで理解をしております。よろしく申し上げます。

（「どうもありがとうございました」の声あり）

○委員長（向後和夫） 滑川委員。

○委員（滑川公英） 161ページの先ほども課長の方からお答えいただいているんですが、水産まつりはここの予算にないけれども違うところで300万円ということなんですが、いづろ飯岡地区のどの辺の対応をして、場所を対応してやるのか。それで多分、農水産課がやはりメインの団体になると思うので、その辺のことをもうちょっと詳しくお知らせ願いたいと思います。

それと、その前のページの農業振興地域整備促進協議会の委員の18人の構成ですね。旧1市3町の構成の比率というか、人数をちょっとお知らせ願えればと思います。

○委員長（向後和夫） 農水産課長。

○農水産課長（堀江隆夫） それでは、水産まつりの関係でございましてけれども、現在、予算要求を企画課の方でということで今説明をさせていただきました。

実は水産だけではなくてうまく花を、市内の花もあります。花をうまく使って、何か交流をできないかなというようなことで、今若干イチゴ摘みをしながら実は宿泊パック等、ちょっと今飯岡荘で計画をしているわけですがけれども、そういうもの等を含めましてやっております。

この水産まつりでありますけれども、時期等につきましては、これから実行委員会を立ち上げさせていただいて考えていきたいな。市の方でこの日にやりたいということでやっていると、どうも市主催の行事になってしまうと、あまりいい祭りができないのかな、そんなことで飯岡地区の宿泊組合、あるいはいろいろ漁協の青年部の方。特に、漁業協同組合の方は19年度予算で、この水産まつりも若干予算措置をするということで先般、電話等連絡いただきました。ということは、漁業者の方はやる気があるよということで、そういう方々と場所あるいは日時等を決めながら、みんなで運営できればな。その話し合いの過程が実は我々大事だということで、その話し合いの中で交流施設云々というのもいろいろ出てくるのかなということで理解をしております。

そういうことで、ただ場所等につきましては、飯岡漁港の周辺を我々はあそこでないとならないのかなということで考えています。みなと公園も含めまして考えております。特に、水産まつりのイメージ的には、生きた魚を捕まえてみて、消費者がそれをさばいて最後食べてみるというような食育教育も含めまして、どうも魚離れというのが今激しいということですので、そこにもちょっと一役買っていただく祭りとして考えております。

それと、農業振興地域の委員の関係でございます。18名であります。農業委員会から1名、それとJAさん、それと土地改良区さん、それと学識経験者の方から1名、都合4名の方、各1名それぞれ出ていただきまして、そのほかにつきましては旧市町から出ていただいております。

以上でございます。

(「どうもありがとうございました」の声あり)

○委員長(向後和夫) ほかに質疑はありますか。

平野委員。

○委員(平野忠作) 181ページの商工業振興事務費ということなんですけれども、これは旭商工業の総合的な振興を図るということで、いろいろ講演会等を開催されるということなんですけれども……

○委員長(向後和夫) 平野委員、何ページ。

○委員(平野忠作) 181。

○委員長(向後和夫) 181まだ。

○委員(平野忠作) そうですか、すみません。すみませんでした。申し訳ございません。

じゃ、関連でさっき168ページはよろしいでしょうか。

○委員長（向後和夫） はい。

○委員（平野忠作） 食肉等流通体制整備事業ということで、これもうちちょっと詳しく聞きたいんですけども、卵の洗浄パック詰めということでございましたけれども、これは何軒ぐらの養鶏業者が対象になるものか。それと同時に、また1日パックするというと何万パックとかという詰める作業がございますよね。そこらもちょっと分かれば、ご説明を願いたいと思います。

それともう1点、162ページの真ん中辺の豊かな産地づくりの支援事業で、売れる米づくりの推進事業補助金と、さっき新しい事業と言いましたけれども、もうちょっとこれただパッケージだけを変えて果たして売れる米ができるものなのか、その辺をもうちょっとご説明していただければありがたいと思いますけれども。

以上2点よろしく申し上げます。

○委員長（向後和夫） 平野委員の質疑に対し、答弁を求めます。

農水産課長。

○農水産課長（堀江隆夫） それでは、食肉等の流通体制整備事業の関係でございます。事業を実施しますのは、実は農事組合法人北総養鶏組合ということで、昭和52年に法人化された組織でございます。その中で組合員が、羽数が現在114万羽ということで聞いております。この114万羽から出ます月の生産量は1,453トン、こういう卵をこの中で処理をして、それぞれその販売ルートに乗せたいということで計画をされております。ただ、稼働率を85%というようなことで、ちょっと若干これから羽数というのは伸びてくる可能性もある。若干大きな施設の予定をされているということでございます。

あと、これにつきましては、すべて国の補助事業を使いたいということで、現在国の補助金2分の1ということで予定をさせていただいております。ただ、先週、農政局の方へ行きましたところが、若干すべて2分の1じゃないよということでトレーサビリティの部分については、場合によっては3分の1になってしまうかもしれないよと、そういう実は動きでございます。

ただ、予定としましては、事業者の方からなるべく早くやりたいと。なるべく早くというのはどういう意味かということでありますけれども、もう既にこういう方々が販売に動いているということでありまして、今売っているところが全農さんに売っているわけですが、そこがどうも締め出しが強いということで、早急に立ち上げをしたいということで動いております。

それと、売れる米づくりの推進事業の関係でございます。これにつきましては、委員ご指摘のように、袋を変えただけで高く売れるということは毛頭承知しておりません。

今、1か所で萬歳米という地区の名前を使って売り込みをやっているところがございます。そこは堆肥を使いまして、家畜堆肥を10アール当たり約500キロ程度散布をしまして、家畜堆肥を散布することによって化学肥料が抑えられる。それと、減農薬栽培でいこうということで、通常の5割くらいの農薬散布でいく。そういうものを売りにして、有利に販売をしていきたいということでやっております。

販売の仕方としましては、その萬歳という名前が、敬老の日に合うのかなということで、萬歳ということで、そういうネーミングをうまく使いながら、それと米の商談会等にも行っております。今まで業者任せの売りじゃなくて、売れる米を作っていこうということで発送しております。そういう運動を一部の地域だけじゃなくて、市内の全域で募りまして、平成19年旭米というようなことで何か取り組みをしていきたい、そういうように考えております。以上です。

(「どうもありがとうございました」の声あり)

○委員長(向後和夫) ほかに質疑はありませんね。

(発言する人なし)

○委員長(向後和夫) 特にないようですので、議案第1号中の所管事項の質疑を終わります。
続いて……

(「まだまだ」の声あり)

○委員長(向後和夫) 下水道課長。

(「今5款と6款だから7款と8款」の声あり)

○委員長(向後和夫) 7款、8款の説明をお願いします。

建設課長。

○建設課長(米本壽一) それでは、8款土木費の補足説明をしたいと思います。建設課からは5つの事業に絞って説明をしたいと思います。

199ページ、お願いします。199ページです。

説明欄の一番下、4旭中央病院アクセス道整備事業でございます。これは事業費4億4,370万円ですけれども、その大部分は工事をするための、今度は次ページお願いします。200ページですね。説明欄見ていただきたいと思っておりますけれども、17公有財産購入費、これと22の補償補てん、この2つが大きいところでございます。1億1,100万円と1億9,000万円

というのが大部分であると。

それから、2つ目の説明に入ります。

同じページ、200ページの説明欄5番、H-1-002号線、交通安全施設整備事業でございます。この事業につきましては、17年度から実は行っております。東総運動場の東側から大原幽学記念館東側に向けての1級2号線の歩道の整備でございます。これは約1.1キロを整備するものでありますけれども、17、18、今年度というか18年度までで半分を超えた600メートルを工事ということで、新年度は残り500メートルの区間を工事と用地の手当てをすると、こんな事業でございます。

それから、続きまして、201ページをご覧になっていただきたいと思えます。

説明欄の6番、H-1-005号線地方特定道路整備事業でございます。これは1級5号線道路整備事業でありまして、平成6年度から始まった事業であります。懸案事業でありまして、やっと用地確保が終了いたしました。場所は、谷丁場遊正線の北側に当たる米込地先であります。約700メートル部分を新年度に着工するものであります。これによりまして、大規模農道から県道多古笹本線に至る約2.2キロありますけれども、これが開通するというような状況でございます。国の補助金をいただいての事業でありますけれども、50%というものであります。

それから、4つ目でありますけれども、同じページの説明欄7番、防衛施設周辺民生安定事業でございます。これは具体的に場所ですけれども、恵天堂の忍坂から飯岡の塙新町に向かうところの道路、これももう既に行っております。これも約2.2キロあります。ただし、そのうちの半分は17年度までに事業が完了しております。残り約1.1キロを整備するわけがあります。

それから、主な予算項目でありますけれども、次ページお願いします。202ページになるわけであります。

15工事請負費、約1.1キロメートルのうちの700メートルを工事するというものであります。残りの部分につきましては、13の委託料。この委託料につきましては、今回19年度に工事するその東側の残り400メートル部分でありますけれども、用地測量及び補償する物件の調査を行うというものであります。国の補助金、もちろん防衛省の補助事業でありまして75%の補助率であります。

それから最後に、同じページ、202ページの説明欄の9番、飯岡海上連絡道路整備事業、これについてご説明申し上げます。

これは126号の飯岡バイパスから県道銚子旭線を結ぶ新しい道路を造りたいというふうに考えているわけでありまして、この委託料につきましては、これから国の補助金を受けたいということでありまして、そのための資料を作る。作ったらどんな効果があるんだというそんな資料を作って、国に見てもらって補助事業を受けたいというものであります。

以上です。

○委員長（向後和夫） 都市整備課長。

○都市整備課長（島田和幸） 204ページ、お願いしたいと思います。

都市計画総務費の説明欄3、都市計画マスタープラン策定事業です。その中の13節都市計画マスタープラン策定業務委託料1,470万円、これは都市計画の全体構想の計画策定でありまして、市内全域の見直しをどうするか、その中での用途地域をどうするかといった計画を策定するものでございます。これは3か年継続で行ってまいります。

それから、205ページをお願いします。

説明欄4の都市計画地理情報システム整備事業でございます。13節の都市計画地理情報システム作成業務委託料833万7,000円でございます。これは去年、共用空間データを作りました。このデータベースを基に、今年各データの構築を図りまして、これをソフト面で運用していくものでございます。このシステム構築に630万円、それからリース料に203万7,000円でございます。

それから、207ページをお願いしたいと思います。

説明欄4、旭駅前広場整備事業です。17節の土地購入費6,262万8,000円でございます。この事業関係者への代替地として売却するに当たりまして、土地開発公社により先行取得してある土地の買い戻しでございます。面積は287.23平米でございます。

それから、209ページをお願いいたします。

4目の公園費の説明欄3、袋公園整備事業、13節の設計業務委託料469万4,000円は、現在の整備区域の南側部分の拡張予定区域約2.8ヘクタールを平成20年度に都市計画決定するに当たりまして、基本計画を策定するものでございます。

210ページをお願いします。

15節袋公園整備工事4,800万円でございますけれども、昨年に引き続きまして、通称じゃぶじゃぶ池ですね。この残りの工事を行っていくものでございます。じゃぶじゃぶ池の遊具の設置、それから噴水広場等の整備費でございます。

それから、15節の公園改修工事2,000万円でございますが、これは公園の西側部分の護岸

が老朽化のため傾いてきておりまして、これ約100メートルございます。これを現在の北側の護岸、斜面、斜めになっている護岸と同じような形に変えるものでございます。現在、コンクリート製の自立型の垂直パネルになってございます。

それから、210ページをお願いいたします。

説明欄4の文化の杜公園整備事業、15節の公園整備工事1,700万円でございますけれども、これは今年、平成18年に公園用地として取得しました県立東部図書館東側の部分の市道に面しているところの造成工事、それから植栽工事、舗装工事等でございます。この土地なんですけれども、これは当初、昭和62年から市民文化の広場整備事業として整備を進めてきましたが、この土地につきまして地権者のご協力が得られなかったんですが、今回平成18年にご協力を得ましたので、19年度に利便性を図るため整備を行うものでございます。

それから、211ページをお願いいたします。

説明欄5、あさひ健康パーク整備事業、13節の公園維持管理委託料525万円でございますが、これは平成18年度に行った植栽ですね。それから、芝張り等の維持管理費用でございます。

それから、13節の設計監理委託料1,134万円は、管理棟の設計監理委託料でございます。

それから、15節のあさひ健康パーク整備工事2億5,200万円は、これ最終的なコースの造形、それから休養施設、管理施設、便益施設、それから修景施設等の総体の工事費でございます。

なお、管理棟部分につきましては、2階建てで400平方メートルを予定してございます。1階部分にパークゴルフ場の受付及び休憩ルーム、それから2階部分にはトレーニングルームを設置いたします。

以上でございます。

○委員長（向後和夫） それでは、7款、8款につきまして質疑をお受けいたします。

質疑ありますか。

嶋田委員。

○委員（嶋田哲純） 3点ほどお願い申し上げます。

まず、今、飯岡海上連絡道と申しましたが、これが本年度の基本設計に上がってきたわけでございますが、これ説明の道路改良工事の中でL2,000メートル、W12メートル、これはどういふことでしょうか、ちょっとわかったら説明をお願いします。

続きまして、防衛施設周辺民生安定事業とこれ補助金が出ておりますが、これは毎年この

金額が防衛省よりこれいただけるものでしょうか。その2点お願いします。

○委員長（向後和夫） 嶋田委員の質疑に対し、答弁を求めます。

建設課長。

○建設課長（米本壽一） 202ページの9番の飯岡海上連絡道路でございます。現在、確かに予定しているのは長さ2キロ、幅というふうに予定しているんですけども、これはあくまでも整備した場合にどんな効果があるという資料を作りたいというものですから、あくまでも基本設計、概略設計ではないということをご理解をお願いしたいと思います。詳しいことは、したがって申し上げることができません。申し訳ございません。

○委員長（向後和夫） もう1点。

○建設課長（米本壽一） もう1点は、201ページになります。防衛施設周辺民生安定事業であります。これにつきましては、先ほど申し上げましたけれども、もう既に恵天堂の方から道路が整備されていると。18年度も工事をする。18年度、19年度、2か年の継続事業といきます。工事するところ、埴新町の集落内は家を移転するだとか、そういった細かなデータを作るというようなものでございます。あくまでも道路整備のための事業です。

○委員長（向後和夫） 嶋田委員。

○委員（嶋田哲純） ちょっと課長、説明ね、この施設の結局補助事業のことを今。これ防衛施設周辺民生安定事業というので、これ国の方から出ていますね。

○委員長（向後和夫） 課長、これ毎年要するにこの補助金がつくのかという質問です。

嶋田委員。

○委員（嶋田哲純） この事業が毎年これ防衛省の方からいただけるものかどうか。

○委員長（向後和夫） 建設課長。

○建設課長（米本壽一） 大変失礼しました。この事業に対しましては、もらえます。もらえますけれども、申請しなければもらえませんので、毎年もらえるかどうかといいますと、この事業については毎年もらえます。よろしいでしょうか。ちょっと違いますでしょうか。

○委員長（向後和夫） いや、ちょっと違うんじゃない。

嶋田委員。

○委員（嶋田哲純） じゃ、申請すれば、この防衛省に関してのこれは補助事業は毎年もらえるのかな。

○委員長（向後和夫） 建設課長。

○建設課長（米本壽一） 本当に申し訳ございません。あくまでもこれは道路であります。該

当するものは、道路のほかにもあります。例えば、災害復旧とかなんかもありますけれども、この我が旭市で今補助金の対象になるのは、この道路だけであります。

○委員長（向後和夫） 課長、ちょっと答弁それ違うと思う。これは防衛省周辺の民生安定化事業なもので、あの周辺でなければこれ該当しないわけでしょう、多分。

嶋田委員。

○委員（嶋田哲純） あのね、課長、課長の言っていること分かるんだけど、これあくまでも防衛施設のあれだから、どこでも出るわけでないでしょう。この防衛省施設の関連の今言ったように道路には出ると言ったけれども、この道路のこの民生安定事業資金補助金というのが、毎年これ関連した道路がありますよね。今年も埴新町のこれは出ているんだけど、まだこれ申請すれば関連した道路なら、また来年も出ますかということです。

○委員長（向後和夫） 建設課長。

○建設課長（米本壽一） あくまでも道路に限って言わせてもらえば、また関連した道路があれば可能性はあります。申請して協議して整えば、国との話し合いが整えば可能性はあります。今、この埴新町の道路をやろうとしていますけれども、極端なことを言って、その北側だとか南側、西側にも防衛施設、あそこに無線の施設がありますから、あの周りであれば可能性はあります。じゃ、どこまで、このエリアの中のどこまでというのは、そういった基準はありません。ですから、その辺は国と協議をして、該当になりますよ、なりませんよというのは、その都度協議ということになります。

○委員長（向後和夫） 嶋田委員。

○委員（嶋田哲純） それは分かりました。だけれども、私の聞いているのは、この民生安定事業がお国の方から毎年来ますかということ。申請をしなければ来ないですか、これは。

○委員長（向後和夫） 建設課長。

○建設課長（米本壽一） これはあくまでも申請をしないと来ません。

○委員長（向後和夫） 嶋田委員。

○委員（嶋田哲純） 分かりました。どうもありがとうございます。

○委員長（向後和夫） ほかに質疑は。

平野委員。

○委員（平野忠作） 210ページの文化の杜公園整備事業に関連しまして、17節の土地購入費ですね。2億円ということになっていますけれども、これはどれくらいの面積の購入の予定でしょうか。分かればお願いしたいと思います。

○委員長（向後和夫） 平野委員の質疑に対し、答弁を求めます。

都市整備課長。

○都市整備課長（島田和幸） 予定でございます。約1万3,000平米でございます。

○委員長（向後和夫） 平野委員。

○委員（平野忠作） じゃ、1万3,000平米ということで分かりました。

それと関連で、旭市一般会計予算の費用概要の方の説明を見ますと、あと造成工事もやるように書いてありますけれども、これは少しはやるんですか。どんなものでしょうか。

○委員長（向後和夫） 都市整備課長。

○都市整備課長（島田和幸） 造成工事をやる場所は、先ほどご説明申し上げましたけれども、図書館の周りですね、ところの約1,700平米ぐらいですね。図書館の前、市道ございませぬ。一中の方へ行くところですね。あのところですよ。18年度に買ったところの土地は造成いたしません。昭和62年から整備しましたところの買えなかった部分のところの整備でございます。

（「どうもありがとうございました」の声あり）

○委員長（向後和夫） ほかに質疑はありますか。

滑川委員。

○委員（滑川公英） 何点か。185ページの観光協会の補助金ですね。これのもっと詳しい明細をお願いいたします。

あと、197ページの道路維持補修事業の中の工事請負費の9,261万円の中の内容ですね。だいたい大ざっぱでもいいですけども、どのくらいの路線でどのくらいの工事をするかということで、内容をお知らせ願いたいと思います。

それと、199ページ、公有財産購入費ですね。これについては、まだ今からやることでしょうか、だいたいの見通しですか、それをお願いしたいと思います。何件でどのくらいになるのか。それ200ページの公有財産購入費と補償補てん及び賠償金についても何件くらいでどのくらいの予定をしているか。差しさわりのない範囲で結構ですから。

あと、202ページの魅力アップ事業というのはどのようなことを。金額的には500万円くらいですけども、明細をお願いできればと。

あと、211ページなんですけれども、あさひ健康パーク整備事業というのが、予算の獲得のために名前が変更されていると思うんですけども、当初の予算から比べると総事業費というのが相当オーバーしていると思うので、初期のゴルフパークを造る予算から比べると、

完成までにはどのくらいの予算オーバーになるのかお示しをいただければ。

以上です。

○委員長（向後和夫） 滑川委員の質疑に対し、答弁を求めます。

商工観光課長。

○商工観光課長（神原房雄） それでは、185ページ、真ん中になりますが、負担金補助及び交付金の観光協会補助金の内訳はというお話です。

観光協会補助金は、トータル的に1,010万4,000円でございます。この額は前年と同額でございます。内訳としましては、旭市観光協会補助金として924万円、その内訳は七夕市民まつり補助金が750万円、運営補助金が174万円、もう一つ飯岡観光協会補助金、これが86万4,000円、トータル1,010万4,000円になります。

以上です。

○委員長（向後和夫） 建設課長。

○建設課長（米本壽一） それでは、197ページ、一番下の15節工事請負費の内容でございます。

現在、16路線を予定しております。それと、16路線のほかに、建設課ではあそこを工事しようやとか、ここを工事しようやとかというほかに、緊急用に手立てをします。それを金額に分けて言わせてもらいます。約8,000万円が16路線のためにという予算でありまして、残りを緊急用に、こういうふうに分けて予算措置したわけでありまして。

それから、199ページ、17節の公有財産購入費です。これも何件、見通しですけれども新設改良を行う工事のうちの7路線を予定しております。公有財産の購入は、7路線を予定しております。

それから、200ページになります。200ページの17節の公有財産購入費と22節の補償補てんということで、これ2月1日の全員協議会の予算の説明の中で、私、70名の地権者がおりますよという話をしました。したがって、この70名の地権者と交渉をして、この17節、22節という予算のものであります。具体的には申し上げることはできません。

それから、202ページ、魅力アップモデル事業。これ202ページの真ん中辺、説明欄8番の魅力アップモデル事業であります。これは干潟地区の東総運動場の近くに熊野神社がありますけれどもその辺と、それから萬歳地区になりますけれども、この2つの道路整備を行いたいというものでございます。

以上です。

○委員長（向後和夫） 都市整備課長。

○都市整備課長（島田和幸） 211ページの健康パークの整備工事、当初の予算からだいぶ変わってしまっていて、完成までどのくらいかということなんですけど、当初3億円を予定しておりました。完成まで約5億円がかかります。

この2億円がなぜ増えたかといいますと、当初、旧旭市福祉センター、それから旭の勤労青少年ホーム、これを区域内に含んでいませんでした。これらを利用してということだったんですが、思ったより老朽化が進んでしまっていて、この施設を取り壊して、この跡地もパークゴルフ場に取り込もうということで、これらの費用も増加した理由でございます。

それからまた、管理棟に先ほど申し上げましたが、2階部分にトレーニングルーム、これは今あさひ福祉センターにトレーニングルームがございます。このトレーニングルームは非常に狭いんですね。せっかく管理棟を造るんだから2階建てにして、その2階にこのトレーニングルームをとということで考えました。

この旧福祉センターのトレーニングルームは今、約50平米です。今度は、今計画しているのは約115平米で、かなりの面積増になります。今のトレーニングルームでは、いろいろ支障があるんですね。使っている方にアンケートをとってみましたら、いろいろ場所が狭いとか、目的が違うということですね。トレーニングルームを使っている方は、お風呂へ入ってトレーニングをするという方より、むしろ専門的にトレーニングする方がほとんどですね。約32名のアンケートをいただきました中で、ほとんどの方がこのトレーニングルームを使って健康になったという、100%に近い数字のアンケートをいただいております。

このトレーニングルームを2階にすることによりまして、相乗効果がさらに一層増します。なぜかといいますと、今までのトレーニングルームは、どちらかという年代層の高い方をターゲットにしていました。健康パークゴルフ場ができることによりまして、スポーツというイメージがわきまして、このトレーニングルームを利用する方も、年代層がかなり若くなります。パークゴルフ場とあさひ福祉センターの相乗効果が、さらに増えることになると思われております。

その他の増加のところなんですけど、あとは芝生工事とかが当初予定していましたが予定していたんですが、やはりこれではちょっと無理だなということで張り芝を苗置法に変えたための増加費用がかなり費用が増加してございます。

以上でございます。

○委員長（向後和夫） 滑川委員。

○委員（滑川公英） 今の回答ですが、健康パーク整備事業というのは、18年度にもたしか約3億9,000万円ですか、ということは約倍ですよ。最初から、私どもが平成15年に出たころから比べると、約倍の予算になっているということで、いかがなものかと思うんですけれどもね。もうちょっとこの辺は、できればもうちょっと締めていただければよかったんじゃないかと思うんですが。

○委員長（向後和夫） 都市整備課長。

○都市整備課長（島田和幸） 確かに、当初の予定金額が私どもの勉強不足でちょっと低く見積もりまして、申し訳ございませんでした。

先ほどちょっと申し上げましたけれども、やはり隣の福祉センターとの一体利用を図って相乗効果を上げるということで、これらの要因がありまして費用の方もかなり増加してございます。

ちょっと先ほど漏れましたけれども、あとは増加の理由としては、やはりこれも私の勉強不足でしたけれども干渉緑地帯、やはり海岸に近いところですから、これらに支障がかなり当初の見積もりからかかったものはございます。もう少し当初からよく設計見積もりよくしてきちんとしていけば、そんなに差が出ないかなと思っております。

以上でございます。

○委員長（向後和夫） それでは、質疑の途中ですが、ここで1時まで休憩をいたします。

休憩 午前11時59分

再開 午後 1時 0分

○委員長（向後和夫） 休憩前に引き続き会議を開きます。

議案第1号の第7款、第8款の質疑を行います。

神子委員。

○委員（神子 功） それでは、第7款並びに8款につきましてご質疑申し上げます。

商工費の関係で何点かお伺いいたします。

ページでいきますと、180ページから181ページにかけまして、簡単に2点ほどお伺いいたします。

消費者保護対策事業につきましては、昨年度よりも若干約20万円ぐらい上乗せの予算が計

上されております。しかし、報酬では若干減額、そしてまたこれは印刷製本費については、恐らく事業が進められているということで13万3,000円の増額、そういった内容でございますけれども、現在、消費者保護対策ということで、法人について若干昨年度当初予算よりも若干でございますけれども、2万4,000円減額ということでございますが、これは従来と変わっていないのかどうか。要するに、消費生活相談員の方々に1名ということで報酬が予算計上されておりますけれども、同額でなかったということについては、何か理由があるのかどうか、あるいは理由があって下げているものかどうか、この辺確認のためにお伺いいたします。

それから、181ページ後段の商工振興費の中の1番の説明、商工業振興事業費の中で委託料、講師の派遣ということで委託料が50万円組まれておりますけれども、これの概略のこういった内容について予定をされているかどうか、簡単に結構ですので、ご説明をお願いいたします。

それと次、182ページでございますけれども、先ほどご説明をいただきました19節負担金補助及び交付金の中の商工会の育成補助金ということで、この内容については運営費並びに事務局費、人件費等ということでご説明をいただきました。これもやはり12万8,000円の平成18年度よりも減額されておりますけれども、これについての理由。

そして、説明の3の制度資金の利子補給事業ということで説明をいただきましたけれども、負担金補助及び交付金の中のそれぞれの利子補給の関係で、該当者については何名ぐらいおられて、最近の傾向は借りるような状況がふえているのかどうか、これも含めて簡単に結構ですので、ご説明をいただきたいと思えます。

それから、183ページの説明の5、中心市街地活性化対策事業でございますが、ここでは特に空き店舗の対策ということでございますけれども、昨年度当初から比較いたしますと、この空き店舗の活用事業補助金ということで、これは平成18年度については60万円計上していたわけですが、これが当初5万円ということで、空き店舗の活用ということは非常に大切な事業だと思えますけれども、この5万円という計上と、それから現在の取り組みをどう構築していくかということについてご説明をいただきたいと思えます。

それから、185ページになります。観光事業費のうちの18の備品購入費、これは車の購入ということでございますけれども、これは新しく購入するものなのか、それとも古いものを買い換えるということでどちらなのか。いずれかについて簡単に結構ですので、ご説明をいただきます。

それから、説明2の観光施設管理費でございますけれども、13節委託料、この内容につきまして委託料、浄化槽の維持管理から公園維持管理費委託料まで、それぞれ今回の場合、19年度の場合には、それぞれ増額の予算になっております。これは現在管理している内容が、特に変わったのかどうか。増額の理由についてご説明をいただきます。

それから、187ページになります。これで商工費の最後でございますけれども、187ページ、観光施設整備事業、説明の4でございますけれども、昨年の当初予算では、ライトアップということで178万8,000円の予算が計上されておりました。これについてはいろいろな都合で、ライトアップは断念しようという方向付けがされているというふうに伺っておりますが、今回予算が計上されておられませんけれども、この刑部岬のライトアップについてはどのような方向付けになっているのかどうか、その辺確認のために19年度予算編成に当たりまして検討されておりましたらお伺いをしたいと思います。

以上が商工費の関係でございます。

すみません、もう1点、申し訳ありません。190ページ、長熊釣堀センターの関係でございますが、長熊周辺の環境を整えるという管理の状態を、施設調査委託料によって今後どうするかという委託料250万円の関係ですが、これはどこに委託してどのような調査を求めていくものなのかどうか、もう少し詳しくご説明をいただきたいと思っております。これで商工費は終わりです。

次に、土木費の関係でご質疑申し上げます。

まず初めに、196ページでございます。説明の13、委託料、道路台帳補正業務委託の関係でございますが、これは毎年計上されておりますけれども、現在の進捗状況、どの辺まで整備されているのかどうか、進捗も含めて平成19年度の予算組みをどのようにしていくのかどうかについて、経過も含めて説明をいただきたいと思っております。

次に、198ページです。道路維持費の2目に、説明欄の2番、道路維持補修事業の中の――失礼しました。198ページは、説明の3の交通安全施設維持補修事業の関係でございます。この中に工事請負費、特に交通安全施設の整備工事ということで、1,961万4,000円が計上されておまして、18年度の当初から見ますと288万2,000円予算の増額計上がされております。ここに、特にこれからの課題ということでお願いしたいわけですが、この交通安全の中には当然、本会議で議論いたしましたけれども、子どもたちの通学道路、これも街路灯とかということが1年の中には当然要望ということでも出てくるかと思っております。そういったことで、この交通安全対策ということと、それから防犯ということを考えますと、学校教育の

関係では、子どもたちが通学する道路ということが一つありますし、それを管理しているのは当然土木の関係、そして防犯ということになりますと総務課で防犯灯、あるいはそれよりもっと大きな意味で街路灯というこういったことになると思います。そういった意味で、それぞれ役割分担が縦系列になっているわけですけれども、今後検討しなければいけないというのは、子どもたちの安全、防犯という立場からすると、どこかで1つまとまった考え方が必要ではないかなということからいたしまして、予算でございますので、子どもたちの通学道路ということからいたしました場合に、街路灯ということについては、今回の予算には何本ぐらい設置をされていく予定なのかどうか。

今、冒頭申し上げましたように、横のつながりを持つということについては、どのように検討していくかということについては、恐らく検討されていないと思うんですけれども、その辺のところについて助役がおりますので、それのお考えがありましたらお示しをいただきたいと思います。この工事請負費については、どういった交通安全の施設をどう整備していくかということも含めて、内容的にお示しをいただきたいと思います。

次に、199ページでございますが、道路新設改良費の説明の2、道路新設改良事業、先ほど滑川委員もご質疑がありましたけれども、特に私は15番の工事請負費、昨年当初は道路改良工事が7本、それから道路補修工事が6本、道路排水工事が24本という説明をいただいております。19年度当初についてはどのような予定をされているのかどうか、それぞれお示しをいただきたいと思います。

それから、同じページの排水路整備事業、説明の3でございますが、この地域排水工事については、継続して取り組まれているというふうに判断しております。この7,500万円の工事については、どのような状況になっていくものか、もう少し詳しくご説明をいただきたいと思います。

飛びまして、210ページでございます。先ほども質疑がありましたが、文化の杜公園整備事業でございますが、本年度につきましては公有財産購入費、これらの関係については面積は1万3,000平米ということがありましたけれども、この全体的な文化の杜公園で現在整備していこうという、補助金をいただいて整備をしているわけでございますけれども、全体がありましてそのうちの18年度がどのような実績を持ち、そして平成19年度ではどのようなようになっていくのかどうか、特に本年度は何筆ぐらいの予定をしているのかどうか。全体的なことも含めてお示しをいただければありがたいと思います。

211ページのあさひ健康パーク整備事業につきましては、今議論ありましたけれども、ち

よっとその説明の中であさひ健康パーク整備事業については、トレーニングルームについて設置をしたいというお話がございました。現在、福祉センターについては、内容的に設置の目的がはっきりして現在使われておりますけれども、その関係と、今回整備するあさひ健康パーク整備としての管理棟にトレーニングルームを置くということの位置付けが、私は切り離してもいいのではないかなというふうに思っていますけれども、トレーニングルームをどうして設置をしなければいけないのかということについて、今現在使われている方というのは、福祉センターに来る方というのはお年寄りの方が多いと思いますけれども、そういうような方々が利用しているということであればそれで満足しますけれども、若い方が来るということであれば、また旭の総合体育館の中でトレーニングルームもありますけれども、結びつきについてもう少し詳しくお伺いをしたいと思います。

以上です。

○委員長（向後和夫） 神子委員の質疑に対し、答弁を求めます。

商工観光課長。

○商工観光課長（神原房雄） それでは、ご答弁申し上げます。

初めに、181ページの消費生活の関係でございます。今、委員の方から2万4,000円、報酬ですが減額になっているということでございますが、この減額の理由につきましては、相談員、月、木で出勤していただいております。その中で、祭日等かみ合わせた中で3日間、19年度は減額になるということでございます。

ただ、消費者保護対策かなり今お客さんが来ております。だまされたという部分もかなりありますので、その中では総体的に予算自体は増やしております。やはり高齢者がそういう部分で、かなりそういう部分のものに引っかかった部分がございますので、そういった意味では、今までにない市内4地区にそういった専門員を派遣した中で、そういうことにならないような部分を来年は増やしていこうというふうに考えております。全体では増えていますが、報酬自体は祭日の関係で3日減っていると。

それから、182ページの商工振興事務費の中の講師派遣委託料50万円ですが、これは旭市産業経済交流会の開催ということの予算でございまして、今年は福島敦子さんをお呼びした中で講習会を実施したものでございます。今までは、18年度につきましては、報償費と食糧費ということで、トータルで42万円の計上の中で進めておりましたが、市の持ち分としては講師派遣の金額を50万円ということで計上したものでございます。

それから、同じ182ページの商工会の育成補助金、全体で減額になっているという部分で

ございますが、運営補助金自体は合併時の1市3町の運営費という部分を計上してございます。これも合併をしましたので、中の見直しをした中で減額をお願いしてありますが、合併時ということの中で、3年ぐらいはこの金額で推移していきたいと。あとは、合併記念補助金等々が18年ありましたので、そういうものの減額がありますので、トータル的に減額になっていると。

それから、同じく182ページの融資の関係でございますが、融資の状況どうなっているかという部分で、この19節の旭市中小企業資金融資利子補給補助金1,188万4,000円、これにつきましては合併をして一本化されておりますので、金額的には増えておりますし、件数的にもかなり増えております。件数で105件を見ております。継続の部分が85件、新規融資を20件と見込んでおります。合併後は、かなり町の方でも使われているというふうに聞いております。

それから、183ページ、中心市街地活性化対策事業の空き店舗活用事業補助金5万円という部分ですが、これにつきましては田町本町通り商店街、平成17年5月に補助してございまして、2年間という条件が付いておりますので、4月1か月分、その分が負担となります。その1か月分を5万円として計上してございます。また、ほかにもこういった空き店舗対策出てきた場合につきましては、補正で対応したいというふうに思っております。

それから、185ページの18節観光事業費の中ですが備品購入費、これは委員おっしゃるとおり、公用車の買い換えということで、飯岡支所にある車を買換えるという部分でございます。

それから、185ページの13節の委託料、海岸トイレ清掃委託料、それからごみ回収委託料、それから公園維持管理委託料でございます。これにつきましては、増額になっております。今回、改築で飯岡の方のトイレを改築しますので、その部分も増えてくるという部分と同時に、清掃自体も旭の場合には毎日清掃という部分がございます、飯岡の場合には毎日という部分がございますので、今度は統一した中で毎日清掃していきたいという部分で増額になっているという部分でございます。

それから、187ページの展望館のライトアップの件でございますが、確かにライトアップ、当初灯台のライトアップを実施するというところでございましたが、いろいろ検討する中でまずいろいろ不便を来しているところがあると。暗い部分もあって、防犯上非常にまずい部分もあるということがありましたので、そちらの方に切り替えて実施いたしましたので、灯台のライトアップについては中止してございます。

それから、長熊の釣堀センターの施設調査委託料の内容ということで、委託先等々というご質問ですが、長熊につきましては本会議でも申し上げましたが、まずは調査をした中でどういった整備が必要なのかという部分で考えておりました、具体的に今どこへ委託するという部分はございません。ただ、現状で特に問題とされているのは、釣り堀内の汚泥の堆積、それから護岸の崩れ、それから浮き桟橋の老朽化というものが顕著になっておりますので、そういったものを中心とした中での調査をしてみたいというふうに思っております。

以上でございます。

○委員長（向後和夫） 建設課長。

○建設課長（米本壽一） それでは、ご質問の4点についてお答え申し上げます。

まず、196ページ、13の委託料です。道路台帳の進捗状況というものですけれども、これは実は毎年、道路改良やれば道路幅が広がる、未舗装から舗装になるとか、あとはガードレールを設置すればガードレールができたとか、そういうことを記載する道路台帳ですので、永遠と続いていきます。だから、毎年毎年各地区ごとの道路の状況を修正していくと、こういった台帳であります。したがって、進捗状況はと申されますと、毎年とにかくいじっていくという話になります。

それから、198ページ、15節の交通安全施設整備工事、このうち先ほど防犯灯と道路照明灯の関係なんですけれども、建設課で設置しているのは180ワットのナトリウム灯の設置工事でありまして、その数はたったの4基でございます。後からまた助役の方から話があるかと思っておりますけれども、防犯を意識したものではなくて、道路のカーブだとか橋だとか交差点だとか、そういった運転する側の立場に立って設置しているものであります。

それから、199ページの10、工事請負費です。今年と新年度比べてという話です。19年度は、道路改良工事は今予定しているものです。結果はどうなるかわかりませんが、今予定しているのは4本、それから舗装が6本、それから道路排水が23本というような予定です。これは先ほど滑川委員にもお答えしました補修事業の本数もあるし、いろいろな本数がありますけれども、結果的には決算の段階ではかなり増えているというような状況です。

それからもう1点、199ページの説明欄の3、排水路整備事業、この15節の今の状況はということですので、これは椎名団地の排水路整備であります。椎名団地から文化会館までを3年で、18、19、20年度でやりましょうという工事であります。19年度は2年目であります約400メートル、これ全体で約1キロあります。1,000メートルあります。そのうちの400メートルを19年度にやると。これによって半分、今年というか18年度は200メートルぐらい

ですから、というような状況です。

以上です。

○委員長（向後和夫） 都市整備課長。

○都市整備課長（島田和幸） では最初に、文化の杜公園の件でございます。

まず、全体的な整備。まず、この面積全体ですね。これは文化の杜公園というのは、先ほどちょっと申し上げましたけれども、昭和62年から整備してございます。今のこの文化の杜公園事業というのは、平成13年に新たに今まで整備された6ヘクタールを含めまして全体面積13.8ヘクタールを、13年度に都市計画決定を受けて事業認可をいただいております。18年度から土地の取得は約7.8ヘクタールです。それまで6ヘクタールは供用開始してございますから。18年度の実績は5筆で、1万2,600平米を購入してございます。19年度は、先ほど申し上げましたけれども、1万3,000平米で5筆ですね。あとが残りの30筆ございます。

この文化の杜公園の整備の目的といいますのは、今、東総文化会館、それから県立東部図書館ありますので、そちらを核としまして公園を介した文化交流ができる、それから市の文化拠点となるシンボリックな公園として整備、それからまた国が今現在非常に力を入れております、災害時に対応できる防災機能を持った防災公園としての整備を図っていくことを目的としてございます。

それから、あさひ健康パーク、福祉センターのトレーニングルームを管理棟の方へどうして設置しなければならないかということでございますけれども、これに至った経緯を申し上げますと、まず今の福祉センターのトレーニングルームが、先ほど申し上げましたように約50平米ほどで非常に狭いんですね。利用者の方々からいろいろ苦情ございました。トレーニングルームを別にしてほしい、それからカラオケや隣でお湯に入った方といろいろトラブルがあるんですね。このトレーニングルームに来ている方というのは、ほとんどの方がトレーニングを目的に来ている方がほとんどの方ですね。ですから、どうしても隣でカラオケをやっている方、それからお風呂へ入っている方とトラブルようなことが大変ございます。そういった方々から、できればどこかほかの場所にというご意見がございました。

私どもで、じゃあとということで一応アンケートをとらせていただきました。先ほど申し上げましたけれども、32名の方からアンケートをとらせていただきましたら、やはり別の場所がいいだろう、それから当然管理棟2階ですからロケーションが非常にいいんですね。ですから、そういう場所ならぜひ設置してほしいという声が多かったわけでございます。その結果、私の方でいろいろ考えまして、相乗効果も図れるということで、2階にこのよう

なトレーニングルーム設置を考えたわけでございます。

以上でございます。

○委員長（向後和夫） 助役。

○助役（重田雅行） 先ほどお話ありました街路灯と防犯灯との関係でございますけれども、それぞれ設置目的違うということで、なかなかうまく連携とれるかどうかというのはちょっと微妙なところがあると思うんですけれども、関係課で情報交換できるような形で検討していきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

○委員長（向後和夫） 神子委員。

○委員（神子 功） どうもありがとうございました。何点か質疑申し上げます。

183ページの空き店舗対策については、今回の19節にある5万円というのは、それぞれ2年の期間を終了したのでということで、出店とか希望があれば補正で行うというお話をいただきました。

現在、空き店舗対策というのは、街中の方が率先してやろうという状況にはなかなかないんじゃないかなと思うんですけれども、行政としては今本会議でもいろいろ話をさせてもらっておりますけれども、駅前の整備をして、22年には供用開始できるだろうというそういう進み方もありますし、現在、空き店舗ということで空き店舗が目立つわけでございますけれども、行政として空き店舗について施策的な部分というのはどのような検討をこれまでしてきたのかどうか。要は利用がなければ、それで終わってしまうということではいかなものかなと思うんですけれども、行政の立場としてはどうなのかということについてご検討されていれば、ここでお話をいただければと思います。

187ページのライトアップの関係で、18年度については防犯の観点から暗いところについて整備を図ったよというようなお話をいただきましたけれども、そうしますと今回19年度はライトアップの予算載っておりませんが、今後のライトアップの方向性というものは、中止ということで中断したものなのか、それともライトアップということについては、今後もう考えないのかどうか、この辺の方向付けについてはどのように検討をされてきたのかどうか、お願いをしたいと思います。

長熊の関係については、今お話をいただきましたけれども、その調査についてはどのようなところが調査をしていくものか、この点だけお伺いしたいと思います。

以上です。

○委員長（向後和夫） 神子委員の質疑に対し、答弁を求めます。

商工観光課長。

○商工観光課長（神原房雄） それでは、まず初めに、183ページの空き店舗対策、もうそういう場所という部分がない中で、行政の立場で対策、施策はという部分でございますが、非常に難しい問題でありまして、行政としてもそういった空き店舗対策用のための補助金等も要綱を作って受け入れはしているんですが、ただそうは言っても、それを受けてという部分が、そういう部分があまり見られないという状況にあります。全体的にそういう状況にあるわけで、このままでいいという部分には思っておりませんで、また商工会合併しましたので、合併した中で中心市街地活性化というものをどう考えて行くかという部分も含めた中で対応していかなければならないと。

今回も9月から6回、商工会、うちの方も入った中で中心市街地活性化の検討会という部分を立ち上げております。その中でも、この空き店舗にかかわらず、活性化するためのいろんな部分の話が出ましたが、確かに総論はそういうふうにしていかなければという部分があるんですが、いざ実施するという段階になると、やはりそれには後継者問題とかいろんな部分がありまして、非常に難しい部分ですが、今後もそういった会議を通じた中で行政とそういった商工会、関係団体と一緒に頑張って勉強していきたいというふうに思っています。

それから、189ページ、展望館のライトアップの件ですが、まずそういう問題のあるところを今回は工事、予算で実施していこうということで今回実施したわけですが、これもこれで終わりということじゃなくて、今後、上永井公園の全体整備という部分も考えていかなければならないと。その中でライトアップも含めて検討していこうという部分でございます。

ただし、これは非常に難しい部分がありまして、あそこは自然公園ということの中で、うちの方も独自に大きなライトアップもちょっと考えて、県の方と交渉しておりましたけれども、やはり自然公園ということの中では、生態系にいろいろ問題も出てくるという部分の中で、今ただライトアップをすればいいという形ではなくて、もっと全体の中でそういう部分も必要だという部分でないと、というような話があって、いずれにしてもあその場所が自然公園ということがありますので、県とよく協議した中で全体整備を考える中で、また検討していきたいというふうに思っております。

それから、最後ですけれども、長熊の調査ということですが、釣り堀という特殊性がございますので、通常の公園整備とはちょっと違う部分がありますので、こういった部分については、トータルで考えていかなければならないということになりますけれども、釣り堀そのものについては、専門のコンサルタントに委託するということになると思います。

以上です。

○委員長（向後和夫） ほかに質疑はありませんか。

平野委員。

○委員（平野忠作） では、関連でございますけれども、187ページの観光施設整備事業の工事請負費、トイレ設置工事です。これは聞くところによりますと、飯岡荘の前の萩園公園のトイレの改修、シャワー設置と聞いていますけれども、これはいつごろから工事を始めていつごろ完成なされるのか、規模等が分かればお知らせ願いたいと思います。

○委員長（向後和夫） 商工観光課長。

○商工観光課長（神原房雄） トイレの設置工事、予算的には3,000万円計上してございます。これは今、委員おっしゃったとおり、萩園公園のトイレでございまして、既存のトイレは昭和61年のくみ取り式という部分で、旭市の中でくみ取り式は1件もございません。この部分だけくみ取り式ということで、本会議で申し上げましたが、衛生面も考えて改築をしたいというふうに考えております。

規模でございますが、今のトイレはかなり大きいんですが、今回についてははっきりと分かりません。これから設計をするわけですが、男子の小大含めて5つ、女子が大3、障害者用1と。そこにシャワーをという部分で今考えております。

時期ですが、当然海水浴に間に合うようにという部分で考えておりますので、7月の海水浴シーズンまでにはできるようにというふうに考えておりますけれども、そうなりますとだいたい3か月半ぐらいかかるのかなという部分がありますので、事前に県の方にお願ひしまして、予算は4月以降の新年度予算ですが、いろいろ協議が、あそこも自然公園になっていきますので、いろんな協議がございまして、協議の方どんどん進めた中で、4月早々にできれば入札をかけた中で実施したいと。そうしないと7月までには間に合わない。それに間に合わせるように努力をしたいというふうに思っています。

以上です。

（「どうもありがとうございました」の声あり）

○委員長（向後和夫） 神子委員。

○委員（神子 功） 211ページ、先ほども答弁いただきましたあさひ健康パークの整備工事ということでトレーニングの関係ですが、現在使われている50平米の利用されているそのトレーニングルームについては、今後は使わないと。違うものに変えていくというお考えなのか、併用して使っていくということなのか。今のお話ですと、恐らく使わないで、一括新し

いところに全部移行して、別の利用を考えるとというような、そういったふうに聞こえるんですけれども、それだけ確認しておきます。

○委員長（向後和夫） 都市整備課長。

○都市整備課長（島田和幸） 管理棟にできましたら、今のトレーニングルームは廃止させていただきたいと考えています。先ほど申し上げましたけれども、非常に入りまして正面玄関の目の前にありまして、トレーニングルームの設置としては今、非常に環境的にはあまりよくないと思っております。ですから、今度管理棟にできましたらロケーション的によいし、環境的にすばらしいところですから、さらに健康の増進に役立つと思っております。

○委員長（向後和夫） 嶋田委員。

○委員（嶋田哲純） 今、平野委員が質問したわけですが、今、飯岡の萩園のトイレの前にごみ箱の設置がありますよね。それが今、ちょっとこの間行ったときに大山になっていたけれども、この新設したそのトイレにも、やはりごみ置き場は作りますか。

○委員長（向後和夫） 嶋田委員の質疑に対しまして答弁を求めます。

商工観光課長。

○商工観光課長（神原房雄） ごみが山のようになっているということですね。萩園公園という公園ですので、基本的にはごみ箱というのは置きたくないと思っておりますので、新しいトイレができて、今どういうふうになっているのかちょっと分かりませんが、かごが置いてある程度だと思います。その程度じゃないかなと。新たに設置するということは、ちょっと考えておりません。

○委員長（向後和夫） 嶋田委員。

○委員（嶋田哲純） 夕方ちょっとトイレを見に、これが新設するというでちょっと伺ったもので見に行ったわけですが、夕方暗くなると結構車があそこへ捨てに来るんだよね。それがトイレの前が、それこそトイレが通れないほどごみが落ちているときがあります。

○委員長（向後和夫） 商工観光課長。

○商工観光課長（神原房雄） 分かりました。基本的には今申し上げたとおり、公園ですので、新たなそういうごみの設置場所は作る計画はございませんが、ただそういうごみがいっぱいあるということですので、よく環境課の方とよく話をした中で進めていきたいというふうに思っています。

以上です。

○委員長（向後和夫） ほかに。質疑は。

滑川委員。

○委員（滑川公英） 先ほどの福祉センターのトレーニングルームの関連なんですけれども、この50平米を廃止して、2階に全部トレーニング機器を持っていった場合、だいぶ広がるので、今のままの機械なのか、それともまた新たにもっとトレーニング機器を入れるものなのか、それがまた予算化されているものなのか、お聞きしたいと思います。

○委員長（向後和夫） 都市整備課長。

○都市整備課長（島田和幸） 先ほどちょっと説明不足で申し訳ございませんでした。

この管理棟に設けるトレーニングルームと今の既存のトレーニングルームですね、福祉センターの。これは連絡通路で、外へ出ないで管理棟へ行けるように今考えております。雨風に濡れないで、連絡通路を造りまして、管理棟へ行けるようにということで考えております。

それから、新たに機械を増設というのは、こちら本当に申し訳ないんですが、所管が社会福祉課になりますので、私どもではここでは答弁できませんので、ご理解いただきたいと思っております。

○委員長（向後和夫） ほかに。

平野委員。

○委員（平野忠作） 215ページの7節の住宅建築物耐震化促進事業ということなんですけれども、この事業をもう少し説明を。助成ということでございますけれども、どの程度なされるものなのか、対象物件はどの程度の幅広く考えているものなのか、この辺を少しご説明をお願いしたいと思います。

○委員長（向後和夫） 都市整備課長。

○都市整備課長（島田和幸） 住宅耐震診断補助金でよろしいですよ。

（「はい」の声あり）

○都市整備課長（島田和幸） これは木造住宅ですね。昭和56年、これはいわゆる耐震基準が改正になりました。この以前の木造住宅、市内に約1万2,000戸ございます。これを対象にしまして耐震診断をする方に補助するものでございまして、1戸当たり4万円が上限で20戸を予定してございます。

ちなみに、千葉県でこういった事業をしている市は、千葉市とか柏市とか向こうの方ではかなりございまして、県内では約14市ほどこういった事業をしております。

以上です。

○委員長（向後和夫） 平野委員。

○委員（平野忠作） この関連ですけれども、既にこういうのは申し込みとかそういうのはもう受け付けているとか、そういうことはあるのでしょうか。

○委員長（向後和夫） 都市整備課長。

○都市整備課長（島田和幸） これ19年度からの新規事業でございます、まだございませんので、よろしく申し上げます。

（「どうもありがとうございました」の声あり）

○委員長（向後和夫） ほかにありませんね。

（発言する人なし）

○委員長（向後和夫） ほかにないようですので、議案第1号中の所管事項の質疑を終わります。

続いて、議案第5号について、下水道課より補足して説明がありましたら、お願いいたします。

○下水道課長（山崎健次） 下水道課でございます。

議案につきましての補足説明は特段ございません。よろしくどうぞご審議お願いいたします。

○委員長（向後和夫） 説明は特にないようですから、質疑がありましたらお願いいたします。

（発言する人なし）

○委員長（向後和夫） 特にないようですので、議案第5号の質疑を終わります。

続いて、議案第6号について、農水産課より補足して説明がありましたら、お願いいたします。

農水産課長。

○農水産課長（堀江隆夫） それでは、農業集落排水事業につきまして、若干の補足をさせていただきます。

農集につきましては、429ページからになります。

この中で、先の議会の中でもご報告しましたように、それぞれ江ヶ崎地区につきましては新規で5戸、琴田地区につきましては新規で2戸、それぞれ見込んでおります。

資料の、大変恐縮ですけれども、439ページの方をお目通しいただきたいと思っております。

439ページの江ヶ崎地区排水施設維持管理費の中に、説明の19に負担金補助及び交付金という欄がございます。この中に農業集落排水施設維持管理組合補助金5万円、さらにページ数で大変申し訳ありません、440ページ、これが実は琴田地区の事業になります。この440ペ

ージのところ、同じく19の負担金補助のところ、やはり同じように農業集落排水施設維持管理組合補助金、それぞれ5万円を新たに実は計上をさせていただきました。

これにつきましては、実はそれぞれ2つの地区の組合、現在非常にいい取り組みをしていただきまして、排水施設の場内のいろんな草刈りも含めまして、実はこの方々がまだ接続していない方々に接続を推進をしていただいているという経過もございます。接続数が高くなるとこの事業はうまくいく、接続率が高まると河川がきれいになる、そういうような趣旨で、住民の方々が自ら推進活動を行っております。

そういうことで、平成19年につきましては新たに5万円ずつ、この2つの地区にそういう活動の補助金を新たに設けさせていただきたい、そういうことで予算措置を講じさせていただきました。

簡単であります、以上でございます。

○委員長（向後和夫） 農水産課の説明は終わりました。

議案第6号について質疑がありましたらお願いいたします。

（発言する人なし）

○委員長（向後和夫） 特にないようですので、議案第6号の質疑を終わります。

続いて、議案第10号中の所管事項について、担当課より補足して説明がありましたら、お願いいたします。

農水産課長。

○農水産課長（堀江隆夫） それでは、議案第10号につきまして、一般会計の補正予算の関係で、農水産関係につきまして補足を説明させていただきます。

予算書案の17ページの方をお目通しいただきたいと思います。

今回3月補正で補正をいただきたいのが、家畜防疫対策事業の関係でございます。今、豚あるいは牛、鳥、いろんな病気が実は蔓延をしております。特に、豚等につきましては、呼吸器系統でなかなか豚価はいいんですけれども、出荷する豚が少ないというのが実は現状のようであります。

国等には今訴えているわけですが、なかなか畜産農家さん、うちで死んでいるよという声がなかなか上がらなくて、国の方にはなかなか声が届いてはいないわけですが、先般も農政局へ行きまして、豚がだいぶやられているということで、国でも今考えていただいているわけでありまして。

そういった中で、実は市の中では、牛、豚あるいは鳥のそれぞれの防疫関係につきまして

補助をしております。ただ、どうしても現時点で見ましたところ、豚あるいは鳥の方の予防注射の量が多いというようなことで、今回それぞれ豚のオーエスキー病、あるいは鳥のニューカッスル病、それぞれにつきましてここにありますように360万1,000円を増額補正をさせていただきたい、そういうことでよろしく願いいたします。

以上です。

○委員長（向後和夫） 担当課の説明は終わりました。

議案第10号中の所管事項について、質疑がありましたらお願いいたします。

神子委員。

○委員（神子 功） そうしますと、17ページ今ご説明いただきましたが、当初では2,040万4,000円ということで計上をされまして、特に病気が多いということから、鳥や豚の関係についての補正ということでございますけれども、この対策をすれば現状を打開できるということとで予算組みをされたと思うんですけれども、その点についてはどのような検討をされたのかどうかお願いいたします。

○委員長（向後和夫） 神子委員の質疑に対し、答弁を求めます。

農水産課長。

○農水産課長（堀江隆夫） 今おっしゃいましたご質問でありますけれども、畜産業にありまして一番の問題が防疫関係でございます。なかなか注射を打って治るかという部分、我々もはっきりとはお答えできない。ただ、やらないでいくと、それぞれ蔓延をしていくということは、畜産業から言われております。ちょっと目を離すと、豚房の中で相当死んだ豚がいるよということで、そんなことで少しでも蔓延をさせないという、そういう努力が少しは必要かなということで防疫体制につきまして万全を期したい、そういうことでよろしく願いいたします。

○委員長（向後和夫） 嶋田委員。

○委員（嶋田哲純） 今、宮崎辺りで鳥のインフルエンザの問題であるように毎日騒がれているわけですが、地元ではこの鳥のインフルエンザのマニフェストとか、そういうのは考えておりますか。

○委員長（向後和夫） 農水産課長。

○農水産課長（堀江隆夫） 今のご質問でありますけれども、鳥のインフルエンザがもし旭市で発生したらという想定はしております。各課にもお願いをしまして、もしも出た場合には、それぞれ何名の方、必要体制というようなことで、そういう連絡体制は万全をとっております。

す。

それともう一つ、先般、鳥の農家の方にもお集まりいただきまして、何が養鶏業者で一番困っているか、いろいろ本当に困っているんですけども、1つ一番の大きな困りが渡り鳥。例えば、いろんな小白鳥が来たとか。来ていただくのは結構なんですけれども、それにあえてえ付けをしていただいている方がいるということで、来た鳥を追っ払うというわけにいきませんけれども、え付けまではぜひ我々のことを考えて阻止していただけないかな、そんなことで市長とも相談をしまして、え付けはなるべく極力しないでいただきたいというようなことで、今ちょっと看板等も考えております。

それともう一つは、家畜防疫の方の予算の中で、既に養鶏業者の方には石灰等で衛生面いろいろ進入を抑えていただきたい、そんなことの予防措置の徹底、それと併せまして実はネズミ等がちょろちょろと入ってきて、そこからというものがあります。そんなことで鳥のネットと含めましてネズミのネット、そういう補助事業もありますので、そういうものの紹介等もさせていただきます。

以上であります。

○委員長（向後和夫） ほかに質疑ありますか。

（発言する人なし）

○委員長（向後和夫） 特にないようですので、議案第10号中の所管事項の質疑を終わります。

続いて、議案第13号について、下水道課より補足して説明がありましたら、お願いいたします。

下水道課長。

○下水道課長（山崎健次） それでは、補正予算につきまして、下水道事業債の特別措置分について簡単にご説明申し上げます。

国の下水道事業に係ります地方財政措置は、雨水が7割、汚水3割の比率によりまして講じられて参りましたけれども、最近は雨水分の比率は非常に減少傾向にございまして、現状の雨水分の比率は約3割の状況となっております。この比率は想定値の7割と大きくずれているために、下水道事業に係る地方財政措置が18年度に見直されたものでございます。

結果としまして、公共下水道に係る公費負担割合、公費ですから、自然条件によります雨水関係の整備分でございますけれども、この7割の固定比率から変動比率の取り扱いに変更となったものでございます。それによりまして、下水道事業債が特別措置分として18年度に創設されております。この特例措置分の下水道事業債につきましては、後年度に7割の交付

税措置がされることになっております。

以上でございます。

○委員長（向後和夫） 下水道課の説明は終わりました。

議案第13号について、質疑がありましたらお願いいたします。

（発言する人なし）

○委員長（向後和夫） 特にないようですので、議案第13号の質疑を終わります。

続いて、議案第28号について、商工観光課より補足して説明がありましたら、お願いいたします。

商工観光課長。

○商工観光課長（神原房雄） それでは、議案第28号、旭市中小企業資金融資条例の一部改正の補足を説明します。本会議で説明したと重複するところがあると思いますが、お許しを願いたいと思います。

本条例につきましては、市内の中小企業者に対しまして、千葉県信用保証協会の信用保証に基づき市内の金融機関が事業資金の貸し付けを行うことにより、中小企業者の資金の融通を円滑にし、もって中小企業の振興を図ることを目的とするものでございます。

条例改正の背景としましては、経済産業大臣の諮問機関であります中小企業政策貸付を審議する機関、中小企業政策審議会基本政策部会におきまして、今回、信用補完制度に係る見直しを了承されたことを受けまして、千葉県信用保証協会から融資制度の見直しについて通知があり改正を行うものでございます。ここでいう信用補完制度というのにつきましては、金融機関が中小企業に融資する際に、信用保証協会が保証を行うための制度でございます。

今回の見直しにつきましては、利用者の利便性向上を図るということを目的に、19年4月1日以降の融資申し込み受け付け分より、特別な事情がある場合を除きまして、経営者本人以外の第三者を連帯保証人として徴求しないと。求めないということになります。

なお、これに基づきまして、県の制度資金においても同様に信用保証協会の取り扱いに準じて行うこととなります。

それでは、新旧対照表がきょう配られていると思います。条文に沿ってちょっと説明したいと思います。

第3条の第1号の改正でございますが、現行では「事業上の運転資金又は設備資金」とあるものを市内の店舗という、市内に限ってという部分で、「市内の店舗、工場、事務所又は営業所」という文言に直すと。これは事業資金の用途をはっきりさせるという部分の改正に

なります。

それから、第3条3号の改正ですが、「保証人」を「連帯保証人」という部分で、従来保証人と書いてあったものについては連帯保証人と。運用につきましては、連帯保証人で実施していましたが、条文上は保証人というふうになっておりましたので、これを連帯保証人というふうに改正するものでございます。これを明確にするという部分でございます。

この第3条第3号が今回の改正の大きなポイントでありまして、千葉県信用保証協会がその必要がないと認める場合は、連帯保証人を立てる必要はないという部分が、今回の大きな改正のポイントとなります。

第3条第4号の改正、これも文言の整理ということで、明確化するために「保証人」を「連帯保証人」とするという部分。

それから、第6条の改正でございますが、現行条例では「市税年額3,000円以上を納付する成年者」というふうに定めておりましたが、実態にそぐわないと。市税年額3,000円といえますと、市税ですから軽自動車税でもいいというふうになってしまいますので、実態にそぐわないということの中で、改正案は一般的な言葉になりますが、「連帯して債務を弁済し得る能力を有し」という部分に改めるものでございます。実態に即した文言に改めたという部分でございます。

その下のただし書でございます。ただし書の追加につきましては、連帯保証人となる法人の代表者の住所要件について、特に市長が認めた場合と。特に市長が認めた場合というものを指定したのは、第6条第1号に「市内に1年以上引き続き居住し」という部分がございます。ですから、このままいくと市内に1年以上居住しないと、連帯保証人の要件として駄目だということになってしまいますので、特に市長が認めたものという部分を規定しまして、既存企業に対する支援措置として、旭市に事業所があって企業運営していると。その場合、代表者が市外という部分が結構ございます。社長さんが市外と。ただ、旭市で企業として運営しているわけですので、そういった部分については市長が認めたものということで、この適用が受けられるという部分に改正するという部分が主なものです。

以上です。

○委員長（向後和夫） 商工観光課の説明は終わりました。

議案第28号について、質疑がありましたらお願いいたします。

（発言する人なし）

○委員長（向後和夫） 特にないので、議案第28号の質疑を終わります。

続いて、議案第33号について、建設課より補足して説明がありましたら、お願いいたします。

(「特にありません」の声あり)

○委員長(向後和夫) 特にないようですので、質疑がありましたらお願いいたします。

(発言する人なし)

○委員長(向後和夫) 特にないようですので、議案第33号の質疑を終わります。

以上で付託議案についての質疑は終わりました。

議案の採決

○委員長(向後和夫) これより討論を省略して議案の採決を行います。

議案第1号、平成19年度旭市一般会計予算の議決についてのうち本委員会所管事項について、賛成の方の起立を求めます。

(賛成者起立)

○委員長(向後和夫) 全員賛成。

よって、議案第1号は原案のとおり可決されました。

議案第5号、平成19年度旭市下水道事業特別会計予算の議決について、賛成の方の起立を求めます。

(賛成者起立)

○委員長(向後和夫) 全員賛成。

よって、議案第5号は原案のとおり可決されました。

議案第6号、平成19年度旭市農業集落排水事業特別会計予算の議決について、賛成の方の起立を求めます。

(賛成者起立)

○委員長(向後和夫) 全員賛成。

よって、議案第6号は原案のとおり可決されました。

議案第10号、平成18年度旭市一般会計補正予算の議決についてのうち本委員会所管事項について、賛成の方の起立を求めます。

(賛成者起立)

○委員長（向後和夫） 全員賛成。

よって、議案第10号は原案のとおり可決されました。

議案第13号、平成18年度旭市下水道事業特別会計補正予算の議決について、賛成の方の起立を求めます。

（賛成者起立）

○委員長（向後和夫） 全員賛成。

よって、議案第13号は原案のとおり可決されました。

議案第28号、旭市中小企業資金融資条例の一部を改正する条例の制定について、賛成の方の起立を求めます。

（賛成者起立）

○委員長（向後和夫） 全員賛成。

よって、議案第28号は原案のとおり可決されました。

議案第33号、市道路線の認定について、賛成の方の起立を求めます。

（賛成者起立）

○委員長（向後和夫） 全員賛成。

よって、議案第33号は原案のとおり可決されました。

以上で本委員会に付託されました議案の審査は終了いたしました。

なお、委員長報告につきましては、委員長に一任願いたいと思いますが、これにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○委員長（向後和夫） ご異議ないようでございますので、委員長報告は委員長一任とさせていただきます。

所管事項の報告

○委員長（向後和夫） 次に、所管事項の報告に入ります。

報告がある所管課は、随時報告をしてください。

農水産課長。

○農水産課長（堀江隆夫） それでは、委員の方のお手元の資料につきまして、若干説明をさ

せていただきます。

1つは、旭市の観光いちご組合の方のリーフレットをお目通しいただきたいと思います。

ご承知のように、旭市は県下のイチゴの産地であります。生産量につきましては、統計で1,764トンということで、県下の28%を占めております。一番大きな産地という、何か県の方の中ではイメージ的には旧成東町、山武市、多いわけですがけれども、ここは512トンということで、旭市の3分の1以下でございます。

そんなことでイチゴをPRしていきたいというようなことで、こういう観光いちご組合が18年度できまして、こういうチラシができました。ぜひこういうチラシ等作らせていただきまして、旭市のイチゴをPRしていきたいということで、よろしくお願ひしたいと思います。

それともう一つ、カラー刷りのリーフレットで、新鮮食材を食卓へということで、市長が一般質問の中でお示ししました市内の3つの直売施設の直売のそれぞれのPRでございます。こういうものを作りながら、規模は小さいんですけども、一つ前へ前へというようなことで、旭市の食材を市民に提供していきたい、そういうふうを考えております。

もう一つは、お手元の中に認定農業者等の主な施策概要という資料をお目通しいただきたいと思います。

先ほど質問の中でありましたこの資料の3ページのところに、スーパーL資金等の無利子化措置の創設ということで書いてあります。

概要につきましては、先ほど申し上げたとおりでございます。使えるのは認定農業者。ただ、これをご承知置きたいのは、3年間だけの無利子ということじゃなくて、国の想定は3年間の中で借入れをした方、例えば10年償還で借りた方は、そのまま10年が無利子でいくということで、そういう理解で国の方から聞いております。そういうことで、この3年間借入れを受けた方については、集中的に国が支援をしていくという姿勢でございます。

4ページのところには、無担保・無保証人によるクイック融資ということで、野球の中でよくクイックターンとかクイック投法あるんですけども、素早くということであります。いろいろ制度資金を借りますと、借入れの申し込みから決定まで長いというのがよくご批判あるわけですがけれども、今回国の方で1週間以内に無担保・無保証人でクイック融資をする施策を手続きをするということでございます。ただし、これは500万円までというようなことで、決算書を提出していただいた日から最速で1週間程度で融資をできるかできないか、これを判断をするというようなことで、クイック融資が実は19年から創設をされるところで

あります。

もう一つ、資料の中に、5ページ目の方に、農林漁業セーフティネット資金の創設ということで書いてあります。これはこれから多分予想されますのが、畜産経営の飼料の高騰化、例のトウモロコシのエタノール化等があります。そういうもので飼料の高騰化、あるいは鳥インフルエンザ等の風評被害、例えば病気が出たときの風評被害、いろいろな実は不慮の災害等も予想されます。そんなことで、公庫資金の中にこういうセーフティネット資金を創設しまして、貸し付け限度額としましては個人で300万円、利率的には1.45%から1.55%のそういう資金を創設されるということでやっております。

ただ、いろいろな資金があっても、なかなか借り入れの窓口が農林漁業金融公庫資金ですと関東支店は埼玉の大宮になっています。大宮まで行くというのは到底不可能でございます。そんなことで、最後の7ページのところに、農林漁業金融公庫による制度資金の定例相談会。これは千葉県で、市町村でやっているのは我が市でありますけれども、第1と第3の木曜日に9時半から16時30分、うちの方の課の中に1つ一室を設けまして、公庫職員による相談会等を実施しまして、万全の体制を整えております。

もう一つ、資料戻っていただきまして、6ページの方をご覧になっていただきたいと思えます。

6ページの方には、地域担い手経営基盤強化総合対策実験事業ということで入れてあります。これは19年から国が3か年間の集中期間、担い手に対して事業を実施するという実験的な事業でございます。

内容的につきましては、後でここをご覧になっていただきたいわけですが、認定農業者に限りまして、融資と補助を一体化するというようなことでございます。例えば、この例ですと、3割融資をして残り7割は無利子化資金で使っていただく、そういう事業が実験的に3か年実施をされるところでございます。

今の情勢ですけれども、実は国の方で、国会は通ってないんですけれども、この春の作業に間に合わせたいというような国の担当の方の思いもあつたらしくて、2月28日これを第一次募集ということで、全国的に受け付けを開始をいたしました。国の総枠は35億円ですけれども、市の中で急遽認定農業者の研修会等をやりまして、約100名程度の方に集まっていたわけですが、現在33経営体の方が予算要求ありまして、事業費的には約10億円、補助金ベースですと約3億円、そんなことで国に問い合わせしましたところが、約30億円程度の第一次募集全国から上がってきたと。その1割がこの旭市の分ということで聞いており

ます。

この予算等につきましては今週、市の経営改善支援センター、そういうものの立ち上げ等も国から要求されているわけですが、そういうところの組織を伝わって国が直接県の予算を通さないで、そういう協議会に補助金を流していく、そういうスタイルになってきます。そんなことで予算書の中には、この事業等は盛り込んでごさいませんが、こういう動きが旭市の市内の中で33経営体、補助金ベースでは約3億円手が挙がっているということでご理解をいただきたいと思います。

第二次募集等につきましては、多分また5月明けにあるかと思えます。そういうところにつきましても、まだ手が挙がっていない認定農業者等につきましては、啓蒙措置をしていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○委員長（向後和夫） ありがとうございます。

ほかに。

建設課長。

○建設課長（米本壽一） 事務報告ということですが、中央病院へのアクセス道、以前この委員会の席で地図を広げて、ここを通りますというルートを示しました。できればこの後、委員が視察があると聞いています。視察の1か所に加えてもらって、この辺を通りますという現場で説明を申し上げたいんですけども、よろしかったら……

○委員長（向後和夫） 回っていきます。

○建設課長（米本壽一） この辺は事務局と連絡を取り合っておきます。

以上です。

○委員長（向後和夫） ほかに。

都市整備課長。

○都市整備課長（島田和幸） 袋公園の整備状況についてご報告させていただきます。ちょっと図面で説明させていただきます。

私ども工事の中で、通称じゃぶじゃぶ池と言っています。これがじゃぶじゃぶ池の完成予想図です。今年は、この部分までを整備してごさいます。こちらはビオトープ、生き物を放流する長短の一番末端部分ですが、こちらとこちら分かれていまして、こちらの部分がザリガニですか、そういったものを放して、子どもたちが戯れるような池ですね。こちらは真ん中に池がございまして、そこを中心に6つの遊具。今年は、この中州にかける3つの遊具。

こういったトンネルとか、いかだとか、こういったのを設置しまして、19年度であと残りの部分のこちらとこちらとこちらですか、ターザンロープ等を設置いたします。

この面積なんです、約1,100平米ございます。この水深が約50センチですね。この50センチとはどういうことかといいますと、これが子どもたちが池に落ちたり、そうした安全な基準、公園整備の中の基準で一応50センチということになっています。イメージ的には水上アスレチックですね、そういうのをイメージしていただければよろしいかなど。この辺では近くに成田にございますね。あそこはちょっと深いんですが、深くすればやはり見張りの人とか、そういうのを常駐しないと許可になりませんので、私の方は水深50センチで、子どもたちが仮に落ちてでも安全なように造らせていただいております。

その下のこちらの噴水広場ですね、こちらも来年になります。これは約500平米で、直径10メートルの噴水ですね。キャンドル型の噴水を付けてありますね。そういった要は袋公園の整備のテーマが、水と花と野鳥というのをテーマにしまして、これで水、もちろん溜池でございますけれども。これを整備することによりまして、今度は子どもたちが大いに遊べる池ですね。今まではどちらかといいますと、散策や花見で大人たちが利用する公園ですね。ジョキングとかですね。今度はこれが設置されれば、フルに1年間3シーズンはこれ子どもたちが利用できると思いますので、大いに利用されるかなと思っております。

あと、トイレですね。円形のトイレをやはりこちらにマッチしたような円形トイレ、約40平米のトイレでございますけれども、自前でこちらに設置して、やはりもうすぐ完成いたします。円形の2つに分かれています。身障者トイレと男子女子、男子女子が一緒の円形で、身障者を円形で別に造ってございます。

これが全体の18年度の工事ですが、こちらは17年度に行ったんです。こちらが先ほどのじゃぶじゃぶ池ですね。19年度に、この残りの部分を整備してまいります。まだまだ整備面積かなりございますけれども、あと4年ぐらいで整備をしていきたいと思っております。

あと、18年度には、こちらも桜の木がだいぶ傷んでいましたから、補植を年次計画、計画的にやっております、18年度も約27本補植してございます。

それから、こちら南側の公園の方、入り口ですね。こちら舗装道路の道路舗装が傷んでいましたので舗装工事とか、擬木柵の工事をいたしました。19年度のは、もう1枚図面があるんですが、その残りの分を工事の方、行っていきます。

あと、先ほど申し上げましたこちらの護岸ですね。こちら北側の部分は斜め、斜面型のコンクリートの護岸ですが、こちらは昭和48年に造りました垂直自立型のコンクリートの矢板

で造ってある護岸ですね。その部分が支えている鉄筋の棒が腐食しまして、棒が傾いてきていまして、そちらを100メートルについて工事をする予定でございます。

以上でございます。

○委員長（向後和夫） 商工観光課長。

○商工観光課長（神原房雄） それでは、私の方から千葉のデスティネーションキャンペーンの概要についてお知らせいたします。

テレビ、新聞等でご存知だと思いますが、ちばデスティネーションキャンペーンということで、千葉県とJR6社がタイアップしまして、集中的にPRして、全国から誘致を図るといふ部分であります。

実施期間は19年2月から4月の3か月間ということで、期間中市内で実施される特別企画をちょっとお話ししたいと思います。

飯岡の宿泊組合によりまして、飯岡のあんこう祭りというのを2月だけだったものを2月から3月に延長して実施すると。それから、刑部岬展望館まで、日本の夜景100選に選ばれているという部分で、そこまで無料送迎するとか、それから宿泊組合の料金を5%その期間割引しますという部分が、宿泊組合の方はございます。そのほかにも、漁港の釣り船の料金の割引ということで1,000円割引しますと。これが飯岡の遊魚船組合の方、それから飯岡荘におきましても、魚醬をプレゼントするというようなものも実施しております。

以上です。

○委員長（向後和夫） 下水道課長。

○下水道課長（山崎健次） 下水道課より19年に予定しております工事概要等につきまして、お配りしてございます図面に基づいて説明させていただきます。

まず、1点目でございますけれども、19年度の工事としましては、イ・ロの網戸・東町地先7.8ヘクタールの面整備工事と18年度に面整備工事を行っております箇所舗装の本復旧工事を予定しております。

イ・ロ地先の7.8ヘクタールの面整備箇所でございますけれども、現在整備を進めています18年度の現場の南側の隣接地域でございます。大正道路と坂本学園の東西線の道路及び向藤食堂東側の一方通行南北線の道路、そして主要地方道銚子旭線、旭中央病院の北側の東西線の県道で挟まれた区域でございます。

2点目でございますけれども、2点目以降は特段図面はございませんけれども、2点目としまして現在、市役所の本庁舎の敷地内にありますマンホール型の中継ポンプ、マンホール

ポンプと呼んでいますけれども、そのマンホールポンプと浄化センターの水処理施設等につきましては、現在の事業計画の認可の計画目標年次でございます平成23年度末ごろには、供用開始の区域の拡大や旭中央病院の接続等によりまして、汚水の流入量の増加が見込まれております。この容量の不足が考えられますために、中継ポンプ場及び浄化センターの水処理施設、機械電気設備でございますけれども、それと場内のポンプ等の実施設計を予定しております。

3点目最後でございますけれども、さらに平成7年1月の兵庫県南部地震、それと16年10月の新潟県の中越地震等によりまして、都市のインフラは甚大な被害を受けたところでございます。下水道施設につきましても、トイレが使用できないなどの住民生活に大きな影響がありましたために、国土交通省におきましては、平成18年度に下水道地震対策緊急整備事業を創設しまして、既存施設の耐震化やトイレの使用の確保に向けた下水道地震対策について、重点的に取り組んでいるところでございます。

旭市の浄化センターにつきましては、その水処理施設等につきましては、平成7年に設計されたものでございまして、平成9年の下水道施設の耐震対策指針によりまして、耐震診断を行うものでございます。

また、現在作成中の旭市地域防災計画におけます避難所などと浄化センターを結びます管路の横断でございますけれども、それと河川や水路の横断箇所等の重要な管路につきましても耐震診断を行うものでございます。これらの耐震診断の結果を受けまして、耐震化が必要となれば下水道地震対策緊急整備計画を策定しまして、国庫補助事業によりまして計画的に進めていくこととなります。

以上でございます。

○委員長（向後和夫） 所管事項の報告でございますが、何かお聞きしたいことがありましたらお願いいたします。

（発言する人なし）

○委員長（向後和夫） 特にないようでございますので、所管事項の報告を終わります。

○委員長（向後和夫） 以上をもちまして、審査は全部終了いたしました。

これにて本委員会を閉会いたします。

大変ご苦労さまでした。

閉会 午後 2時25分

旭市議会委員会条例第30条第1項の規定により署名する。

旭市議会建設経済常任委員会委員長 向 後 和 夫

文教福祉常任委員会

平成19年3月13日（火曜日）

付議事件

《付託議案》

- 議案第 1 号 平成19年度旭市一般会計予算の議決についてのうち本委員会所管事項
- 議案第 2 号 平成19年度旭市国民健康保険事業特別会計予算の議決について
- 議案第 3 号 平成19年度旭市老人保健特別会計予算の議決について
- 議案第 4 号 平成19年度旭市介護保険事業特別会計予算の議決について
- 議案第10号 平成18年度旭市一般会計補正予算の議決についてのうち本委員会所管事項
- 議案第11号 平成18年度旭市国民健康保険事業特別会計補正予算の議決について
- 議案第12号 平成18年度旭市老人保健特別会計補正予算の議決について
- 議案第20号 旭市非常勤の職員の報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第24号 旭市立保育所条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第25号 旭市児童遊園設置条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第26号 旭市重度心身障害者医療費助成条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第27号 旭市国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第29号 旭市立中学校設置条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第30号 旭市社会体育施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第36号 専決処分の承認について

出席委員（7名）

委員長	林 一 雄	副委員長	柴 田 徹 也
委員	林 正一郎	委員	木 内 欽 市
委員	景 山 岩三郎	委員	向 後 悦 世
委員	伊 藤 保		

欠席委員（なし）

委員外出席者（1名）

議 長 嶋 田 茂 樹

説明のため出席した者（34名）

教 育 長	米 本 弥 榮 子	環 境 課 長	小 長 谷 博
保 險 年 金 課 長	増 田 富 雄	健 康 管 理 課 長	浪 川 敏 夫
社 会 福 祉 課 幹 主	加 瀬 恭 史	高 齢 者 福 祉 課 長	横 山 秀 喜
庶 務 課 長	在 田 豊	学 校 教 育 課 長	多 田 清 司
生 涯 学 習 課 長	花 香 寛 源		
そ の 他 担 当 員 職	25名		

事務局職員出席者

事 務 局 長	来 栖 昭 一	事 務 局 次 長	石 毛 健 一
主 査	穴 澤 昭 和		

開会 午前10時 0分

○委員長（林 一雄） おはようございます。

本日は、文教福祉常任委員会、大変にご苦労さまでございます。

平成19年度第1回定例会におきまして、本委員会所管では、学校校舎の改築と大規模改造が大きな予算の議題であります。干潟小、共和小、豊畑小、飯岡小、中央小、鶴巻小、滝郷小学校の7校と第一中学校の大規模改造工事と臨時議会で決定されました第二中学校の屋内運動場などの総額15億2,800万円が計上されております。一般財源は無論のこと、国庫支出金も起債も私たちの税金であります。大切な税の有効利用を考え、子供たちが安全で安心して授業が受けられる環境づくりに執行部と委員ともに知恵を出し、すばらしい校舎ができればと思っております。

議案第36号の専決処分の承認まで15議案と多岐にわたっておりますので、よろしくご審議をお願いいたしまして、ごあいさつとさせていただきます。

着席をさせていただきます。

ここで、本委員会を開会する前に、あらかじめご了承願います。

この後、議会だより取材のため、職員が委員会室内の写真撮影を行いますのでご了承願います。

ただいまの出席委員は7名、委員会は成立いたしました。

それでは、文教福祉常任委員会を開会いたします。

本日、嶋田議長にご出席をいただいておりますので、ごあいさつをお願いいたします。

○議長（嶋田茂樹） おはようございます。

委員の皆さん、大変ご苦労さまでございます。

本日は、付託されました一般会計を含む15議案について審議をいただくことになっております。どうぞよろしくご審議のほどお願い申し上げまして、簡単ではございますけれども、あいさつに代えさせていただきます。

よろしくをお願いいたします。

○委員長（林 一雄） ありがとうございます。

議案説明のため、教育長、担当課長及び職員の出席を求めました。

それでは、執行部を代表し、米本教育長よりごあいさつをお願いいたします。

○教育長（米本弥栄子） おはようございます。

文教福祉常任委員会の開催に当たりまして、執行部関係各課を代表してごあいさつを申し上げます。

林一雄委員長をはじめとする皆様方には、日ごろからご指導、ご支援をいただいておりますことに対しまして御礼と感謝を申し上げます。

本日は、議会より付託されました議案第1号中の所管事項、議案第2号、議案第3号、議案第4号、議案第10号中の所管事項、議案第11号、議案第12号、議案第20号、議案第24号、議案第25号、議案第26号、議案第27号、議案第29号、議案第30号、議案第36号の15議案についてご審議をいただくことになっております。よろしくご審議のほどお願い申し上げまして、ごあいさつといたします。

よろしく申し上げます。

○委員長（林 一雄） どうもありがとうございました。

議案の説明、質疑

○委員長（林 一雄） ただいまから本委員会に付託されました議案の審査を行います。

去る3月2日の本会議におきまして、本委員会に付託されました議案は、議案第1号、平成19年度旭市一般会計予算の議決についてのうち本委員会所管事項について、議案第2号、平成19年度旭市国民健康保険事業特別会計予算の議決について、議案第3号、平成19年度旭市老人保健特別会計予算の議決について、議案第4号、平成19年度旭市介護保険事業特別会計予算の議決について、議案第10号、平成18年度旭市一般会計補正予算の議決についてのうち本委員会所管事項について、議案第11号、平成18年度旭市国民健康保険事業特別会計補正予算の議決について、議案第12号、平成18年度旭市老人保健特別会計補正予算の議決について、議案第20号、旭市非常勤の職員の報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について、議案第24号、旭市立保育所条例の一部を改正する条例の制定について、議案第25号、旭市児童遊園設置条例の一部を改正する条例の制定について、議案第26号、旭市重度心身障害者医療費助成条例の一部を改正する条例の制定について、議案第27号、旭市国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定について、議案第29号、旭市立中学校設置条例の一部を改正する条例の制定について、議案第30号、旭市社会体育施設の設置及び管理に関

する条例の一部を改正する条例の制定について、議案第36号、専決処分の承認についての15議案であります。

これより付託議案の審査を行います。

初めに、議案第1号中の所管事項について、担当課より補足して説明がありしたらお願いいたします。

社会福祉課主幹。

○社会福祉課主幹（加瀬恭史） 社会福祉課から新規事業を中心にご説明申し上げます。

初めに、歳入につきましては、そのほとんどが歳出の事業にかかわる国県の補助金でありますので省略させていただきます。

歳出についてご説明いたします。

91ページをお願いいたします。

下段になりますが、社会福祉総務費、説明欄4の戦没者追悼事業80万4,000円は、隔年の実施でございまして、東総文化会館において10月17日開催を予定しております。

次に、96ページをお願いします。

障害福祉費ですが、説明欄の10、11の二つの事業が障害者自立支援法によって支援費から組み替えられた事業でございまして。

10の地域生活支援事業の13の委託料のうち、上から三つの事業です。相談支援事業委託料112万8,000円、コミュニケーション支援事業委託料、これは手話通訳者派遣事業ですが、57万6,000円、次の地域活動支援センター機能強化事業委託料841万6,000円は新規事業でございまして、補助率は国が2分の1、県が4分の1です。

次の19、負担金補助及び交付金の社会参加促進事業補助金20万円は、運転免許取得及び車の改造に必要な費用のうち、10万円を限度に補助するものでございまして。

説明欄11の自立支援給付事業4億7,639万4,000円ですが、ほとんどが支援費から移行された事業でございまして。

次のページになりますが、20の扶助費のうち黒丸の一番下、自立支援医療給付費3,836万6,000円ですが、従来の厚生医療に加えまして、生活保護の人工透析の分がここに加わりまして、約3,500万円ほど増加となっております。この事業も、補助率は国2分の1、県4分の1です。

次の説明欄12、障害者グループホーム等入居者家賃補助事業109万1,000円ですが、グループホーム入居者に家賃の2分の1、限度額1万円を補助するものです。補助率は、県2分の

1です。

その下の13、障害者のための地域づくり支援モデル事業591万7,000円ですが、障害者福祉サービスの根幹となります相談支援の充実、強化や支援のネットワーク化を進める事業で、県がモデル事業として新設した事業を旭市が実施するものです。補助率は、県2分の1です。

次に、107ページをお願いします。

児童福祉総務費の説明欄3、母子福祉事業242万4,000円のうち、13、委託料の母子生活支援入所措置委託料104万円ですが、いわゆる母子寮への入所時の委託料でございます。補助率は、国2分の1、県4分の1です。

続きまして、その下の20の扶助費ですが、配偶者暴力被害者緊急一時避難支援費6万円、これは、夫からの暴力によって逃げてきた母子等を支援するもので、1日3,000円、3日を限度としておりまして、これは市の単独事業です。緊急時ということで、泊まる所も無いとか、そういった場合に対応するものです。

次の自立支援教育給付金50万円は、パソコン等の自立に必要な教育訓練に対しまして給付する事業で、国が4分の3、県が4分の1ということで、100%補助の事業でございます。

次の母子家庭高等技術訓練促進費82万4,000円も、看護師や保育士といった資格を取得するための技能訓練を促進するためのもので、平成19年度は1名予定者がありまして、予算を計上するものでございます。この事業も、補助率は、国が4分の3、県4分の1で100%補助でございます。

次に、109ページをお願いします。

中段の2目、児童措置費、説明欄1の児童手当給付事業5億360万1,000円ですが、これは、第1子、第2子の3歳未満の児童手当が5,000円から1万円になるために増額になるものでございます。

次に、110ページをお願いします。

児童福祉施設費、説明欄2の中央児童遊園S L改修事業755万5,000円は、老朽化したS L及び展示庫の改修を行うもので、S Lについては塗装工事を予定しております。

また、落成の記念イベントをあわせて行いまして、イベントを行うことによりまして、元気な市町村づくり総合補助金350万円の対象となるものでございます。

次に、113ページをお願いします。

説明欄、保育所運営費の13、委託料のうち、黒丸の下から二つ目、耐震診断調査委託料1,535万8,000円ですが、昭和55年度以前に建設されました10か所の保育所の耐震診断を行う

ものです。

次に、説明欄15、工事請負費358万4,000円は、保育所の園庭の排水工事1か所と屋根部分の改修工事1か所を予定しているものでございます。

以上でございます。よろしくお願いいたします。

○委員長（林 一雄） 高齢者福祉課長。

○高齢者福祉課長（横山秀喜） それでは、高齢者福祉課の方から主な事業及び新規事業等を中心に、若干説明させていただきます。

100ページをお願いします。

100ページの一番下の方です。4番、老人保護扶助費6,544万7,000円、この事業ですが、養護老人ホームへの措置費ということで、予算上は34人分の計上でございます。3月1日現在、ちなみに31名の該当者が3施設の方へ入所しています。

103ページをお願いします。

説明欄2番の老人性白内障補助眼鏡等購入助成事業、事業費は少ない事業ですが、この要綱の対象者を若干見直しまして、住民税非課税世帯の方ということで限定をして事業を実施するものです。

続きまして、その下の3番、緊急通報体制等整備事業952万円、この事業ですが、緊急通報装置を229台、福祉電話を6台、火災警報器を20台、予算措置しました。

104ページをお願いします。

説明欄の7番です。地域密着型サービス拠点等施設整備事業ということで、平成19年度は、やすらぎ園が干潟の今のデイサービスのある場所の隣に29人床の小規模の特別養護老人ホームを建設する際の補助金ということで、全額国からの補助金です。それを予算を通して、トンネルで補助をするといったようなものです。

続きまして、その下の8番、地域包括支援センター運営事業705万7,000円、この事業は、新規事業で来年度から新しく地域包括支援センターが旭市の高齢者福祉課内に設置されます。それに伴う事業で、一般会計部分の予算と実は介護保険会計の方と若干事業を分けて計上してあるんですが、一般会計の方に計上した事業につきましては、来年度から要支援者の軽い人たち、要支援1、2の方々のケアプランを地域包括支援センターでつくっていくということになります。これは、介護保険制度上のケアプランの作成ということになりますので、介護報酬が請求できるということになります。それを地域包括支援センターの市の職員だけでは300名前後の対象者がいますので、ケアプランが作成し切れないというようなことから、

現在、事業所の方へ一部を委託するという方法を考えています。その委託費が主なものになります。13節、685万8,000円のほとんどが委託費になります。

歳入の方ですが、40ページをお願いします。

40ページの14番、介護予防計画費収入ということで1,099万7,000円、これは、先ほど申し上げました介護報酬を請求した歳入ということになります。

また104ページの方に戻っていただきたいんですが、705万7,000円ということで歳入の方が多くなっています。この歳入の超過分につきましては、地域包括支援センターの職員の給与費の方に充当するといったようなことになります。

続きまして、106ページをお願いします。

説明欄4番の介護保険事業特別会計の繰出金ということで4億4,422万2,000円、これはルール分ですが、介護給付費の繰出金がルール分、それから地域支援事業繰出金ということで、これは介護保険会計の方でご説明申し上げますが、そのルール分ということで、最後は事務費というような内訳になっています。

以上です。

○委員長（林 一雄） 保険年金課長。

○保険年金課長（増田富雄） それでは、保険年金課より新規事業並びに主な事業についてご説明申し上げます。

99ページをご覧ください。

右側、説明欄の2番、国民健康保険事業特別会計繰出金3億287万3,000円でございますが、これは一般会計から国保会計へ繰り出すルール分の計上でございます。

続きまして、103ページをご覧ください。

説明欄の10番、広域連合負担金でございますけれども1,406万5,000円、これは、主要事業の説明でも申し上げましたが、ことしの1月1日付けで、千葉県後期高齢者医療広域連合が発足し、平成20年度からの本格稼働に向けまして、現在、着実に準備を進めているところでございます。ついては、その関連経費は県下56市町村で分担することとなり、旭市分として計上するものであります。負担割合といたしましては、均等割10%、人口割40%、後期高齢者人口割50%となっております。

続きまして、その下の11番、老人保健特別会計繰出金でございますが、3億6,793万4,000円でございますが、これは、一般会計から老人保健会計へ繰り出すルール分の計上でございます。

以上でございます。

○委員長（林 一雄） ほかに補足説明はございませんでしょうか。

庶務課長。

○庶務課長（在田 豊） それでは、庶務課の所管する部分の補足説明を申し上げます。

予算書の238ページをご覧くださいなのですが、小学校の管理費の説明欄5番の小学校大規模改造事業6億5,607万円でございますけれども、この15節工事請負費でございますが、これは、財政課長の補足説明でも申し上げましたとおり、干潟小学校、それから共和小学校、豊畑小学校、飯岡小学校、この4校の耐震補強並びに大規模改造工事の請負費でございます。

その上段の13節委託料でございますけれども、これら4校の監理委託料のほか、矢指小学校の校舎の改築が平成20年度に予定しておりますので、基本設計、実施設計、それから耐力調査の委託料でございます。

続きまして、244ページをご覧くださいなのですが、今度は、中学校の学校管理費の説明欄4番の中学校大規模改造事業でございます。8,837万円ということですが、これは、平成18年、平成19年、2か年で実施しております干潟中学校の耐震補強、大規模改造工事の工事請負費並びに監理委託料でございます。

それから、説明欄5番、海上中学校の建設事業でございますが、工事請負費といたしまして、解体工事ということで8,460万円、これは、一応、今の予定でいきますと、8月末を目途に解体するというところでございます。

それから、説明欄6番の第二中学校改築事業7億8,322万9,000円でございますけれども、これにつきましては、15節の工事請負費、245ページの上段の部分ですが、この工事請負費には、平成19年、平成20年で校舎改築を予定しております。それから、今、工事が始まっております平成19年度分の屋内運動場の改築工事の工事費が計上されているところでございます。監理委託料等も同様でございます。

そして、本日、皆様方のお手元の方に、第二中学校の基本設計に基づきます図面をお配りさせていただきましたが、現時点で、若干、実施設計の方と調整しておりまして、一番初めの図面の所の右下に面積が表示してありますが、この図面でいきますと、合計5,272平米という延べ床面積になっておりますが、学校等との調整をした中で、5,480平米ほどの面積になろうかと思っておりますので、若干、この平面図よりも増えるという予定をしているところでございます。

以上でございます。

○委員長（林 一雄） ほかに補足説明は。

学校教育課長。

○学校教育課長（多田清司） それでは、私の方から学校教育課に関する主要事業についてご説明をさせていただきたいと思います。

予算書の240ページ、説明欄の6でございます。小学校教諭補助員配置事業でございます。この事業は、小学校の担任教諭をサポートしまして、小学校低学年の国語や算数など、個に応じたきめ細かな指導の充実を図るということを目標に計上した事業でございます。各学校から大変喜ばれている事業でございます。特に今年度は、県から職員の配置が減らされてしまったために、そういった学校が3校ございまして、来年度も県の方はかなり財政が厳しいということで配置を減らされることが予想されますので、今年度は、そういった意味で市の方で配置するという計上させていただきました。

また、特に年度途中で特別な支援が必要な児童が非常に多くなってきております。今年度も5件ございまして、そういった意味で、年度途中からでも対応できる補助員を配置できるようなものを想定しまして計上させていただきました。

それから、246ページの中学校教諭補助員配置事業でございます。これも小学校同様に、各中学校に配置するものでございまして、計上させていただきました。

同じく248ページ、課外活動支援事業でございます。この事業につきましては、子供たちに課外活動の支援を通しまして、学校と地域社会との連携を図るとともに、子供たちにスポーツや文化の楽しさ、あるいはやったといった達成感を体験しまして、生涯にわたり、スポーツや文化活動に親しむ基礎を培うということで計上させていただきました。

中学校におきまして、来年度は12種目につきまして指導者を登録して派遣する事業でございます。そういった意味で計上させていただきましたので、よろしくお願ひしたいと思います。

以上でございます。

○委員長（林 一雄） ほかに。生涯学習課長。

○生涯学習課長（花香寛源） それでは、生涯学習課所管の事業につきましてご説明申し上げます。

まず、254ページをお開きください。

文化振興費、説明欄2番、文化振興事業3,122万8,000円です。これにつきましては、舞台芸術の場の提供として、子ども劇場、コンサート、演劇、文化公演会、あさひ寄席など市民

参加事業としまして、市民音楽祭、市民ミュージカル、文化祭など15事業を予定しているところでございます。

なお、平成19年度には、自治総合センター主催によります文化公演事業としまして、宝くじまちの音楽祭、それと、NHK公開放送も予定されているところでございます。

財源ですが、特定財源として文化振興基金繰入金1,124万8,000円、自主文化事業入場料収入685万3,000円を見込んでいます。

続きまして、272ページ、説明欄2番、大原幽学遺跡旧宅半解体修理事業、これにつきましては新規事業で、大原幽学遺跡にあります旧宅の破損や腐食の拡大を防ぐため、半解体の修復、修理を行うものであります。全体事業として、3か年を予定しております。

財源ですが、国庫補助金2分の1、県補助金4分の1を見込んでおります。

続きまして、275ページ、説明欄3番の国民体育大会開催事業、これも新規事業でありまして、平成22年に千葉県で開催されるゆめ半島千葉国体の卓球競技会の開催及び諸準備を行うもので、事業内容は、ゆめ半島千葉国体旭市準備実行委員会に補助金370万円を予定しているものでございます。

続きまして、275ページ、説明欄2番、社会体育施設管理費、これにつきましては、総合体育館を中心に、野球場、テニスコートなど、市内の社会体育施設の管理運営を行う経費でありまして、事業費としまして1億2,833万6,000円であります。平成19年度に行う事業といたしましては、まず、276ページ、説明欄13、委託料の上から6行目、設計業務委託料1,200万円、これにつきましては、総合体育館の改修工事の設計委託料です。平成22年に開催しますゆめ半島千葉国体で卓球競技の予定会場となっております総合体育館で大会を運営するに当たり、役員、選手等の部屋数が不足していることから、増築を行うための基本設計と実施設計を見込んでいるところでございます。

続いて、277ページ、15番、工事請負費、防球ネット整備工事、これにつきましては2,280万円で、海上コミュニティ野球場のバックネットの高さが約10メートル程度であります。ファウルボール時の公園来場者への安全面を考えると非常に危険であることから、現在のバックネットの後方へ20メートルの高さまでのファウルボールが対応できるネットを増設するものであります。あわせて、飛来が予想されるエリア内の公園遊具を移設するものでございます。

その下の庭球場改修工事につきましては、総合体育館庭球場のハードコート2面について20年が経過していることから、ひび割れが発生し、プレイに支障を来たしていることから補

修工事を行うものであります。

以上であります。よろしくお願ひしたいと思ひます。

○委員長（林 一雄） ほかに補足説明はございませんでしょうか。

（発言する人なし）

○委員長（林 一雄） それでは、特にないようですので、担当課の説明は終わりました。

議案第1号中の所管事項について、質疑がありましたらお願いいたします。

木内委員。

○委員（木内欽市） ページごとでいいでしょうか。

91ページ、加瀬主幹から説明があった戦没者追悼事業ですが、これは、人数が何人ぐらいかお願いします。

それと、97ページの説明欄13、新規事業ですか、障害者（児）のための地域づくり支援モデル事業は、具体的にどのような事業かお願いします。

それと、101ページ、説明欄5の長寿祝金支給事業でございますが、この事業は、やはり、今回予算に盛っておられて、私はこれには賛成です。と申しますのは、時々は確かに聞くんです。5,000円ばかりのお金をもらってもしょうがないという人がいるので、実際にその家に行きますと、奥さんが出てきて、やはり、もらえるものはもらいたいですと。これがどうも本音のような気がします。いらぬ人は、ほかの福祉団体へ寄附なり何なりしてもらって、それは結構だと思いますので、正直、楽しみにしている方もおりますし、1か月に1回ずつ食事に行けば1年ぶり、だいたいあるわけであって、合併してすぐこういうことをなくすと、合併してなくなったと言われますので、合併のデメリットみたいになってもいけないので、私は、これは当分は続けてほしいと、このように思っております。これは、私の意見です。お答えは結構です。

それと、244ページ、説明欄5、これをお聞きしますが、中学校建設事業の解体費です。8月末には行われる予定ですが、8,400万円でちょっと安いのではないかと思います、これはどうなんでしょうか。

以上です。

○委員長（林 一雄） 木内委員の質疑に対し、答弁を求めます。

社会福祉課主幹。

○社会福祉課主幹（加瀬恭史） 初めに、戦没者参加人数でございますが、亡くなられた方、戦没者を把握しているのは1,854柱でございますけれども、平成17年の参加者は376名でございます。

ました。こう言うのは何ですが、若干参加者が高齢者というようなことで若干減っている状況でございますので、それ以下というふうには把握しております。

続きまして、モデル事業でございますけれども、この事業は、県の方で行うモデル事業を市が実施するというところでございます。県では、県内で3か所ぐらいを予定しているようなんですけれども、中身といたしましては、障害者というのは、いろいろ相談をしたり、いろいろな解決するための相談事業というのが基本になってきます。それで、いろいろな施策があって、多岐にわたっていくというのが実情でございますので、その中で相談事業を充実強化するというところでございます。それで、支援者に対して適切なアドバイスをする。

それと、この地域はロザリオ系ですとか、ホーム系の施設あるいはサービスを行う施設がたくさんございます。そういったものからネットワークづくりをしまして、適切にそういう事業を行っていくということです。

それと、地域自立支援協議会というのを今回設置予定なんですけれども、そういったことに対しても、そこで支援をお願いすると、こういった事業でございます。

以上でございます。

○委員長（林 一雄） 庶務課長。

○庶務課長（在田 豊） 244ページの海上中学校の工事の解体でございますけれども8,460万円、正式に設計をまだ行っておりませんので、果たしてこれが安いのか高いのかということについては、私どももはっきりと把握できていないんですが、設計事務所等の意見等を総合いたしまして、これぐらいで大丈夫ではないかというような、そういう見込みをある程度いただいておりますので、この金額を計上させていただいているところでございます。

○委員長（林 一雄） 木内委員。

○委員（木内欽市） この中学校の解体に関しては、アスベストとか、そういうのはどうなんでしょうか。

○委員長（林 一雄） 庶務課長。

○庶務課長（在田 豊） アスベスト調査につきましては、一昨年、すべての学校の設計図、それから現地の調査、それらを実施しまして、海上中学校の今回解体する部分でアスベストが使用されているという状況は全くございません。

○委員長（林 一雄） 木内委員。

○委員（木内欽市） 周りは住宅地ですので、アスベストは無いということは一安心なんですが、騒音、ほこり等々のことが考えられますので、十分に注意をして進めていただきたいと、

このように思います。

ありがとうございました。

○委員長（林 一雄） ほかに質疑ございませんでしょうか。

景山委員。

○委員（景山岩三郎） 1点だけお願いします。社会福祉課の加瀬主幹をお願いいたします。

113ページ、私立保育所の運営委託料というのは、どのようなあれで、人数割か、それとも何か所あるのか、教えてもらいたいです。

○委員長（林 一雄） 景山委員の質疑に対し、答弁を求めます。

社会福祉課主幹。

○社会福祉課主幹（加瀬恭史） 私立保育所ですけれども、現在、6か所ございます。その保育所へ入所している方というのは、保育所が独自に運営しているのではなくて、市の方で委託しているという形式をとっております。そのために、その保育料もそうなんですけれども、運営費そのものを、市の方からお金が行くということで、独立採算で独自に私立保育所がやっているということではございませんので、この分がお金が計上されるということです。

ちなみに、全6か所で、延べ人数で6,041人の児童がおります。

以上でございます。

○委員長（林 一雄） ほかに質疑はございませんでしょうか。

（「なし」の声あり）

○委員長（林 一雄） それでは、特にないようですので、議案第1号中の所管事項の質疑を終わります。

続いて、議案第2号について、保険年金課より補足して説明がありましたらお願いいたします。

保険年金課長。

○保険年金課長（増田富雄） それでは、議案第2号、平成19年度旭市国民健康保険事業特別会計予算について、補足説明を申し上げます。

本案につきましては、本会議でも補足説明を申し上げているところではございますが、主なものにつきまして補足説明を申し上げます。

初めに、事業勘定の歳入からご説明いたします。

321ページをお開きください。

1款国民健康保険税は、合計で28億1,176万1,000円、前年度に対し、642万円、0.2%の減

を見込みました。

なお、国保税の税率につきましては、平成18年度から均一課税となっており、その後の改正はございません。

322ページになります。

4款国庫支出金、1項国庫負担金、1目療養給付費等負担金は、19億3,574万1,000円を見込みました。これは、一般被保険者の療養給付費をはじめ、老人保健や介護保険への拠出に対して、それらの34%を国が負担するというものでございます。

2目高額医療費共同事業負担金は、市が納付する拠出金に対して、国県がそれぞれ4分の1を負担するもので、国の負担分を3,692万円と見込みました。

323ページになります。

2項国庫補助金、1目財政調整交付金は、4億4,521万5,000円を見込みました。これは、市町村間の財政力の不均衡の調整を行うため、全国ベースで給付費の9%相当分を交付するものでございます。

5款療養給付費等交付金は、7億1,167万6,000円を見込みました。これは、退職被保険者等の医療費等に対する交付金でございます。

6款県支出金、1項県負担金、1目高額医療費共同事業負担金は、国と同じ3,692万円を見込みました。

324ページになります。

2項県補助金、1目県財政調整交付金は、3億8,540万4,000円を見込みました。これは、三位一体改革の一環として、市町村国保財政の安定化に対する県の役割、権限の強化を図るため平成17年度に創設されたものでありまして、給付費の7%相当分を交付するものであります。

7款共同事業交付金は、9億8,839万7,000円を見込みました。これは、高額医療に対する交付金で、昨年4月から9月までは1か月当たり80万円を超えるものが対象となっておりましたが、昨年の10月から保険財政共同安定化事業が新たに発足し、30万円を超え、80万円までと、80万円を超えるものの2本立てになったことから、対前年比622.8%の増となったものであります。

325ページになります。

9款繰入金、1項他会計繰入金、1目一般会計繰入金は、2億9,579万5,000円を見込みました。これは、すべてルール分の繰り入れであります。

2 項基金繰入金、1 目財政調整基金繰入金は、歳入不足分 2 億 2,500 万円を見込みました。

10 款繰越金は、1 億 7,000 万円を見込みました。

飛びまして、327 ページになります。

11 款諸収入、3 項雑入の主なものは、1 目は交通事故等による第三者納付金として 500 万円、5 目は人間ドック自己負担収入として年間 400 件、316 万 2,000 円を見込みました。

続きまして、歳出についてご説明申し上げます。

328 ページになります。

1 款総務費、1 項 1 目一般管理費は、レセプト点検や電算処理委託料を含む事務費で、2,884 万 4,000 円を見込みました。

平成 19 年度で変わったことだけということがございますので、飛びまして、334 ページになります。

5 款共同事業拠出金は、10 億 1,819 万円を見込みました。これは歳入でも申し上げましたが、昨年 10 月から保険財政共同安定化事業が新たに発足し、対象となる事業が 2 本立てとなったことから、423.2% の増となったものでございます。

以上でございます。

○委員長（林 一雄） 保険年金課の説明は終わりました。

議案第 2 号について、質疑がありましたらお願いいたします。

柴田委員。

○委員（柴田徹也） 1 点だけ質問させていただきます。

320 ページ、歳出の事項別明細書の中の 5 款共同事業拠出金、対前年度に比べて 8 億 2,300 万円の増でございます。今、説明をいただいたんですが、もうちょっとかみくだいて、分かりやすく説明していただければと思います。

○委員長（林 一雄） 柴田委員の質疑に対し、答弁を求めます。

保険年金課長。

○保険年金課長（増田富雄） それでは、5 款共同事業拠出金についてご説明いたします。

334 ページをお願いいたします。

対前年比で大幅に変動しております 2 点について、その内容を申し上げます。

まず、5 款 1 項 1 目の高額医療費共同事業拠出金でございますけれども、平成 19 年度は、1 億 4,768 万 1,000 円、対前年度比で 4,693 万円の減となっております。

これは、高額医療費のうち、1 か月当たり 70 万円を超えるものを対象にして拠出しており

ましたが、1か月当たり80万円を超えるものに引上げられたために、その分の対象件数が減少したことによる減額でございます。

続きまして、335ページになりますが、2目の保険財政共同安定化事業拠出金でございますが、平成18年度は当初予算での計上はございません。平成19年度で8億7,050万5,000円を計上したものでございます。これは、補足説明でも申し上げましたが、去年の10月から制度化されました新規事業でございます。1か月当たり30万円を超え、80万円までの高額医療費が対象になるものであります。この事業の流れといたしましては、各市町村が実施主体となる国保連合会に財源を共同でプールし、実際に発生した医療費に応じて交付されるものでございます。交付される金額は、1件当たり30万円を超えるレセプトにおいて8万円を超え、80万円までの部分の100分の59に相当する額が交付されるものでございます。

以上でございます。

○委員長（林 一雄） ほかにございますでしょうか。

（発言する人なし）

○委員長（林 一雄） 特にないようですので、議案第2号の質疑を終わります。

議案の審査は途中でありますが、ここで11時10分まで休憩をいたします。

休憩 午前10時55分

再開 午前11時10分

○委員長（林 一雄） 休憩前に引き続き会議を開きます。

引き続き議案の審査を行います。

続いて、議案第3号について、保険年金課より補足して説明がありましたらお願いいたします。

保険年金課長。

○保険年金課長（増田富雄） 議案第3号、平成19年度旭市老人保健特別会計予算の議決について、本案につきましては、本会議で申し上げた以上に特にございませぬ。

○委員長（林 一雄） 保険年金課の説明は終わりました。

議案第3号について、質疑がありましたらお願いいたします。

（「委員長、もう一遍説明を求めます」の声あり）

○委員長（林 一雄） それでは、保険年金課よりもう一度説明をお願いいたします。

○保険年金課長（増田富雄） 申し訳ございません。

議案第3号、平成19年度旭市老人保健特別会計予算について、補足説明を申し上げます。

初めに、歳入についてご説明申し上げます。

363ページをお開きください。

1款支払基金交付金は22億6,684万8,000円、前年度に対し、1億1,815万円、5%の減を見込みました。これは、各保険者から徴収した拠出金を基に、社会保険診療報酬支払基金が市町村へ交付するもので、医療等に要する費用の12分の6を交付となっております。

2款国庫支出金、1項1目医療費国庫負担金は、14億1,766万4,000円を見込みました。国の負担割合は、医療等に要する費用の12分の4となっております。

364ページになります。

3款県支出金、1項1目医療費県負担金は、3億5,441万7,000円を見込みました。県の負担割合は、医療等に要する費用が12分の1となります。

4款繰入金は、一般会計から3億6,793万4,000円を見込みました。これには、医療等に要する費用の12分の1が含まれております。

5款繰越金は、3,000万円を見込みました。

365ページになります。

6款諸収入、3項雑入、1目第三者納付金113万2,000円は、交通事故等による第三者納付金でございます。

続きまして、歳出についてご説明申し上げます。

366ページになります。

1款総務費は、1,351万8,000円を見込みました。内訳といたしまして、医療費通知等の老人保健事務費が351万2,000円、電算共同処理やレセプト点検業務等医療費適正化事業費が1,000万6,000円となっております。

367ページになります。

2款医療諸費は、43億9,334万3,000円、前年度に対し、3,214万5,000円、0.7%の減を見込みました。内訳としましては、1項1目医療給付費が43億円、2目コンセット代等の医療費支給費が7,400万円、3目審査支払手数料が1,934万3,000円でございます。

以上で、議案第3号の補足説明を終わります。

○委員長（林 一雄） 保険年金課の説明は終わりました。

議案第3号について、質疑がありましたらお願いいたします。

(「なし」の声あり)

○委員長(林 一雄) それでは、特にないようですので、議案第3号の質疑を終わります。

続いて、議案第4号について、高齢者福祉課より補足して説明がありましたらお願いいたします。

高齢者福祉課長。

○高齢者福祉課長(横山秀喜) それでは、議案第4号、平成19年度旭市介護保険事業特別会計、この補足説明をさせていただきます。

まず最初に、予算書の説明の前に、介護保険の利用状況について簡単にご説明申し上げます。

平成19年2月末現在ですが、認定者数で1,932人、利用者数で、これは若干時期が前になりますが、平成18年12月の利用者、全体で1,614人です。そのうち、居宅サービスの利用者が1,069人、地域密着型、これは平成18年度から始まった新しいサービスですが、53名。その内訳ですが、認知症のグループホームに28人、認知症のデイサービス利用者が25人という内訳です。それと、施設サービス利用者514名となっています。514名の内訳ですが、特養に315名、老健施設に192名、療養型施設に10人ということです。

それでは、予算書の375ページをお願いします。

個々の説明につきましては本会議の補足説明で申し上げましたので、ここでは全体的な予算の流れをご説明したいと思います。

375ページは、歳入の総括ということになっています。本年度予算額と前年度予算額を対比して比較するといったような表になっています。この中で、国庫支出金ですとか、支払基金交付金、県支出金、これらにつきましては、すべて保険給付費のルール分ですとか、地域支援事業費のルール分になっています。

特に、国支払基金、県支出金、これらにつきましては、国は8.2%の伸びです。こういう伸びがあるといいますのは、保険給付費の伸びが4.7%に対して、国庫は8.2%ですとか、県支出金は6.9%の伸びを実際はしているわけですが、地域支援事業が今年度予算から本格的に始まったというようなことで、地域支援事業費の負担金が大きく伸びているといったような予算構成になっています。

次の376ページをお願いします。

歳出の方の総括ということになります。2款の保険給付費、これは先ほど申し上げました

けれども、1億3,842万5,000円の増ですが、保険給付費全体では4.7%の増ということです。

それと、5款の地域支援事業費、これは先ほど申し上げましたとおり、本年度予算額が6,198万円、平成18年度は1,855万8,000円ということで、234%の増ということで、これが先ほど申し上げました本格的に介護予防事業が始まったということで、そのような予算組みになっておりまして、それに伴うルール分の歳入も増えているといったようなこととなります。

続きまして、392ページをお願いします。

保険給付費の方につきましては、4.7%の伸びということで大きな変わりはありませんけれども、5款の地域支援事業費、先ほど大きな伸びを示している事業の中から、主なもの、新規事業等につきまして説明をさせていただきます。

392ページの説明欄2番です。通所型介護予防事業で672万3,000円を組んでいます。この事業につきましては、介護保険制度の利用者の前の段階、昔の言い方で言いますと、虚弱老人、今ですと、特定高齢者という言い方をしますけれども、特定高齢者の方々が利用できる、いわゆる介護予防をしていく事業ということになります。

具体的には、平成18年度で介護予防拠点ということで補助金を国からもらって、そのまま整備して、その受け皿としてやすらぎ園が現在介護予防拠点を整備して工事中ですが、ここに委託する事業です。事業の内容につきましては、筋力アップですとか、栄養改善、口腔ケア等を中心に行う予防事業をやってもらうということになります。特定高齢者になった方々がそこに送迎つきでそこに行っていていただいて、だいたい3か月コースで予防事業をやってもらうと。利用前の状況と利用後の状況ということでアセスメントをしながら、その効果等を図っていくというようなこととなります。参加負担金としましては、1回当たり300円という形を考えています。これが新規事業になります。

続きまして、同じページの事業、下の方の事業ですね。393ページあたりを見ていただくとお分かりのとおり、例えば3番の生活管理指導短期宿泊事業、これはショートステイです。4番の高齢者筋力向上トレーニング事業、これは社会福祉課が所管している事業です。それから、5番の生活機能低下予防事業、これは健康管理課が実施している事業ですが、いわゆる介護予防に直接つながる事業等々を地域支援事業費、一般会計で行うよりは、有利な財源を使って地域支援事業で行っていかうということで、一般会計等からこちらの方に平成18年度以降、組み替えているといったようなこととなります。

393ページの一番下です。2項で、包括的支援事業があります。この包括的支援事業が丸つきり新しい事業になります。説明欄1番の給与費1人分、これにつきましては、実際には

1人以上の包括支援センターに配置される職員がいますけれども、事業費に制限がございまして、その制限の枠の中から1名分しか給与費に充てられなかったということで、包括支援センター自体が1人でやるということではありません。

続きまして、394ページをお願いします。

2番の介護予防ケアマネジメント事業、これが新規事業になります。これは、特定高齢者等のケアマネジメントもこの地域包括支援センターで行う。つまり、介護保険制度ではきちっとした報酬請求をして事業をやりますよということで、先ほど、一般会計で説明しましたがけれども、この包括支援センターの特定高齢者につきましては、この地域支援事業に計上しまして、いわゆる特定高齢者のケアマネジメント事業をやっていくというものになります。

3番は、総合相談支援事業ということで、これらも高齢者に関する福祉サービスの相談ですとか、高齢者虐待の問題、それとか、権利擁護事業、これらの大きな包括支援センターでやっていく事業というようなことで、それらの事業費が計上されています。

395ページの一番下になります。任意事業ということで、これは、市町村が独自に介護予防につながるような事業を計上できるということになっています。

1番で、家族介護用品給付事業、紙おむつ事業です。これも平成17年度ぐらいまでは一般会計で計上されていた事業をこちらの方に移し替えています。

396ページをお願いします。

2番の介護相談員派遣事業、それから、3番の配食サービス事業、それから、次のページの6番、これは新規事業であります。成年後見制度利用支援事業、7番の住宅改修事業。ですので、一般会計であった事業をこちらに持ってきたり、新規事業で幾つか組み合わせをしながら地域包括支援センターで事業を行っていくといったようなことが、この平成19年度の予算の特徴だと思っておりますので、よろしくをお願いします。

以上です。

○委員長（林 一雄） 高齢者福祉課の説明は終わりました。

議案第4号について、質疑がありましたらお願いいたします。

景山委員。

○委員（景山岩三郎） 396ページの配食サービス事業、今、何件ぐらいありますか。

○委員長（林 一雄） 高齢者福祉課長。

○高齢者福祉課長（横山秀喜） 配食サービス事業につきましては、利用者が毎日利用の方々ですとか、週1回ですとか2回という形になりますけれども、月曜日から金曜日ですが、1

日多い日で今のところ59名、少ない日で45名、46名ということで、それを月曜日から金曜日まで実施しているということになります。

以上です。

○委員長（林 一雄） 林委員。

○委員（林 正一郎） 397ページの住宅改修費助成事業ということで、181万6,000円ですか。これは、恐らく年をとってくると、みんなバリアフリーにしたいと思うんですが、金額的に少ないから、申込者に対して1件当たりどのぐらいの補助金を出していくのか、答弁願います。

○委員長（林 一雄） 林委員の質疑に対し、答弁を求めます。

高齢者福祉課長。

○高齢者福祉課長（横山秀喜） この181万6,000円の事業につきましては、市の方が単独で行っている事業でございます、対象経費の2分の1で、18万円が限度ということです。

実績等からこの事業費を計上していますが、実は、介護保険事業の中で住宅改修も対象になっていまして、これにつきましては20万円が限度で1割負担というようなことですので、介護保険の認定者につきましては、そちらの方の制度上での住宅改修を行う。その認定前の方々が林委員がおっしゃるように、バリアフリーにしたい、手すりを付けたい等々の改修事業に対して、そのようなことで行っています。

以上です。

○委員長（林 一雄） 林委員。

○委員（林 正一郎） 課長、もう少し助成金を増やすように財政課長に働きかけたらどうでしょうか。そのように要望いたしておきます。これは、トイレの手すりを付けるというのもしできないじゃないかと心配しております。

以上です。要望でございますので、答弁は結構でございます。

○委員長（林 一雄） ほかに質疑はございませんでしょうか。

（「なし」の声あり）

○委員長（林 一雄） それでは、特にないようですので、議案第4号の質疑を終わります。

続いて、議案第10号中の所管事項について、担当課より補足して説明がありましたらお願いいたします。

社会福祉課主幹。

○社会福祉課主幹（加瀬恭史） 社会福祉課から担当します事項につきましてご説明申し上げます。

ます。

補正予算書の9ページをお願いいたします。

歳入の一番上です。負担金、説明欄1の保育所運営費負担金3,441万3,000円は、低年齢児の児童の数の増加によりまして補正するものであります。

その次の国庫支出金、説明欄1の保育所運営費負担金107万6,000円ですが、これは、私立分の増加によりまして、その負担率2分の1で国庫から出るものでございます。

その下の説明欄1の生活保護費負担金、これは、医療費の減額によりまして生活保護費が減額になりまして、その分の国庫負担金の減額分でございます。2,435万4,000円でございます。

次の国庫支出金、社会福祉国庫補助金の説明欄1、障害程度区分認定等事業費補助金103万4,000円ですが、これは、障害程度区分を認定するに当たりまして、今までは国庫支出金の対象になっておりませんでしたけれども、それがなるということで計上させていただくものでございます。補助率は2分の1でございます。

その下の説明欄1、次世代育成支援対策交付金、これも私立保育所分でございますけれども、減額の675万円でございます。これは、補助率は定額でございますけれども、次世代の交付金を減額になったためをお願いするものでございます。

次に、10ページをお願いします。

一番下の県支出金、説明欄1の保育所運営費負担金でございますけれども、これは、先ほどの私立分の児童の増加に伴いまして、県の負担分4分の1ですが、それを補正するものであります。53万8,000円でございます。

次に、11ページ、中段の欄です。県支出金の説明欄1、私立保育所対策等推進事業補助金、これとその下の2番、私立保育所すこやか保育支援事業費補助金、この二つの事業は、補助基準額の改正と事業の保育配置が不足していたために、事業の対象とならなかったということで、私立分について減額するものでございます。

次に、12ページをお願いいたします。

一番上の欄、受託事業収入でございますけれども、説明欄1の保育所管外受託事業収入、減額で789万8,000円ですけれども、これは、保育所に入所する場合、市内の子供さんを優先するというようなことで管外からの受託が減少したために減額をするものでございます。

続きまして、14ページをお願いします。

一番下の欄の民生費、社会福祉費の歳出でございますけれども、説明欄1、障害者福祉事

務費、マイナス315万8,000円ですけれども、これは、障害者のサービスの利用計画を立てるということで、そういう対象者が障害を持っている方というのは、手帳でたくさんおりましたので、それを当初予定しておりました。しかし、対象となります基準が示されまして、対象者数が減少したということで減額をするものでございます。

次に、15ページ、一番下の欄ですが、児童福祉費、説明欄1の保育所運営費、これにつきましては、13委託料ですが、私立保育所運営委託料につきましては、高額になりますゼロ歳児が減少したということで、減額をお願いするものであります。

その下の管外保育委託料につきましては、逆に、未満児の小さいお子さんの委託が増加したために、159万2,000円の増額をお願いするものであります。

次の2の私立保育所保育対策等推進事業でございますけれども、これにつきましては、先ほど歳入で申し上げました事業の補助基準の改正と保育士配置が不足したために、事業の対象にならなかったということで減額をするものです。367万4,000円でございます。

次の16ページをお願いいたします。

中段の生活保護費、説明欄の生活保護扶助費マイナス3,247万1,000円でございますけれども、これは医療扶助の対象になります入院患者等が減少したために減額をお願いするものでございます。

以上でございます。

○委員長（林 一雄） 高齢者福祉課長。

○高齢者福祉課長（横山秀喜） それでは、予算書の13ページをお願いします。

総務費のところですが、電算関係の改修ということで、関係がございますので説明をさせていただきます。

説明欄の1番、電算システム運用事業の委託料の2行目になります介護保険システム改修業務委託料283万5,000円。この改修ですが、ご案内のとおり、医療保険制度の改正に伴いまして、後期高齢者医療システムの構築が今後されるわけですが、その中で、介護システムの方と連動させる。これは、年金等の天引き等もございまして、介護保険の方が今現在年金の天引きをしているわけですが、そちらの方のノウハウを使って連携するといったようなことから、介護保険システムの方の改修が必要となりました。この時期に、国の方からその改修の補助金を流すから改修してくれといったようなことになったために、時期が相当遅いものですから、今から改修できないというようなことで、歳入歳出の予算計上をさせていただいて、繰越予算とさせていただきたいということになります。

5ページの方をお願いします。

5ページは、第2表の繰越明許費ということになります。一番上の行です。総務管理費電算システム運用事業の283万5,000円を繰越明許ということにさせていただくものです。

続きまして、その次の行です。老人福祉費の地域密着型サービス拠点等施設整備事業、これにつきましては、今年度、地域密着型を整備している事業所が恵天堂のグループホームと東風荘の特別養護老人ホームの事業をやっているわけでございますけれども、国からの内示が8月末、それから、その後、市の補正予算を議決いただいたのが9月28日、その後の事業者からの申請ということになりましたので、鉄筋で建っている特別養護老人ホームにしては、非常に工期が短いというようなことも当初ありましたけれども、やはり、終わらないということで工期変更の申請が東風荘の方から上がりました。そのために、東風荘の分だけ2,078万7,000円を繰越明許とさせていただきたいということです。

よろしくをお願いします。

○委員長（林 一雄） ほかに説明は。

保険年金課長。

○保険年金課長（増田富雄） それでは、補正予算書の15ページをお願いいたします。

4目国民健康保険費のところでございますけれども、国民健康保険事業特別会計繰出金179万円でございますが、国保財政安定化支援事業といたしまして179万5,000円を増額するものでございます。これにつきましては、国保財政の健全化を図るため、一般会計からの繰り入れがルール化されているものでございまして、額の確定による増額でございます。

以上でございます。

○委員長（林 一雄） ほかに。

環境課長。

○環境課長（小長谷 博） 16ページをお開きいただきたいと思います。

4款環境衛生費でございますけれども、負担金で東総地域ごみ処理広域化推進協議会負担金でございますけれども、これは、平成19年度から東総広域の方で事務を行うということと、平成18年度に環境アセスの後、当初は予定していたものがやれなかったと。三、四期負担分の請求がなくなったものですから、これを減額するものでございます。

以上でございます。

○委員長（林 一雄） ほかにございますでしょうか。

庶務課長。

○庶務課長（在田 豊） それでは、予算書の19ページをお願いしたいと思います。

まず、歳出の方からご説明をさせていただきますが、10款の教育費の部分でございますが、説明欄1の小学校耐震診断調査事業429万4,000円の減額でございますが、これは、中央小学校をはじめ、9校の小学校の耐震診断をすべて実施いたしまして、事業費の精算による減でございます。

それから、説明欄2番でございますが、小学校施設改修事業7億4,814万2,000円、これを増額補正させていただくわけですが、まず、委託料でございますけれども、この中で、設計監理委託料1,070万1,000円でございますが、これは、庶務課の方は、当初、中央小学校、それから滝郷小学校、鶴巻小学校、これらの小学校3校について、平成19年度に新年度予算として予算計上させていただく予定をしておりましたが、国の補正にあわせて、今回、3月補正で交付金の方の確定を早目をお願いしたいということで、3月補正によりまして実施をするということで増額補正をさせていただいております。これらの小学校3校分の設計監理委託料でございます。

それから、その下の実施設計委託料555万9,000円の減でございますが、これは、今回の3校にプラス9月で補正をお願いいたしました小学校、干潟小学校をはじめ4校分、合計7校分の実施設計をすべて発注済みでございますので、これらの精算によるところの減でございます。

それから、15節の工事請負費でございますが、7億4,300万円増額になりますが、先ほど申し上げましたように、国の2月の補正にあわせて、市も3月補正をし、この事業を担保しておくということで、中央小学校、鶴巻小学校、滝郷小学校の事業を補正により対応しているものでございます。

それから、続きまして、20ページでございますが、中学校の方の学校管理費でございますけれども、まず、説明欄1の中学校耐震診断調査事業160万6,000円の減でございますが、これも耐震診断をすべて実施しまして、精算をさせていただきまして、減額になるものでございます。

それから、説明欄2の中学校の施設改修事業でございますが、これも一中の校舎の耐震補強を平成19年度で予定しておりましたが、新年度から先ほどの小学校同様に、3月補正に振り向けましてお願いをするというものでございまして、まず、委託料の設計監理委託料でございますけれども、これは、一中の設計監理委託料そのものでございます。

それから、実施設計委託料でございますが、これも干潟中学校と一中と両方が既に委託事

業の発注を終わっておりますので、これらを精算しますと、261万9,000円の減ということでございます。

それから、工事請負費でございますが、3億1,500万円。これは、一中の耐震補強の工事費でございます。

歳入の方に戻らせていただきますが、10ページをご覧くださいと思います。

10ページの5目、教育費国庫補助金でございます。まず、小学校の国庫補助金でございますが2億4,308万4,000円、これは、先ほどの3校の工事費による交付金でございます。

それから、続きまして、中学校の国庫補助金でございますが、7,197万1,000円でございますが、このうち一中の工事の分の交付金としまして7,042万9,000円。それから、中学校の耐震改修等の事業の補助金といたしまして、これは市全体の公共建物の耐震診断を実施しております。これは、関係する課が多岐にわたりますが、都市整備課の方でまとめて実施しております。これは、国土交通省の方の補助金によりまして対応しておりますが、この部分といたしまして、今回、補助金の精算の中で増額としていただけるということで補正をさせていただくものでございます。

それから、続きまして、12ページの20款の市債でございますけれども、5目の教育債でございますが、ここにそれぞれ中学校、小学校とも補正予算債とございますが、これが小学校、中央小、それから滝郷小、鶴巻小、それから中学校におきましては、一中のそれぞれ工事費に対します起債の分としまして、補正予算債を充てさせていただくということでございます。

それから、この中で、中学校の屋内運動場の改築事業債2,050万円、それから、その下の欄の小学校の校舍改修事業債、屋内運動場改修事業債、それぞれございますが、これらにつきましては、より有利に起債が借りられるということで、事業費に対しまして精算をした結果の増額ということでございます。

それで、ちょっと長くなりますが、これらにつきまして、なぜ3月で補正を行うのかということに関しましては、財政課長の方からも説明がございましたけれども、まず、平成19年度で新規事業としてこれらを手を挙げるということに対しまして、必ずしも、平成19年度に認定されるという保証はございませんので、平成18年度の国の補正にあわせまして手を挙げることによって、これらの担保ができるということがまず第一でございます。

そして、交付金等を差し引きました市の負担部分の一般財源部分でございますけれども、これらの部分で補正予算債により有利に起債が借りられるということでございます。そしてまた、実施設計の委託料等もこの交付金の対象にできるということで、有利な財政運営がで

きるということから、3月の補正でお願いしたものでございます。

そして、9月の補正でお願いしておりました共和小学校から始まって4校、それと干潟中学校、これらにつきまして、干潟中学校はもう発注済みでございますが、共和小学校と干潟小学校、豊畑小学校、これらの工事につきまして、3月9日にやっと判定を待って入札が実施できました。その結果、干潟小学校の工事に関しましては工事請負費が1億5,000万円を超えますので、本定例市議会に契約議決として追加の議案としまして提案をさせていただくような、そういう予定でありますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

そして、なお、最後になります、5ページにお戻りいただきたいと思ひます。

第2表の繰越明許費の説明でございますが、10款教育費でございますけれども、干潟小学校から始まりまして、中学校の第一中学校まで、すべて昨年補正予算、そして、今回の補正予算でお願いした学校が挙げられておりますが、これらすべてが平成19年度に平成18年度分が繰り越しとなりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

以上でございます。

○委員長（林 一雄） ほかにございませんでしょうか。

学校教育課長。

○学校教育課長（多田清司） それでは、補正予算書20ページをお開き願ひたいと思ひます。

3目学校教育費でございますが、84万5,000円を補正計上させていただきました。これは、平成18年度予算の際に積算基礎算出の際、海上地区の児童・生徒数の算出計上が大変甘かったため、賄材料としまして補正をお願いすることになりました。今後は、このようなことがないように努めてまいりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

以上です。

○委員長（林 一雄） ほかにございませんでしょうか。

（発言する人なし）

○委員長（林 一雄） 特にないようですので、担当課の説明は終わりました。

議案第10号中の所管事項について、質疑がありましたらお願いいたします。

木内委員。

○委員（木内欽市） 20ページ、賄材料費というのは、今、1食だいたい幾らぐらいなのでしょうか。

○委員長（林 一雄） 木内委員の質疑に対し、答弁を求めます。

学校教育課長。

○学校教育課長（多田清司） 小学校、中学校によって違いますけれども、小学校につきましては、1食228円でございます。中学校が252円でございます。

以上です。

○委員長（林 一雄） 木内委員。

○委員（木内欽市） 質問が前後してすみませんが、13ページのコミュニティバス等運行事業で、これは減額ですか、これはどういうことなのかお願いします。

（発言する人あり）

○委員長（林 一雄） 所管外だそうです。

ほかにございますでしょうか。

林委員。

○委員（林 正一郎） 9ページです。保育所運営費負担金で3,443万1,000円ですが、児童の増加分と説明があったわけですが、どのぐらいの増加があったのか。これをお伺いしたい。

それと、もう一つ、14ページで民生費の中で、障害者福祉事務費で、対象者が減額と。もう少し詳しく説明していただきたい。

19ページの学校のあれで、小学校施設改修事業費で、干潟小ほか4校と。ちょっと言葉が早かったから、私は聞き取れなかったから、干潟小ほか4校は、7億4,800万円はどこかということ、もう少し詳しく教えていただきたい。

それから、工事請負費の干潟小ほか何校だったか。これも3月補正で7億4,300万円と。ちょっと言葉が早くて聞き取れなかったから、もう一度教えていただきたい。

以上です。

○委員長（林 一雄） 林委員の質疑に対し、答弁を求めます。

社会福祉課主幹。

○社会福祉課主幹（加瀬恭史） それでは、ご答弁申し上げます。

保育所運営費の関係でございますけれども、保育料につきましては127人、延べで1,521人ということで、当初の見込みより増えたということで増額になったものでございます。

それともう1点、14ページ、障害者福祉事務費の減額ですが、当初予定では居宅として200人、施設として120人を見込んでおりましたけれども、すべてが該当ということではございませんで、結果的には145人が該当ということで人数が減ったものでございます。

○委員長（林 一雄） 庶務課長。

○庶務課長（在田 豊） それでは、19ページの学校名についてご説明を申し上げます。

まず、小学校の施設改修事業 7 億 4,814 万 2,000 円の中の委託料の関係の部分で申し上げますと、設計監理委託料としまして 1,070 万 1,000 円が計上されておりますが、これは、中央小、鶴巻小、滝郷小でございます。それから、その下の実施設計委託料 555 万 9,000 円の減額になっておりますが、これにつきましては、干潟小、共和小、豊畑小、飯岡小、中央小、滝郷小、鶴巻小、これらの実施設計を既に発注してございますので、減額になるものでございます。

それから、15 節の工事請負費でございますが、7 億 4,300 万円、これは、中央小の南校舎でございますけれども、中央小と鶴巻小と滝郷小、これらの工事請負費でございます。

以上でございます。

○委員長（林 一雄） ほかにご質疑ございませんでしょうか。

（「なし」の声あり）

○委員長（林 一雄） 特にないようですので、議案第 10 号中の所管事項の質疑を終わります。

議案の審査は途中でありますが、昼食のため午後 1 時まで休憩いたします。

休憩 午後零時 0 分

再開 午後零時 59 分

○委員長（林 一雄） 休憩前に引き続き会議を開きます。

引き続き議案の審査を行います。

続いて、議案第 11 号について、保険年金課より補足して説明がありましたらお願いいたします。

保険年金課長。

○保険年金課長（増田富雄） それでは、議案第 11 号、平成 18 年度旭市国民健康保険事業特別会計予算について、補足説明を申し上げます。

補正予算書の 7 ページをお開きください。

4 款 2 項 1 目財政調整交付金 409 万 6,000 円を追加交付により増額するものでございます。これは、旭中央病院の保健事業にかかわる特別調整交付金でございます。

続きまして、6 款 2 項 1 目県財政調整交付金 260 万円の増額でございますが、これは、国保事業の適正化に関する事業への交付として、国保特別会計を通して、国保診療施設であります旭中央病院、飯岡診療所も含みます。それと、滝郷診療所へ交付されるものでございま

す。金額といたしましては、中央病院が200万円、飯岡診療所30万円、滝郷診療所30万円、あわせて260万円でございます。

9款1項1目一般会計繰入金は、179万5,000円を増額するものでございます。これは、歳入の方で申し上げました財政安定化支援事業繰入金による増額でございます。

10款1項1目繰越金333万4,000円を増額するものでございます。

9ページをお願いいたします。

1款1項3目保健衛生普及費は639万6,000円を増額するものでございます。これは、歳入でも申し上げましたが、旭中央病院の保健事業にかかわる国と県の交付金で、中央病院分をそのまま支出するものでございます。

続きまして、9款1項3目償還金512万9,000円でございますが、国庫負担金のうち平成17年度分の療養給付費等負担金の精算により返還するものでございます。

続きまして、9款3項1目直営診療施設勘定繰出金30万円を増額するものでございますが、これも歳入で申し上げましたが、滝郷診療所分の国保事業の適正化に関する事業にかかわる交付金として、そのまま施設勘定に繰り出すものでございます。

以上で、議案第11号の補足説明を終わります。

○委員長（林 一雄） 保険年金課の説明は終わりました。

議案第11号について、質疑がありましたらお願いいたします。

（「なし」の声あり）

○委員長（林 一雄） 特にないようですので、議案第11号の質疑を終わります。

続いて、議案第12号について、保険年金課より補足して説明がありましたらお願いいたします。

保険年金課長。

○保険年金課長（増田富雄） 議案第12号、平成18年度旭市老人保健特別会計補正予算について、補足説明を申し上げます。

補正予算書の7ページをお開きください。

2款2項1目事務費補助金として、89万円を計上するものでございます。これは、昨年7月に電算システムの修正が必要となり、急を要するということから予備費で対応いたしましたが、このたび国庫補助金として交付されることから、受け入れのための予算措置を行うものでございます。

次に、歳出についてご説明申し上げます。

8ページをお開きください。

1款1項1目一般管理費89万円を増額するものでございます。これは、歳入でも申し上げました電算システムの修正に伴う国庫補助金を受けまして、増額を電算業務委託料として計上するものでございます。

以上で、議案第12号の補足説明を終わります。

○委員長（林 一雄） 保険年金課の説明は終わりました。

議案第12号について、質疑がありましたらお願いいたします。

（「なし」の声あり）

○委員長（林 一雄） 特にないようですので、議案第12号の質疑を終わります。

続いて、議案第20号について、担当課より補足して説明がありましたらお願いいたします。
社会福祉課主幹。

○社会福祉課主幹（加瀬恭史） 旭市非常勤の職員の報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例について、補足説明いたします。

この事業は、地域自立支援協議会を設立しまして、その委員に対する報酬を月額6,000円として定めるものでございます。

この旭市地域自立支援協議会についてご説明申し上げます。

この協議会は、障害者の生活を支えるために相談事業をはじめとします地域障害福祉に関するシステムづくり、また、中核的な役割を果たす定期的な会議の場としてこの協議会を設置します。委員の人数は20名以内をもって組織する予定でございます。委員は、識見を有するもの、保健福祉の関係者及び各種団体の代表者等で行います。任期は3年といたします。この協議会につきましては、年度当初の4月から5月ごろを予定して設立したいと考えております。

以上でございます。

○委員長（林 一雄） 高齢者福祉課長。

○高齢者福祉課長（横山秀喜） それでは、同じ条例の一部改正の二つ目の方の改正です。

地域包括支援センター運営協議会委員の報酬を月額6,000円と定めるものでございます。

地域包括支援センターにつきましては、公平、中立性の確保、その他センターの円滑かつ適正な運用を図るため、市町村ごとに一つの地域包括支援センター運営協議会を設置することとされておりますので、そこで、旭市では、平成19年4月1日から旭市地域包括支援センターを設置しますので、あわせて運営協議会を設置するものです。この条例の一部改正は、

その委員の報酬の日額6,000円というものにします。

それで、委員の方ですが、新たに設置するのではなく、現在ある旭市介護保険運営協議会委員を兼ねていただいて、その委員をもって充てるというようなことを予定しています。委員の人数につきましては9名で、学識経験者3名、これは医師会からの推薦をいただいています。サービス事業者が3名、これは施設等の推薦をいただいています。それと、被保険者の代表ということで3名、公募等の方が2名、その中に含まれています。

以上でございます。

○委員長（林 一雄） 担当課の説明は終わりました。

議案第20号について、質疑がありましたらお願いいたします。

（「なし」の声あり）

○委員長（林 一雄） 特にないようですので、議案第20号の質疑を終わります。

続いて、議案第24号について、社会福祉課より補足して説明がありましたらお願いいたします。

社会福祉課主幹。

○社会福祉課主幹（加瀬恭史） 旭市立保育所条例の一部を改正する条例につきまして、補足説明申し上げます。

保育所も指定管理による管理ができるように、以下の3条を加えるものでございます。

中身としましては、指定管理者、指定管理者が行う業務の範囲、指定管理者が行う管理の基準というようなものを定めるものでございます。

施行につきましては4月1日からとなりますけれども、実際に指定管理を予定しております干潟保育所の今後の予定についてご説明申し上げます。

干潟保育所の指定管理制度のスケジュールでございまして、この3月で条例の制定をいたしまして、4月から5月にかけて選定委員会の設置を行う予定でございまして。その後、6月ごろ公募をいたしまして指定管理者の選定を行います。その書類審査、プレゼンテーション等を行って指定をいたしまして、9月議会におきまして議決をいただきたいと考えております。

その後、指定管理者と共同保育ということで10月から半年間をかけまして、ならしと申しましょうか、共同保育を行っていきまして、来年の4月から管理の実施をすると、こういう予定でおりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

○委員長（林 一雄） 社会福祉課の説明は終わりました。

議案第24号について、質疑がありましたらお願いいたします。

(「なし」の声あり)

○委員長(林 一雄) 特にないようですので、議案第24号の質疑を終わります。

続いて、議案第25号について、社会福祉課より補足して説明がありましたらお願いいたします。

社会福祉課主幹。

○社会福祉課主幹(加瀬恭史) 旭市児童遊園設置条例の一部を改正する条例の制定について、補足説明申し上げます。

廃止する犬林児童遊園は、本堂の裏とといいますか、境内の奥にありまして、現在、あまり使われていないという状況がございまして、地権者からも返してほしいということがございました。それと、地元区にも相談しましたところ、ご了解を得ましたので、これを廃止するものでございます。

また、この児童遊園につきましては、近くに後児童遊園という四・五百メートル離れた近くに児童遊園がございまして、それは道路に面してございまして、遊具もそろっているということで、そちらを利用されている子供さんが多いということもございまして、利用が非常に少なかつたということで、この児童遊園については廃止をしたいと考えているものでございます。

よろしく申し上げます。

○委員長(林 一雄) 社会福祉課の説明は終わりました。

議案第25号について、質疑がありましたらお願いいたします。

林委員。

○委員(林 正一郎) 1点だけ。後児童遊園というお話がございましたので、犬林児童遊園の施設を廃止するわけですが、主幹は、後児童遊園を視察したことがございますか。私は集落ですから、草が生えたり、いろいろやって、あれも私が町時代にお寺の方にもってきたんですが、それを今のところに移動したわけですが、維持管理の方をもう少し適切にお願いしたい。

それと、この中にあるものは、何とか使えるものは使ってもらえないかとか、いろいろな問題がございまして、これは要望でございますので、もう少し維持管理の方をしっかりとやっていただきたい。要望です。

○委員長(林 一雄) ほかに質疑ございませんでしょうか。

(「なし」の声あり)

○委員長(林 一雄) 特にないようですので、議案第25号の質疑を終わります。

続いて、議案第26号について、社会福祉課より補足して説明がありましたらお願いいたします。

社会福祉課主幹。

○社会福祉課主幹(加瀬恭史) 旭市重度心身障害者医療費助成条例の一部を改正する条例の制定について、補足説明申し上げます。

この医療費給付改善事業ですけれども、県の重度心身障害者(児)医療費改善事業の補助対象となっております。県がこのほど入院の食事につきましては自己負担を廃止するということにあわせて、旭市も廃止するというものでございます。

影響額についてご説明申し上げます。

初めに、金額でございますけれども、この食事というのは、一般の方ですと1食260円、市県民税の非課税の世帯ですと1食210円、70歳以上の方が1食100円ということの金額でございます。これが削除されて、補助対象から外れるということになります。

影響額としましては、対象者185人、金額にしまして1,200万円ほどの減額になるかと考えております。

以上でございます。

○委員長(林 一雄) 社会福祉課の説明は終わりました。

議案第26号について、質疑がありましたらお願いいたします。

(「なし」の声あり)

○委員長(林 一雄) 特にないようですので、議案第26号の質疑を終わります。

続いて、議案第27号について、保険年金課より補足して説明がありましたらお願いいたします。

保険年金課長。

○保険年金課長(増田富雄) 議案第27号、旭市国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定について、補足説明を申し上げます。

今回の改正でございますが、第2条において、現在の委員の数は、第1号、被保険者を代表する委員3人、第2号、保険医または保険薬剤師を代表する委員3人、第3号、公益を代表する委員3人、合計9名となっておりますが、新たに第4号として、被用者保険等保険者を代表する委員1人の条文を加えるものであります。

そこで、その根拠につきましてご説明いたします。

現在、旭市では、被用者保険等、いわゆる社会保険や公務員共済から退職されて、国民健康保険へ移られた方々で、なおかつ厚生年金や共済年金等の受給権を有する本人及びその被扶養者の数が約2,700名おられます。それらの方々が病院等にかかった場合には、その医療費に応じまして、もとになります社会保険や共済組合等から拠出金としていただくことになっております。

そういう状況であることから、1,500名以上の退職被保険者がいるところについては、被用者保険等を代表する委員を選出し、国民健康保険の運営協議に際して意見を求めるものとなり、本市においても、その基準を超えていることから、第4号委員を設けるものであります。

以上で、議案第27号の補足説明を終わります。

○委員長（林 一雄） 保険年金課の説明は終わりました。

議案第27号について、質疑がありましたらお願いいたします。

柴田委員。

○委員（柴田徹也） 1点お尋ねいたします。

国保運営協議会の委員が1人ふえるということですよ。なかなか言い回しが難しくてよく分からないんですけども、この被用者保険等保険者を代表する委員というのは、具体的に言うと、どういう人を指すのでしょうか。

○委員長（林 一雄） 柴田委員の質疑に対し、答弁を求めます。

保険年金課長。

○保険年金課長（増田富雄） それでは、柴田委員のご質問にお答え申し上げます。

通常、委員の選出につきましては、市長が人選するわけでございますけれども、この被用者保険等保険者につきましては、委員の人選は県に推薦していただくという形になります。事務の流れといたしましては、県が千葉県被用者保険等保険者協議会にそのことを諮り、その結果を受けまして、県が旭市へ推薦してきた方を市長が任命するというものでございます。

ちなみに、近隣市町の状況を見ますと、委員には、社会保険事務所の所長あるいは地元企業の重役が推薦されているようでございます。

以上でございます。

○委員長（林 一雄） ほかにございますでしょうか。

（「なし」の声あり）

○委員長（林 一雄） 特にないようですので、議案第27号の質疑を終わります。

続いて、議案第29号について、庶務課より補足して説明がありましたらお願いいたします。
庶務課長。

○庶務課長（在田 豊） 議案第29号についてご説明を申し上げます。

今般、旭市立海上中学校が完成したことに伴いまして、現在の後草2295番地から高生77番地に位置の変更をするものでございます。

以上です。

○委員長（林 一雄） 庶務課の説明は終わりました。

議案第29号について、質疑がありましたらお願いいたします。

（「なし」の声あり）

○委員長（林 一雄） 特にないようですので、議案第29号の質疑を終わります。

続いて、議案第30号について、生涯学習課より補足して説明がありましたらお願いいたします。

生涯学習課長。

○生涯学習課長（花香寛源） それでは、議案第30号、旭市社会体育施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について、補足説明を申し上げます。

今回の改正は、海上中学校の新校舎建設に伴いまして、旧校舎とあわせ、施設の老朽化により取り壊いたします海上尚武館の廃止と地域住民のスポーツ活動の施設として残します旧海上中学校体育館を社会体育施設とするため所要の改正を行うものであります。別表中の海上尚武館を削り、海上体育館を加えるものです。

また、学校施設から社会体育施設となる海上体育館の使用料を附則で新たに設定するものであり、研修室については、旧海上中特別教室を使用した場合の使用料でございます。

以上であります。よろしくお願いいたします。

○委員長（林 一雄） 生涯学習課の説明は終わりました。

議案第30号について、質疑がありましたらお願いいたします。

（「なし」の声あり）

○委員長（林 一雄） 特にないようですので、議案第30号の質疑を終わります。

続いて、議案第36号について、生涯学習課より補足して説明がありましたらお願いいたします。

生涯学習課長。

○生涯学習課長（花香寛源） 議案第36号、専決処分の承認について、これにつきましては、平成18年度旭市一般会計補正予算（第5号）であります。

事項別明細8ページをお開き願いたいと思います。

説明欄1、大原幽学遺跡史跡公園管理費、15、工事請負費、旧林家住宅保存整備工事150万円であります。この事業の内容につきましては、旧林家住宅のかやぶき屋根の雨漏りと雨戸などの建具の修理工事でございます。旧林家住宅は、ご承知のとおり、千葉県指定の文化財であります。千葉県文化財課の現地調査を行いまして、雨漏り等に対し、早急な保護対策を要請されたところであります。

事業に対する県補助金については、事項別明細の7ページ、教育費補助金の1、文化財保存整備事業補助金74万9,000円、補助率2分の1でございますが、平成18年度予算にて緊急に採択されたものであります。雨漏りは、建物の保護、保存に大きな悪影響を与えるため、早急に修理を行う必要があったこと。工事の緊急性、工期の確保の面から専決処分で補正予算を行ったものであります。

よろしく願いいたします。

○委員長（林 一雄） 生涯学習課の説明は終わりました。

議案第36号について、質疑がありましたらお願いいたします。

（「なし」の声あり）

○委員長（林 一雄） 特にないようですので、議案第36号の質疑を終わります。

以上で付託議案についての質疑は終わりました。

議案の採決

○委員長（林 一雄） これより討論を省略し、議案の採決を行います。

議案第1号、平成19年度旭市一般会計予算の議決についてのうち本委員会所管事項について、賛成の方の起立を求めます。

（賛成者起立）

○委員長（林 一雄） 全員賛成。

よって、議案第1号は原案のとおり可決されました。

議案第2号、平成19年度旭市国民健康保険事業特別会計予算の議決について、賛成の方の起立を求めます。

(賛成者起立)

○委員長(林 一雄) 全員賛成。

よって、議案第2号は原案のとおり可決されました。

議案第3号、平成19年度旭市老人保健特別会計予算の議決について、賛成の方の起立を求めます。

(賛成者起立)

○委員長(林 一雄) 全員賛成。

よって、議案第3号は原案のとおり可決されました。

議案第4号、平成19年度旭市介護保険事業特別会計予算の議決について、賛成の方の起立を求めます。

(賛成者起立)

○委員長(林 一雄) 全員賛成。

よって、議案第4号は原案のとおり可決されました。

議案第10号、平成18年度旭市一般会計補正予算の議決についてのうち本委員会所管事項について、賛成の方の起立を求めます。

(賛成者起立)

○委員長(林 一雄) 全員賛成。

よって、議案第10号は原案のとおり可決されました。

議案第11号、平成18年度旭市国民健康保険事業特別会計補正予算の議決について、賛成の方の起立を求めます。

(賛成者起立)

○委員長(林 一雄) 全員賛成。

よって、議案第11号は原案のとおり可決されました。

議案第12号、平成18年度旭市老人保健特別会計補正予算の議決について、賛成の方の起立を求めます。

(賛成者起立)

○委員長(林 一雄) 全員賛成。

よって、議案第12号は原案のとおり可決されました。

議案第20号、旭市非常勤の職員の報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について、賛成の方の起立を求めます。

(賛成者起立)

○委員長(林 一雄) 全員賛成。

よって、議案第20号は原案のとおり可決されました。

議案第24号、旭市立保育所条例の一部を改正する条例の制定について、賛成の方の起立を求めます。

(賛成者起立)

○委員長(林 一雄) 全員賛成。

よって、議案第24号は原案のとおり可決されました。

議案第25号、旭市児童遊園設置条例の一部を改正する条例の制定について、賛成の方の起立を求めます。

(賛成者起立)

○委員長(林 一雄) 全員賛成。

よって、議案第25号は原案のとおり可決されました。

議案第26号、旭市重度心身障害者医療費助成条例の一部を改正する条例の制定について、賛成の方の起立を求めます。

(賛成者起立)

○委員長(林 一雄) 全員賛成。

よって、議案第26号は原案のとおり可決されました。

議案第27号、旭市国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定について、賛成の方の起立を求めます。

(賛成者起立)

○委員長(林 一雄) 全員賛成。

よって、議案第27号は原案のとおり可決されました。

議案第29号、旭市立中学校設置条例の一部を改正する条例の制定について、賛成の方の起立を求めます。

(賛成者起立)

○委員長(林 一雄) 全員賛成。

よって、議案第29号は原案のとおり可決されました。

議案第30号、旭市社会体育施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について、賛成の方の起立を求めます。

(賛成者起立)

○委員長(林 一雄) 全員賛成。

よって、議案第30号は原案のとおり可決されました。

議案第36号、専決処分の承認について、賛成の方の起立を求めます。

(賛成者起立)

○委員長(林 一雄) 全員賛成。

よって、議案第36号は承認することに決しました。

以上で、本委員会に付託されました議案の審査は終了いたしました。

なお、委員長報告につきましては、委員長に一任願いたいと思いますが、これにご異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

○委員長(林 一雄) ご異議ないようでございますので、委員長報告は委員長一任とさせていただきます。

所管事項の報告

○委員長(林 一雄) 次に、所管事項の報告に入ります。

報告がある所管は随時報告をしてください。

保険年金課長。

○保険年金課長(増田富雄) それでは、保険年金課より平成19年度の滝郷診療所診療時間の変更についてご報告申し上げます。

お配りの診療時間の変更、変更前の表をご覧ください。

それでは、ご説明申し上げます。

現在、月曜日から金曜日まで週5日間のうち水曜日の午後を休診として、イソムラククリニックのイソムラクニコ先生に午前、午後あわせて4日分を、中央病院のインゲ先生に木曜日の午後半日をお願いして運営しているところでございます。

しかし、昨年9月半ばごろ、イソムラ先生から個人的な都合により平成19年4月からにつきましては週2日間の勤務が限度になってしまうとの相談がありました。それを受けまして、直ちに中央病院に医師の派遣を強力に要請を行ってきたところでございますが、2月28日に正式に回答がありまして、ここの変更後の診療時間となったものでございます。

平成19年度につきましては、ご覧のような診療時間をもちまして運営してまいり所存でございますが、引き続き医師の確保に十分努めていきたいと考えております。

委員におかれましては、ご理解賜りますようよろしくお願い申し上げます。

○委員長（林 一雄） ほかに。

社会福祉課主幹。

○社会福祉課主幹（加瀬恭史） 社会福祉課から旭市地域福祉計画を策定いたしましたので、ダイジェスト版でご説明したいと思います。

お配りしましたダイジェスト版をお願いいたします。薄い方です。

中央に旭市地域福祉計画と書いてあるものでございますが、本編は、計画書が50ページほどございますので、ダイジェスト版でご説明いたします。

本計画は、基本理念としまして、総合計画にうたわれております「健やかでやすらぎのあるまちづくり」ということで表紙に掲げてございます。その下に、地域における支え合いの仕組みということで図がかいてございますけれども、さまざまな機関、個人、ボランティア等によりまして支え合いをしていこうということでございます。

開きますと、中にそれぞれの背景とかが書いてございますが、一番最後に体系図がございますので、体系図で説明させていただきます。一番裏のページでございます。

まず、基本理念、今言いました「健やかでやすらぎのあるまちづくり」と。このほかに四つの基本目標を掲げまして、それぞれに施策の方向性というものを掲げて、施策の内容というような形で体系づけております。

50ページのものでございますが、今年度中に皆さんのお手元に本編がお配りできるものと思いますので、よろしくお願いしたいと思います。

続きまして、もう1枚のダイジェスト版ですが、旭市障害者計画、障害福祉計画のダイジェスト版をお願いいたします。

これにつきましても、計画書は70ページほどございます。ですので、このダイジェスト版を作成いたしましたので、ダイジェスト版でご説明したいと思います。

初めに、1枚開きますと、計画の趣旨、計画の位置づけ等が書かれてございます。総合計画から、先ほどの旭市地域福祉計画等から経まして、障害者計画、障害者福祉計画というふうにつくられたものでございます。

計画の期間は、障害者計画が平成19年度から平成23年度まで、障害者福祉計画、これはサービス料等の通常盛り込むものですが、これは平成18年度からもう既に始まっておりまして、

平成20年度までの3か年でございます。

次に、1枚めくっていただきまして4ページです。右側、これも障害者自立支援法に基づいておりますので、中央から先ほど予算のときにご説明いたしました自立支援給付についての実際の人数、そういったものの数字等を盛り込んで、4ページの下段から数字を入れてございます。それが、次のページ、5ページの上段までございます。

その下に、地域生活支援事業、これが二つに分かれた事業でございますけれども、この事業について、5ページの中段から数字を入れてございます。

予算のところでも説明しましたがけれども、それぞれの事業がのってくるという形のものでございます。

こういったことで、障害者の方の福祉のもととなります計画を策定いたしました。本編は70ページほどございますが、これも今年度中に作成できますので、皆さんのお手元に届けられると思いますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

簡単でございますが、以上で説明を終わります。

○委員長（林 一雄） ほかに報告事項はございませぬか。

環境課長。

○環境課長（小長谷 博） 環境課の方から報告させていただきます。

資料はございませぬけれども、現在、環境基本計画を策定中でございまして、その後、環境審議会で最終審議をいただきまして、原案ができる予定でございませぬ。

でき上がりましたら、議員の皆様にもご配布させていただきたいと思ひますので、よろしくお願ひ申し上げます。

以上でございませぬ。

○委員長（林 一雄） ほかにございませぬでしょうか。

（発言する人なし）

○委員長（林 一雄） ありがとうございます。

所管事項の報告でございませぬが、何かお聞きたい点がございませぬたらお願ひいたします。
木内委員。

○委員（木内欽市） それでは、学校教育課長にお尋ねします。

海上中の屋根から、遊んでいて落ちてしまった生徒は、その後、どうなんでしょうか。先日卒業式に、そういうような名前があったので無事卒業したのかなと思ひていますが、どうなんでしょうか。その経過をお知らせください。

○委員長（林 一雄） 学校教育課長。

○学校教育課長（多田清司） 彼につきましては、無事卒業いたしましたけれども、進路につきましては、八日市場養護学校の方に進学したそうです。

○委員長（林 一雄） 木内委員。

○委員（木内欽市） そうすると、先日の卒業生名簿に載っていたんですか。

（「はい」の声あり）

○委員（木内欽市） あと、海上の健康増進センターの温水プールの方の利用者は、その後、どうなんでしょうか。最近行っていないので、分かったら報告をお願いします。

○委員長（林 一雄） 健康管理課長。

○健康管理課長（浪川敏夫） 増進センターの利用につきましては、おかげさまで平成17年度と比較しまして、約35%程度の増となっておりますので、昨年プールの不手際もございましたけれども、順調に伸びているところでございます。

以上でございます。

○委員長（林 一雄） 木内委員。

○委員（木内欽市） このプールが最近テレビで見ましたら、非常にいいそうです。というのは、利用した方が家にいたらひざが痛くなって歩けなかったそうなんです。プールだと抵抗がなくて歩けるようになって、このプールがなければ寝たきりになるところだったと、こうしみじみおっしゃっておられました。いろいろこれから介護老人等が増えますので、ぜひアピールもしていただいて、本当に県下で鳴り物入りで始まった施設でございますので、ぜひ大勢の皆さんに利用していただいて、寝たきり防止等を防いでいただければと思います。

それとあわせて、関連なんですけど、これはだれかお答えいただければですが、実際に今、老人ホームに入りたいと思っても、本当に入れないみたいです。私、親戚の人に頼まれて行ったら、100人、150人待ちだというんですが、これからどんどんそういうのはふえてくるでしょうし、家族で見るにも限度があるので、何かいい対応等がありましたら教えてもらいたいと思います。

○委員長（林 一雄） 高齢者福祉課長。

○高齢者福祉課長（横山秀喜） 平成18年度に地域密着型の特別養護老人ホーム、これはもうすぐ完成ですが、先ほど申し上げましたように、東風荘が地域密着型ですので、市民のみの利用ということで16人床、平成19年度には、これはやすらぎ園、補助金のお話をさせていただきましたが29人床、これも地域密着型ですので市民対象ということになります。

現実的に100名を超える待機者ということでありましてけれども、どこの施設でもそうですけれども、利用者は順番待ちをするために重複してA施設、B施設、C施設にみんな申し込んでおりますので、数はかなり多くなっておりますけれども、重度の介護度4ですとか5の申し込み者というのは、3けたというよりも、2けたまで行っていないような待機者の状況ですので、地域密着型で施設が整備されると、だいぶ重度の人等は利用の方が進むのではないかというふうに思っています。

以上です。

○委員長（林 一雄） 木内委員。

○委員（木内欽市） これは、だいたいいつごろから利用できるようになるのでしょうか。

○委員長（林 一雄） 高齢者福祉課長。

○高齢者福祉課長（横山秀喜） 東風荘の方が工期延長が約1か月ぐらいというふうになっております。それから検査等々を行って、県からの事業認可も必要になりますので、今のところの打ち合わせの段階ですが、7月ぐらいから入居開始が可能かなというようなことです。

やすらぎ園につきましては、その1年後の事業ですので、やはり、もう1年後の同時期、もしくは、規模が少し大きいですので、もう少しかかるかなというような状況です。

○委員長（林 一雄） ほかにございますでしょうか。

林委員。

○委員（林 正一郎） 私も耳にしているんですが、今、木内委員がだいぶべたほめでしたが、私もそれは同感でございますが、その中で、管理の問題で、海上のプールで運動すると、合わない。水に薬を使うのか。それで、顔がかさついてしまう。そういった人がだいぶいるんです。その点、どんなふうに管理されてやっているのかと私はちょっと疑問に思ったので、聞いてくれないかなということだったので、なかなか海上の役所が遠くて行けなくて申し訳ありませんが、ここでいい機会でございますので、お答えしていただければありがたい。

以上です。

○委員長（林 一雄） 健康管理課長。

○健康管理課長（浪川敏夫） お答えを申し上げます。

プールにつきましては、塩素による滅菌を行っておりますので、そういったお話を初めてお聞かせいただきましたので、今後、調査をさせていただきたいと思います。

よろしく申し上げます。

○委員長（林 一雄） ほかに。

伊藤委員。

○委員（伊藤 保） ……（録音漏れ） ……対策を、看板が1か所ぐらいしかないので、もう少し目立つようにしてもらいたいと思います。

これは要望ですけれども、昨年の秋に、玄関で大とり者があったということでございますので、見学に来た方がかまれたりすると危ないので、ぜひお願いしたいと思います。

○委員長（林 一雄） 要望ですからいいですね。

ほかにごございますでしょうか。

（「なし」の声あり）

○委員長（林 一雄） 特にないようですので、所管事項の報告を終わります。

○委員長（林 一雄） 以上をもちまして、審査は全部終了いたしました。

これにて本委員会を閉会いたします。

大変ご苦労さまでございました。

閉会 午後 1時45分

旭市議会委員会条例第30条第1項の規定により署名する。

旭市議会文教福祉常任委員会委員長 林 一 雄

総務常任委員会

平成19年3月16日（金曜日）

付議事件

《付託議案》

- 議案第 1 号 平成19年度旭市一般会計予算の議決についてのうち本委員会所管事項
- 議案第10号 平成18年度旭市一般会計補正予算の議決についてのうち本委員会所管事項
- 議案第16号 旭市監査委員事務局設置条例の制定について
- 議案第17号 旭市副市長定数条例の制定について
- 議案第18号 地方自治法の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整備に関する条例の制定について
- 議案第19号 旭市職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第21号 旭市特別職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第22号 旭市教育委員会教育長の給与等に関する条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第23号 旭市一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第32号 千葉県市町村総合事務組合を組織する地方公共団体の数の増減及び千葉県市町村総合事務組合同規約の一部を改正する規約の制定に関する協議について

出席委員（6名）

委員長	平野 浩	副委員長	伊藤 房代
委員	高木 武雄	委員	林 俊介
委員	日下 昭治	委員	島田 和雄

欠席委員（なし）

委員外出席者（2名）

議長 嶋田茂樹

議員 神子功

説明のため出席した者（36名）

助 役 重田雅行

総務課長 増田雅男

秘書広報課長 野口徳和

企画課長 加瀬正彦

財政課長 高埜英俊

税務課長 江ヶ崎純敏

市民課長 林久男

海上支所長 木内孫兵衛

飯岡支所長 佐久間俊雄

干潟支所長 木内國利

会計課長 宮本英一

消防長 佐藤眞一

監査委員
事務局長
その他担当員
23名

事務局職員出席者

事務局長 来栖昭一

事務局次長 石毛健一

主 査 穴澤昭和

開会 午前10時 0分

○委員長（平野 浩） 皆さん、おはようございます。

大変お忙しい中、ご苦労さまでございます。

総務常任委員会ということでご出席をいただきまして、ありがとうございます。委員長をお引き受けいたしました平野浩でございます。職責の重さを痛感し、この責めを全うできるよう務めるつもりでございますので、委員の皆さん、執行部の皆さん方にはどうかよろしくお願いいたします。

ここで委員会を開会する前にあらかじめご了承願います。この後、議会だより取材のため、職員が委員会室内の写真撮影を行いますので、ご了承願います。

ただいまの出席議員は6名、委員会は成立いたしました。

神子功議員より、本委員会を傍聴したい旨の申し出があり、これを許可いたしましたので、ご了解のほどをお願いいたします。

それでは、総務常任委員会を開会いたします。

本日、嶋田議長にご出席をいただいておりますので、ごあいさつをお願いいたします。

よろしく申し上げます。

○議長（嶋田茂樹） おはようございます。

委員の皆さん、大変ご苦労さまでございます。本日は、付託されました一般会計予算を含む10議案について審査をしていただくことになっております。どうぞよろしくご審議のほどをお願いいたしまして、簡単ではございますけれども、あいさつにかえる次第であります。

ご苦労さまでございます。

○委員長（平野 浩） ありがとうございます。

議案説明のため、助役、担当課長及び職員の出席を求めました。

それでは、執行部を代表して重田助役より、ごあいさつをお願いいたします。

申し上げます。

○助役（重田雅行） おはようございます。

本日は、議長さん初め委員の皆様には、大変お忙しい中を総務常任委員会ということでご苦労さまでございます。

本日の委員会に執行部の方から審議をお願いします議案は、一般会計の当初予算、補正予

算の予算関係が2議案、それから条例の新規制定でございますけれども、3件でございますが、これはいずれも自治法の改正に伴うものでございます。あとは条例の一部改正議案、勤務時間、休暇等の条例、それから特別職、教育長等の給与条例、そして一般職の職員の給与条例の一部改正が4議案、そして市町村総合事務組合に関する協議について同意いただくものにつきまして1議案、合わせて10議案となっております。どうぞよろしくご審議くださいますようお願い申し上げます、あいさつとさせていただきます。

よろしくお願いたします。

○委員長（平野 浩） ありがとうございます。

議案の説明、質疑

○委員長（平野 浩） ただいまから本委員会に付託されました議案の審査を行います。

去る3月2日の本会議におきまして、本委員会に付託されました議案は、議案第1号、平成19年度旭市一般会計予算の議決についてのうち本委員会所管事項について、議案第10号、平成18年度旭市一般会計補正予算の議決についてのうち本委員会所管事項について、議案第16号、旭市監査委員事務局設置条例の制定について、議案第17号、旭市副市長定数条例の制定について、議案第18号、地方自治法の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整備に関する条例の制定について、議案第19号、旭市職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条例の制定について、議案第21号、旭市特別職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定について、議案第22号、旭市教育委員会教育長の給与等に関する条例の一部を改正する条例の制定について、議案第23号、旭市一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定について、議案第32号、千葉県市町村総合事務組合を組織する地方公共団体の数の増減及び千葉県市町村総合事務組合同規約の一部を改正する規約の制定に関する協議についての10議案であります。

これより付託議案の審査を行います。

初めに、議案第1号中の所管事項について、担当課より補足して説明がありましたら、お願いいたします。

総務課長。

○総務課長（増田雅男） それでは、議案第1号、総務課の所管について補足説明を申し上げ

ます。

なお、主要事業でございますが、2月1日に開催しました全員協議会の方でご説明申し上げておりますので、省略させていただきたいと思っております。なお、そのときに説明しました防災対策事業は予算書で言いますと224ページ、それからもう1点の防災基盤整備事業は226ページ、説明欄の4にそれぞれ計上してありますので、後でござんいただきたいと思っております。

それでは、予算書の300ページをお願いいたします。給与費明細書の一般会計分でございます。

まず、上段の(1)の総括の職員数、本年度765人は平成19年1月1日現在の各課に配置している職員数をベースに退職者及び採用者等を考慮し、4月1日の各課の配置予定者数を計上したものでございます。

続いて、その下の職員手当等の内訳でございますが、対象職員数は本年1月の対象職員数で申し上げます。

まず、扶養手当です。対象者は369人。内容でございますが、配偶者は月額1万3,000円、扶養は1人6,000円。ただし、16歳から22歳、高校1年生から大学4年の扶養は1人、月額1万1,000円で計上してあります。

次に、住居手当です。対象者は288人。内容でございますが、いわゆる持ち家の場合は月額4,300円、借家の場合は家賃に応じて支給しておりますが、限度額が2万7,000円となっております。

次に、通勤手当です。対象者は639人。内容でございますが、自動車利用の場合は片道2キロ以上で月額2,000円から片道70キロ以上の月額3万7,630円までの2キロ刻みの35種類。それから、電車、バス等公共交通機関利用の場合は運賃相当額。なお、昨年度と比較して増となっておりますのは、人事異動等による勤務地の変更等実態増のためでございます。なお、徒歩で通勤の者は支給しておりません。

次に、特殊勤務手当です。対象者は136人。内容ですが、これは現在支給しておりますのは、一般職の場合は行旅病人取扱手当等の2種類、それと消防の場合は火災出動手当等の4種類、金額は1回200円から3,000円となっております。

次に、時間外勤務手当です。対象者は580人。内容ですが、平日の午後10時までは1時間当たりの時間単価に100分の125を乗じて得た額、また、午後10時から翌朝の午前5時までは1時間当たりの時間単価に100分の150を乗じて得た額です。また、週休日の午後10時までは時間単価に100分の135を乗じた額、午後10時から翌朝の午前5時までは時間単価に100分の

160を乗じた額でございます。なお、前年度と比較して大幅な減になっておりますのは、その3つ先にあります、下の段になります。休日勤務手当と関連しますが、消防職の場合、昨年までは休日に勤務した場合、時間外手当で処理しておりました。これを本年度から正規の支出項目であります休日勤務手当に計上変更したため、時間外は減、休日勤務手当は増となったもの、また、通常的时间外そのものが減となったものでございます。なお、時間外と休日の支給率は同じでございます。

次に、宿日直手当でございます。対象者は408人でございます。これは休日に日直業務をした者に支給されるもので、1回4,200円でございます。今回増になっておりますのは、新年度より働く婦人の家の日直業務を開始することにしたためでございます。

次に、管理職手当でございます。管理職手当は、管理職特殊勤務手当です。これは管理職員が臨時または緊急のため週休日等に勤務した場合に6,000円から1万円の範囲で支給しているものでございます。これはほとんど代休等で処理しておりますので、支給の方はそんなにございません。

次の休日勤務手当は、先ほど時間外のところで説明したとおりでございます。

管理職手当でございます。今回、条例改正を提案しておりますが、今まではそれぞれ管理職は7%から13%の率で支給しておりましたのが、今度は一応定額になりますので減となっております。

それから、期末勤勉手当でございますが、これは6月の場合は1.4、12月が1.6、合計3か月、対象職員は765人です。

それから、勤勉手当も同じ人数でございますが、率の方は、6月が0.725月、12月も同じでございます。年間1.45月でございます。

次に、児童手当でございます。児童手当は小学校修了前までの児童を養育している職員に支給されるもので、第1子、第2子は月額5,000円、第3子以降は月額1万円でございます。なお、ふえておりますのは実態増によるものでございます。

夜間勤務手当は、午後10時から翌日の午前5時の間に勤務する職員に支給されるもので、1時間当たりの時間単価に100分の25を乗じて得た額を支給しているものでございます。

なお、予算書の給与関係の内訳でございますが、予算書の方は44ページの説明欄2の議会関係職員給与費から279ページの説明欄1の給食センター関係職員給与費までに記載をしてございます。

以上で補足説明を終わらせていただきます。

○委員長（平野 浩） ほかに。

秘書広報課長。

○秘書広報課長（野口徳和） それでは、秘書広報課の所管の予算につきまして、主な内容をご説明いたします。

予算書の33ページをお開きください。

歳入の県支出金のうち総務費委託金であります。右側の説明欄の中で3番の人権啓発活動費委託金の予算額130万円は新規で、平成19年度に国から県を通じて委託される人権啓発事業に係るものであります。事業内容につきましては、歳出のところでご説明いたします。

次は歳出になります。59ページをお開きください。

3目文書広報費の説明欄の2番、広報活動費は予算額が2,384万3,000円でありまして、内容につきましては広報紙の発行や市勢要覧の作成、広報活動のための事務費であります。主なものといたしましては、11節需用費の印刷製本費に広報あさひ2万3,000部の印刷代などとして1,164万4,000円を、12節役務費の手数料に広報あさひの新聞折り込み代として698万8,000円を計上しております。また、13節委託料の予算額431万4,000円は市勢要覧の作成でありまして、平成20年度までの2か年事業として進めるものであります。

次に、1枚めくっていただきまして60ページになりますが、説明欄の3番、広聴活動費の予算額は136万円でありまして、これは弁護士による法律相談、海上支所、本庁舎で各1回、月2回実施しております。また、行政相談、人権相談につきましては本庁と3か所の支所、各1回、月4回の開催に係る経費が主なものであります。

その次の4番、まちづくりサポーター事業の予算額は66万円でありまして、これにつきましてはインターネットなどを活用した広聴活動の経費であります。具体的には一般公募で募集したまちづくりサポーターからeメールやファックスを利用して市政に対する意見を聞くものであります。予算の内容につきましては、サポーターに対する謝礼金が主なものであります。

次の5番、人権啓発活動事業の150万円は新規事業でありまして、先ほど歳入のところでも触れましたが、国から委託を受けて行うものであります。この事業自体は、平成15年度から実施されておりますが、旭市を含む北総地域では匝瑳、香取、印旛の3地域が輪番で実施しております。平成19年度は匝瑳地域が当番で、旭市で実施することが決まっております。事業内容は2つございまして、1つは地域人権啓発活動活性化事業として、人権啓発のための講演会の開催及び中学生による人権作文の発表を行うのが主な内容です。もう1つは、人

権の花運動としてシャクヤクの株を匝瑳地域の小学校10校に植栽するものでありまして、市内では2校を予定しております。

以上で所管の予算についての説明を終わります。よろしく申し上げます。

○委員長（平野 浩） ありがとうございます。

企画課長。

○企画課長（加瀬正彦） 主要事業につきましては、過日の全員協議会でご説明済みでございますので、それ以外のものにつきまして企画課の所管の予算につきましてご説明申し上げます。

それでは、66ページをお願いいたします。

8目の電子計算費でございます。この本年度予算額1億4,545万8,000円に對しまして、前年度2億6,809万6,000円ということで、1億2,263万8,000円の減額となっております。この減額の主な要因でございますけれども、18年度の予算につきましては統合型地理情報システムが1億4,810万円予算措置されていた。これが1つ大きなもの。それからもう1点、電算の統合に伴います旧市町の電算システムの並行稼働を行ってまいりました。これが4,525万8,000円ということで、この2つが非常に大きな額で、今回予算から抜けましたので、この減額になっているものでございます。

それから、若干差し引きますと当初予算での増加が出るんですけども、67ページの説明欄の一番上、13節の委託料の中の電算業務委託料でございます。18年度予算につきましては、システム改修につきましては当初見込んでいなかったんですけども、19年度予算につきましては見込まれるシステム改修費を計上してございます。主なものでございますけれども、後期高齢者の情報提供のシステム改修が2,000万円。これは平成20年度から導入されます後期高齢者医療保険制度に伴いまして設置される広域連合とのシステム連携のためでございます。それと、そのほかの法改正の対応分ということで1,800万円盛り込んでございます。それからもう1点、庶務事務システムも含まれて、今回、4,270万円という数字を計上させていただいております。

それから、同じページの3、電子自治体推進事業のうち、やはり13節の委託料でございます。セキュリティの強化対策については全職員に徹底したいということで、情報技術を用いて行いますセキュリティ研修の基本的なシステムをつくり上げて、自分の都合に合わせた形で受講できるようなセキュリティポリシーの運用支援をつくり上げたいと考えております。今回、電算システムの運用につきましてセキュリティ対策といたしまして、セキュリティの

強化型のUSBメモリー、備品購入としてUSBメモリー等接続制限ソフト、これらを入れていく予定となっております。

以上でございます。

○委員長（平野 浩） どうもありがとうございました。

ほかに。

（発言する人なし）

○委員長（平野 浩） ほかにないようですので、担当課の説明は終わりました。

議案第1号中の所管事項について、質疑がありましたら、お願いいたします。

伊藤房代委員。

○委員（伊藤房代） 歳入のところで1点だけ質問させていただきます。

33ページ、14款8目県総合補助金1,050万円のところなんですけれども、説明欄1のところの元気な市町村づくり総合補助金一般分と2の元気な市町村づくり総合補助金合併分についての内容をもう一度教えていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○委員長（平野 浩） 伊藤委員の質疑に対し、答弁を求めます。

財政課長。

○財政課長（高埜英俊） それでは、お答えいたします。

元気な市町村づくり総合補助金でございますが、これは県が地域の特色に応じて自主的、創造的に実施される単独事業に対して補助をするものでございます。前は県でいろんな補助金がございます、それを県は廃止したくて、統合して、ある程度自由に使っていいよということで、こういうような形で今年度から来るものでございます。その使う先でございますけれども、予算で掲げてございますのは民生費の児童福祉施設費で、中央児童遊園のSLの改修事業を行います。これは予算書の110ページにございますが、これに1つ充当するというように考えております。それから、もう1点なんです、消防費の常備消防費、これは予算書の219ページで備品購入費なんです、自動体外式除細動器（AED）の購入に充てたいということで考えております。

それから、合併分でございますが、これは予算書で言いますと198ページになりますが、交通安全施設の維持補修事業の中に充てたいと思っております。その中身は、旭駅周辺の安心歩行エリアの交通安全施設整備の整備とパンフレットの作成ということで、印刷製本費と工事費の方に充てたいというふうに考えております。

以上です。

○委員長（平野 浩） 伊藤委員。

○委員（伊藤房代） そうしますと、1番目の元気な市町村づくり総合補助金一般分の中で自動体外式除細動器についてですけれども、何台ぐらい設置の予定か、また、場所はどこへ配置されるのか、わかりましたら、教えていただきたいと思います。

○委員長（平野 浩） 消防長。

○消防長（佐藤眞一） 平成19年度のAEDの配置予定は14基であります。配置場所につきましては、市役所、各支所、各地区の保健センターが4か所、市民館・公民館4か所、飯岡荘、それとあと消防署の方に現在1台あるんですが、もう1台配置するというので合計14台です。

以上です。

○委員長（平野 浩） 伊藤委員。

○委員（伊藤房代） あともう1点、1台当たりの単価はどのぐらいなんですか。

○委員長（平野 浩） 消防長。

○消防長（佐藤眞一） このAEDの場合に値段はいろいろあるんですが、19年度購入の予定は1基55万円です。

以上です。

○委員長（平野 浩） ほかに質疑はありませんか。

島田和雄委員。

○委員（島田和雄） 何点か質問させていただきます。

最初に、59ページなんですけれども、説明欄2番の広報活動費ですけれども、この中の11の需用費、印刷製本費が昨年と比較しますとかなり減額されているわけなんですけれども、市の広報の印刷代ということだろうと思いますけれども、発行回数が減るのか、ページ数が減るのか、その辺お伺いをします。

それと60ページ、広聴活動費、ただいま説明していただきましたけれども、本年度、相談者数はどのくらいあるか、わかればお伺いをしたいと思います。

それと61ページの説明欄6番の情報公開費ですけれども、情報公開を請求されて迷った場合にこういった委員会に諮問をするというようなことをお聞きしましたけれども、昨年度、こういったことについての会議が開かれたのかどうかをお聞きしたいと思います。

続きまして70ページ、説明欄5番のコミュニティバス等の運行事業でありますけれども、これは企画課の主要事業の概要に示されているわけでありまして、ルートの再編ある

いはダイヤの見直し、また、料金体系の見直し等について検討する、また、交通空白区域等の格差是正についても検討するといったような事業内容になっておりますけれども、本年度は検討するということだけのことなのでしょうか、その辺をお伺いします。

続きまして72ページですけれども、説明欄2番の市バスの運営事業です。昨年と比較しますと燃料費、運転業務委託料が減っているわけですけれども、通行料、駐車料はふえているということなんですけれども、矛盾をしないのかどうか、その辺をお伺いします。

最後に75ページ、説明欄1の調査賦課事務費の中の13委託料、不動産鑑定委託料が昨年と比較しまして大分ふえております。この理由と、固定資産（土地）評価基準調査委託料につきましては、昨年度はない事業でしたけれども、どういうものか、ご説明をお願いします。

以上、よろしく申し上げます。

○委員長（平野 浩） 島田委員の質疑に対し、答弁を求めます。

秘書広報課長。

○秘書広報課長（野口徳和） 59ページの広報の印刷製本費の前年より減った理由ということでございますけれども、19年度については18年度よりページ数が減ったり発行回数が減ったりということではなくて、18年度の予算を見積もるときに合併2年目ということで特集記事とかを想定して予算を組んだ。そのときの18年度当初予算では372ページ分を組んだ。19年度当初予算では316ページで、18年度の実績見込みのページ数が300ページほどを予定しております。それともう1つ金額が下がったのは、契約単価が下がった。これが例えば16ページの2色刷りのやつで約2割、契約単価が下がった。そういうことでございます。

それと、法律相談の件数は、実績が出ております17年度でお答えしますけれども、101件と。この内容につきましては、相続とか家族関係、お金の貸し借り関係が主なものです。それから、人権相談でございますけれども、これも17年度で件数的には7件と少ない状況になっております。

以上です。

○委員長（平野 浩） 企画課長。

○企画課長（加瀬正彦） それでは、70ページのコミュニティバス等の運行事業の関係のご質問でございました。本年度、検討だけなのかということでもございましたけれども、当然18年度に運行しているダイヤは、19年度そのまま運行させていただくということで考えております。それで、19年度におきまして抜本的なルートの見直しを図りたい。そのための検討会議を重ねていきたいと考えております。

特に、干潟ルートの関係でございますけれども、19年度中に香取市との共同運行が廃止される見込みとなりました。ですので、従来は途中下車等できなかったわけなんですけれども、それらができるようなコミュニティバス本来の姿に近い形で再編ができるのだろうなというふうに考えております。これは20年4月から運行できるように検討委員会議を開催いたしまして、ご意見をいただきながらルートの方を設定していきたいと考えております。

○委員長（平野 浩） 総務課長。

○総務課長（増田雅男） それでは、最初に61ページの情報公開費の関係でございますが、昨年は開示状況の報告のみの1回だけの開催です。それ以外は開催しておりません。ですから、予算計上したのは、先ほど議員がおっしゃったように、もし何かあったときのための委員の手当だけを計上したものです。

それと72ページの市バスの関係ですが、燃料費と委託料が減になって、通行料が増になっているのはということですが、まず、燃料費の関係でございますが、18年度の予算は17年度、要するに合併前の旧1市3町分の実績で見込んでありました。それが今年度は一応18年度実績がある程度つかめましたので、それで減らしました。

それと委託料につきましては、現在、海上地区のバスにつきましては運転業務を委託しております。その委託している運転手が冠婚葬祭等で急に都合が悪くなったというときには民間のバス会社に運転代行をお願いしてあります。それが減ったためでございます。

あと、通行料につきましては、今、ETCを取りつけてありまして、それは18年に初めて予算計上したんですが、実際のところ、現在足りなくなった状況なんです。それで、その実績に基づいて新年度でふやしたと。そういう状況でございます。

○委員長（平野 浩） 税務課長。

○税務課長（江ヶ崎純敏） 75ページ、説明欄の1 調査賦課事務費の13委託料の中の不動産鑑定委託料の増の理由及び固定資産（土地）評価基礎調査委託料新設の理由でございますが、この2つはいずれも平成21年度の評価がえに向けて、不動産鑑定委託料については増となり、固定資産（土地）評価基礎調査については新設となったものでございますが、不動産鑑定委託料につきましては、18年度は18年度評価がえを行いました後の地価の下落傾向に対応するための時点修正のための不動産鑑定委託料。これは簡易な鑑定でございますので、料金の安い鑑定を49地点だけで行うための予算でございます。19年度予算につきましては、評価がえのためでございますので、市内314地点をすべて正規の鑑定評価を行うために増額となったものでございます。

それから、固定資産（土地）評価基礎調査でございますけれども、この事業も平成21年度評価がえに向けて市内全域の土地の状況を調査いたしまして、用途地区や状況類似地区、標準宅地、路線、価格形成要因等々評価の基礎となる資料の見直しを行って、公平・適切な評価を行うための資料を整備するものでございまして、平成19年度と20年度の債務負担行為で行うものでございます。この調査は3年ごとの評価がえの際に必ず行わなければならない作業でございまして、前回は平成16年度と17年度の債務負担行為で行っております。

以上です。

○委員長（平野 浩） 島田委員。

○委員（島田和雄） コミュニティバスの運行のことですけれども、格差是正を検討するといったようなことが書かれております。これまでのバスの運行については、旧市町で運行していたものを、そのまま中央病院に向けて運行してきたというようなことだろうと思いますので、格差是正ということを念頭にこれから公平な運用をしていただきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

○委員長（平野 浩） 企画課長。

○企画課長（加瀬正彦） 実は、昨日なんですけれども、コミュニティバスの検討委員会、見直しに向けまして第1回の会議を開催したところでございます。17年度、18年度の乗車の実績等を出しまして、さらに17年度から18年度にかけて委員からいただいたご意見も改めてお示ししまして、具体的にどういう形が望ましいのかということで改めてご意見を伺ったところでございます。当然格差の是正は考えていくということで、きのうもそういう話をさせていただいたところでございますので、19年度中にはそういった検討委員会の意見を踏まえて案を作成していきたいと考えております。よろしくお願いたします。

○委員長（平野 浩） ほかに質疑はありませんか。

日下昭治委員。

○委員（日下昭治） まず、歳入について伺いたと思いますが、今年度予算につきましては税源移譲に基づきまして市税が11億円上がって、交付税が逆につかなくなるという傾向になったわけですけれども、当然そういった税源移譲によって地方税が上がれば今の数字を維持できるというような見通しをしているようでございますけれども、交付税だと100%入ってきますけれども、税源移譲された市税だと、ここに見ている中で96.何%なんです、当然それだけの率で掛けても歳入が入ってこない。さらに、そういったものが未納扱いになる。そうしますと、どんどん貧になると考えられるんじゃないかなと思うんですけれども、

将来見通し、維持できるということで入っておりますけれども、その辺について伺いたいと思います。

それと、先日、本会議の説明の中で滞納繰り越しが5,800万円くらい少ないとメモしていたんですけれども、少なくなっているということなんですけれども、調定見込額が昨年度と比較するとかなり多くなっているんじゃないかなと見たんですけれども、今日、昨年度の予算書を持って来なかったのでもわかりませんが、持っていますか。ちょっとすみません。市税の昨年の調定見込額が2億7,100万5,000円、今年度は2億9,000万円になっています。滞納繰り越し分をかなり厳しく処理したということで減っているということなんですけれども、減れば調定見込額も減るのかなと思ったら、逆にふえている。その辺はどうなのかなと。歳入についてももう一度説明をお願いしたいと思います。

それと、歳出で何点か伺いたいと思います。

54ページの一般管理費の説明欄14の使用料及び賃借料についての説明をお願いしたいと思います。どの場所を、どのような形で借りてあるのか。

それと、65ページ、企画費の説明欄、医療福祉・食・交流の郷づくり事業、概要説明で650万円の中でスポーツ交流事業100万円とここに入ってくるんですけれども、医療福祉等のものに対してスポーツ交流事業がどうして入るのかな。それを説明をお願いしたいと思います。

続きまして、69ページ、自治振興事務費の委託料は多分行政連絡事務委託費、これは区長会の関係になるかと思いますが、旧旭市の方式でもって委託費で支払うと。旧町の場合には特別職という形でやってきたものを3年間くらいの中で正規なものに持っていくということでございますけれども、昨年度から比較してかなり減っているかと思いますが。そういうものをもう1年くらいかけるのかと思いますけれども、たまたま区長の中で手当がよくわからない中で委託費で来るというような話がありますが、その辺の今後の考え方、委託する際、その辺を含めてもう一度説明をいただければと思います。

それから、70ページの説明欄4、出会いの場創出事業は結婚相談ということでございますけれども、補助金として150万円全額出ていますので、結婚相談員の組織ができた時点で150万円を全額補助金として支出されるものなのか。それを含めてお願いしたいと思います。

○委員長（平野 浩） 日下委員の質疑に対し、答弁を求めます。

財政課長。

○財政課長（高埜英俊） 私の方から、市税と地方交付税についてお答えいたします。

確かにご指摘のとおり、市税がふえて、地方交付税が、その分というわけでもありませんけれども、減るという状況でございまして、地方交付税は認められた金額は100%入ってまいります。ただ、市税の場合は、おっしゃられたようにどうしても滞納というものが生じてまいるといってございまして。今回の場合には市税と地方交付税でございましてけれども、二・三年前から三位一体の改革ということで補助金が減らされて、地方交付税なりほかの交付金が減らされるというようなことは幾つかやってみてまいりました。特に、私の方で大きいなと思ったのが保育所運営費の補助金なんですけれども、これが旧旭市のときに2億円減らされて、その分精査してみましたら、地方交付税と特例交付金で入ってきているんですけども、それがやはり100%入ってきておりません。ですから、国の方が何かをやるたびに多少減額されるのはもちろん私の方でも当然考えておりますので、これから滞納が多少あったとしても財政運営上は大きな問題ではないだろうというふうに考えております。ただ、そうは言っても、やはり市税は多い方がいいですから、税務課にはしっかり徴収していただきたいというふうに思っております。

以上です。

○委員長（平野 浩） 税務課長。

○税務課長（江ヶ崎純敏） 市税の徴収率につきましては、日下委員からのご指摘を重く受けとめて、これから滞納処分等についてもきちっと行って徴収率を極力上げるよう努力をいたします。

あと、滞納繰り越し分の調定額が本会議で5,000万円ちょっと減っていると私は言いました。ふえているんじゃないかというご指摘ですけども、確かに個人市民税を見ますと滞納繰り越し分は約1,900万円ちょっとふえています。ですが、固定資産税については滞納繰り越し分の調定額が6,900万円減っております。ほかの税目につきましても若干ふえたり減ったりというのがございまして、結果として滞納繰り越し分全体では5,800万円ちょっと調定額が減っているという状況でございまして。

以上です。

○委員長（平野 浩） 総務課長。

○総務課長（増田雅男） それでは最初に、54ページ、庁舎管理費の14節使用料及び賃借料の土地借上料ですが、これは職員駐車場の分でございまして。その下の建物借上料は、庁舎の南側にあります南分館、現在、集いの広場で使っております。この借上料でございまして。

それから、69ページ、行政連絡事務委託料につきましては、18年度に旧1市3町の区長会

の正副会長会議を開きまして、その中で最終的に旧旭市の委託料方式に変えるという協議がなされまして、18、19、20年の3か年で旧旭市の委託料方式にするということで合意がなされて、2年目の分として今回計上したものです。中身は基本額と戸数割。さっき委員がおっしゃったように、もとは手当みたいな形で出したんです。それを今回は委託料方式に変えるということで、2年目ということで計上してあります。

○委員長（平野 浩） 企画課長。

○企画課長（加瀬正彦） それでは、65ページになります。下の説明欄の3、医療福祉・食・交流の郷づくり事業の中でスポーツ交流が入っているのかなということで、なぜかということでございました。これにつきましては医療福祉・食・交流ということで、その交流の分でスポーツもしかけていくというような方針が1つございました。特にスポーツ合宿であるとか、要するに旭市をPRしながら旭市の活性化につながるような事業ということでスポーツ交流も1つあっていいのかなということでございます。特に、合併いたしまして、スポーツ施設につきましては体育館、野球場、テニスコートとさまざまな施設が数多くございます。これらを有効に活用しながら都会との交流を進めていけるのではないかとということでこの事業を盛り込んである、そういうものでございます。

それと70ページの関係でございます。出会いの場創出事業です。これは補助金で150万円ということでございます。予算組みしたときに協議をいたしました。行政が直営で実施するということは、個人のプライベートな問題もありますから非常に難しいところがあるのではないかとということで、できれば協議会組織を設置いたしまして、そこが事業主体になっていただいて必要な事業費を助成する。そういう中で人口減少の歯どめであるとか、未婚化、晩婚化、そういったところに精通した、従来活動していた方に協議会に入らせていただいて、うまく出会いの場をつくっていただければなということで事業化したものでございます。特に、従来、農業関係であるとか水産関係であるとか個別にやっていたものを、できれば横断的にやりたいということでございますので、協議会組織化ということでそこに補助金を流すということで予算化させていただいたものでございます。

以上です。

○委員長（平野 浩） 日下委員。

○委員（日下昭治） 順序が逆になりますけれども、企画課長、出会いの場について、その都度ということのような話をしましたけれども、そうしますと全額150万円を一括やるんじゃないかと……

○委員長（平野 浩） 企画課長。

○企画課長（加瀬正彦） 年間の活動計画を立てまして、その中で事業がこれだけかかりますということで一括で補助金を流す予定でございます。

○委員長（平野 浩） 日下委員。

○委員（日下昭治） 歳入について、話はだまかそれでいいかなと思いますけれども、問題になるのは、先ほど税務課長もおっしゃられたように、税の滞納がますます拍車がかかるのではないかなというのが心配なんです。そういう形の中で税源移譲されたから基本的には同じだということで行くけれども、最終的に収入として徴収できなければ減ることになりますので、その辺を当然考えていることだと思いますけれども、今後の中で税の滞納処分については厳しくやっていかなければならないんじゃないかなと思いますので、ぜひその辺をお願いしたいと思います。

それで、常に気になるのは、決算書を見ましても、金額的には小さいわけですが、軽自動車税の徴収率がすごく悪いんですよ。廃車なり何なりしないでそのままにしてあるから当然そういうことになるんだろうと思いますけれども、そういうものを何年かしたときには自然に消滅することはないのかなと思いますけれども、そういうときにナンバー等を持ってこなければ廃車できないということでそのままになっちゃって、金額も低いからということで市民はやっているのかもわかりませんが、そういう場合には何らかの方法がとれるのかどうか、お願いできればと思います。ぜひ徴収率を上げていただきたい。そうであれば、当然今後の財政状況が厳しくなると思いますので、ぜひその辺をお願いしたいと思います。

○委員長（平野 浩） 答弁求めますか。

○委員（日下昭治） はい。

○委員長（平野 浩） 税務課長。

○税務課長（江ヶ崎純敏） 滞納分について今後ふえるのではないかという不安でございますが、当然だと思います。個人市民税が19年分からは税率が倍になるわけでございますので、どんなに全体では変わらないといっても、払う納税者の側からは渋る、苦しくなるということで徴収率が減るという不安はございます。それに対する対策でございますが、新聞にも載りましたけれども、19年4月から千葉県と市町村が共同で設立する千葉県滞納整理推進機構という組織が発足いたします。これは一部事務組合ではなく、任意組織ということでございますので、県の職員に対して市町村が徴税吏員の辞令を交付して、県の職員が市町村の徴税

職員と共同で滞納整理を行うというものでございますが、従来、旭市におきましても不動産の差し押さえはしても強制公売の手続が行えないために塩漬けになっているというものがございまして。そういう困難な事例につきまして、この滞納整理推進機構の組織を活用して積極的な強制公売を行えるようにしたいと考えております。それによって今後の滞納しようとする方に対しては、滞納すると今までは……（テープ交換）……それによるアナウンス効果というものが期待できると考えております。アナウンス効果だけではなく、実際に公売を行うという実績も上げることができると考えております。これが今後の徴収率を低下させないための1つの大きな要因になると期待しております。

それから、軽自動車の徴収率が悪いというのは、従来から全くそのとおりでございまして、お願いしに行くと、譲ってしまったが、手続しなかった、手元にはもうないよということで税額も小さいのでそのままにされてしまったというようなケースが相当ございます。複数の車を持たれている方で督促あるいは催告臨戸いたしますと、実は持っていないというケースが本当に多いわけでございますので、市といたしましても、何年も滞納している方については通常催告書のほかに、もし車がないのであれば市へ届け出、申し出をしてほしいというような文書も同封する等注意を促したいと考えております。

以上です。

○委員長（平野 浩） 日下委員。

○委員（日下昭治） つどいの広場の建物の借上料は、もう1年くらいの契約、19年度で終わりだという話をしていますけれども、19年度はここで予算化されているわけですがけれども、契約はされているものだと思いますけれども、20年度以降の契約はないということで考えてよろしいんですね。

○委員長（平野 浩） 総務課長。

○総務課長（増田雅男） 契約期間は21年3月ですから、20年度までです。もう1年。

○委員長（平野 浩） 議案の審査は途中でありますが、ここで11時15分まで休憩をいたします。

休憩 午前11時 5分

再開 午前11時15分

○委員長（平野 浩） 休憩前に引き続き会議を開きます。

引き続き議案第1号の審査を行います。

質疑はありませんか。

島田委員。

○委員（島田和雄） 消防関係の方を忘れちゃいましたので、質問をもう1回させていただきます。220ページですが、説明欄3番の消防施設整備事業の中の工事請負費の中の消火栓の設置についてですけれども、水道管へ設置をするということで水道事業と一体となっていて行われていると思いますけれども、本年の設置については新設された水道管への設置か、それとも既設の水道管への設置か、その辺をお伺いします。

同じく4の消防車両整備事業ですけれども、2台の消防車両の購入ということでもありますけれども、1億2,200万円ですか、高額な予算が組まれております。主に救助をする車が高額ということだろうと思いますけれども、なぜこんなに高いのか、その辺の説明をお願いします。

それから、本年度は消防庫の整備事業についてはないようでありますけれども、要望がなかったのかどうか、その辺をお伺いします。

それと、224ページ、先ほど説明がありましたけれども、説明欄1の防災対策事業の18の備品購入費と226ページの説明欄4の防災基盤整備事業、この2つの事業は防災倉庫の設置とその中に入れる備品代だと思います。まず、備蓄倉庫の設置場所については資料には検討中と書かれておりましたけれども、その後、まだはっきりしていないかどうか、その辺をお伺いします。また、倉庫へ備蓄するものは、どういうものを何人分くらい置くのかをお伺いします。よろしくをお願いします。

○委員長（平野 浩） 島田委員の質疑に対し、答弁を求めます。

消防長。

○消防長（佐藤眞一） それでは、島田委員の質問にご答弁を申し上げます。

まず、消火栓の関係でございますけれども、これはこれから平成19年度中に新たに設置されるものでございます。既設水道に消火栓を設置するものではございません。

それと、19節の中に維持管理の負担金というのがございますけれども、これについては既設消火栓の修繕等の関係でございます。

次に、18節の車両購入費の関係でございますが、これは干潟分署に配置されます水槽付ポンプ自動車1-B型、5トン車の更新のためのもので、これが3,400万円でございます。

それと、本署に配備されます救助工作車と資機材の関係が8,800万円。これが15年くらい前であれば4,000万円くらいで整備できたんですけども、今、各資機材が非常に値上がっておりまして8,800万円。これでもどうかなという感じもしますけれども、装備内容を精査しまして、これ以内におさめる予定であります。大体内容的なものを言いますと、工作車は4WDの5.5トン車の2型というやつでございまして、シャシーと艀装で約3,500万円。それから、ウインチ、クレーン、照明装置、油圧ポンプシステムで約1,700万円、あと救助資機材で、これがほとんどが油圧式でございまして、また、国産品が少なく、ほとんどが外国の製品であります。そういう関係からこれが3,600万円ということで、今回、8,800万円の予算をお願いしました。

次に、消防庫の改修が平成19年度はないということで、希望がなかったかということでございますけれども、これにつきましては19年度中は消防団の分団部の改編の最初の時期であります。ですから、19年度中に再編を十分進めまして各地区の分団部が適正な配置がなされるようにして、そうすれば残る部が決まりますから、老朽化等を見ながら整備計画を立てて改修を実施したいと思っています。

以上です。

○委員長（平野 浩） 総務課長。

○総務課長（増田雅男） それでは、予算書の224ページ、説明欄1の防災対策事業中の18節の備品購入費の中身でございますが、これは救助用のチェーンソー、油圧ジャッキ、発電機、ポータブルトイレ、これらを購入する費用でございます。食べ物関係は11節の需用費の中の消耗品費で購入するようになっております。

それから、226ページの説明欄1の防災基盤整備事業の設置場所ですが、一応各3支所を考えているところでございますが、これから最終的に検討して決めたいと思っております。

以上です。

○委員長（平野 浩） 島田委員。

○委員（島田和雄） 消火栓の設置につきましては、法律で新たに水道管を引く場合には消火栓を一定の間隔で設置しなさいといったような決まりがあるそうですけれども、その辺わかれればお願いしたいと思います。

それと、防災の備蓄倉庫の件ですけれども、何人分くらい置くかということについて決まっていないのでしょうか。

○委員長（平野 浩） 島田委員の質疑に対し、答弁を求めます。

総務課長。

○総務課長（増田雅男） 倉庫の大きさですが、何人分かということですが、別に何人分ということとは——中へ入れるものは先ほど言いましたチェーンソーだとか、そういうものを入れる予定です。食糧はちょっと待ってください。

○委員長（平野 浩） しばらくお待ちください。

消防長。

○消防長（佐藤眞一） それでは、消火栓の設置について法律で定められているのではないかとということでございますけれども、水道法の第24条で消火栓の設置とその設置された消火栓に対する費用保障が定められております。消火栓事業者については、公共の消防の用に供するために消火栓を設置しなければならないという定めが第24条第1項であります。第2項につきましては、消火栓が設置されるために市町村はその費用について負担というよりも保障しなければならない、相応の負担を保障しなさいというのが第24条で定められております。こういった関係から消防組織法の第8条において、市町村については消防の費用については負担をしなさいとうたっております。それが根拠でありまして、そしてこの内容的な、少し掘り下げたものについては、日本水道協会で定めた水道施設基準という規程がございます、消火栓については100メートルから200メートルの間に1つ設けなさいと。それで、消火栓の設置の、単口と双口というのがあるんです。1つの消火栓から1か所だけ取れるのを単口といいます。2か所同時に取れるのを双口と言うんですけれども、150ミリ以上の消火栓については単口を設けなさい。そして、配管の口径が300ミリ以上のものには双口をつけなさいと。それで、消火栓の取り口なんですけれども、65ミリとするという規定がございます。これが消火栓の関係でございます。

なお、消火栓規定をもう1つ言いますと、1分間に水量1トン以上の給水能力を要しなさいということです。なおかつ40分の継続給水ができるものでなければならないとなっております。これは委員は前にやられたからわかっていると思いますけれども、1分間に1トンというのは、B-1型の1級の消防ポンプ自動車で2口放水をした場合に、1分間に1トンの水量を放水できるわけです。それを1つの最低基準としまして、40トンという数字については木造建築物の標準温度曲線というのがございまして、約10分間で1,200度くらいの温度になる。そして30分くらいで200度になる。ですから、実際の放水の必要時間というのは30分だと。30分であれば30トンで足りるわけなんですけれども、そこにあと10トンの余裕を見ているということでございます。

以上です。

○委員長（平野 浩） 総務課長。

○総務課長（増田雅男） 失礼しました。備品の中身ですが、アルファ化米が60箱。これが1箱50食分で3,000食分。それからパンの缶詰が80箱。これは何人分だかわかりません。それから飲料水が1.5リットル入りで2,400本ですから、1人当たり1日3リットルにして約1,200人分くらいです。このようなことを予定しております。

○委員長（平野 浩） 島田委員。

○委員（島田和雄） チェーンソーとかいろいろなものも備蓄すると言っていましたけれども、そういったものを備蓄だけしておいても、いざというときにかからないとかということが考えられますけれども、そういった管理についても運用の中でできているのかどうかをお聞きします。

それと、米、パン、水の人数分を聞きましたけれども、県の施設が旭市にもあるわけですが、地域をカバーする分の備蓄があるんじゃないかなというふうに思っておりましたけれども、その辺についての競合する部分がないのかどうかについてもお伺いしたいと思います。

○委員長（平野 浩） 総務課長。

○総務課長（増田雅男） まず、チェーンソー等の管理でございますが、一応年に1回程度エンジンをかけたりという管理はしております。

それともう1点、県の備蓄倉庫の関係ですが、技術専門校に県が設置した備蓄倉庫があります。これは旭市だけの分ではなくして、海匝銚分でございます。銚子から光、野栄分までありまして、ここで備蓄しているものは、食料のクラッカーで言えば2万8,000食。これだけなんです。ですから、備蓄倉庫というのは、その人数分だけを備蓄しなさいということではなくして、災害があったときに必要最小限度、例えば3日ぐらい持てばとか、その程度の備蓄しかしておりません。

○委員長（平野 浩） ほかに質疑はありませんか。

島田委員。

○委員（島田和雄） 今申し上げましたけれども、動かすものについては、年に1回の試運転では、いざというときにはなかなかかからないと思うんですけれども、消防なんかは月に2回くらい試運転をやっていますよね。だから、いざというときにかかる状態を確保しておかないと役に立ちませんので、その辺についてもよろしくお願いします。

○委員長（平野 浩） ほかに質疑はありませんか。

高木武雄委員。

○委員（高木武雄） 皆さん、それぞれに質問して、私も聞くところも余りないんですけども、歳入についてお伺いをいたします。

市税について11億円ぐらいふえています。これは先ほど来、日下委員からもお話しのとおり、税源移譲が大きな原因だと思われまうけれども、それだけではなく、優遇税制の廃止の部分も入っていると思うんですけども、増税になった部分もあると思うんですけども、この11億円のうちの何%ぐらいが税源移譲以外の増加があるのかお聞きしたいと思います。

それと、地方譲与税がかなり減ります。これもやはり税源移譲の関連と思わうけれども、その辺をお願いいたします。

あと、細かい話になるんですけども、コミュニティバスの運行で500万円ほどの収入が見込まれております。これは何人ぐらいの乗車を見込み、また、単価は幾らで見積もっているのかお伺いをいたします。

それともう1つ、小さい話なんですけれども、財産収入で財産売り払いが載っていますけれども、これはどこをどのように処分するのかお伺いをいたします。

それともう1点、市バスの運行規程なんですけれども、いろいろなところからお話がございまして、子供たちの市バスの運行の話なんですけれども、いろいろと条件、また見に行くところによって市バスが使える使えないのとあつて当然だと思わうけれども、小さい子供たちが動物園に行くとき市バスが使えないという話を聞きましたけれども、市バスの運行規程にそういうことが載っているのかどうかお伺いをいたします。

○委員長（平野 浩） 高木委員の質疑に対し、答弁を求めます。

税務課長。

○税務課長（江ヶ崎純敏） 市税全体で11億円ちよつとの増の内容でございまして、これは議員おっしゃったように税源移譲以外のものも入っております。税源移譲分の影響額は個人市民税で5億7,300万円ほど見込んでおります。そのほかに19年分については定率減税が全廃になりますので、この影響額として1億2,100万円ちよつとの増を見込んでおります。これらによりまして個人市民税で9億3,100万円ほど増となるものと見込んでおります。これ以外の税目でも増となる見込みのものはございまして、法人市民税では1億2,000万円ほど現年分で増を見込んでおります。これは市内のうちでも工業団地等の優良企業を中心として業績を回復した企業がございまして、それによる法人税割の増を見込んだものでござい

ます。それから、固定資産税の現年分につきましては4,800万円ちょっと増を見込んでおりますが、これは主に家屋の新增築が減失を上回っていることによる増を見込んだものでございます。これらによりまして市税の増を見込んでおります。

以上です。

○委員長（平野 浩） 財政課長。

○財政課長（高埜英俊） お答えいたします。

まず、地方譲与税が随分少ないんじゃないかというご指摘でございますけれども、予算書の18ページに所得譲与税があります。これが5億1,200万円減るということでございます。このために地方譲与税全体が大きく減るということでございます。この所得譲与税がなぜ減ったかということでございますけれども、定率減税が平成18年度に半分廃止されて、19年度から全部廃止されるわけなんです、18年度分につきましては手続が間に合いませんで、税で半分見るということができませんでした。所得譲与税という形でその半分分を国が見てくれたわけなんです、それが19年度からございませんで、所得譲与税が全部なくなるということでございます。

それと、財産売り払い収入の関係でございますけれども、これはほとんどが都市整備課所管の旭駅前線の道路の関係でございます。土地を地権者から買ったり、土地開発公社で持っている土地を地権者に代替地として売るとかというような関係の売り払い収入でございます。財政課で市有地の売却の予算を持っているんですけれども、それは科目設定だけでございませんで、ほとんどが都市整備課の駅前線の関係の土地の売ったり買ったりの中での売り払い収入でございます。

以上です。

○委員長（平野 浩） 企画課長。

○企画課長（加瀬正彦） 歳入の40ページ、バスの収入の関係、コミュニティバスの運賃収入は、単価と何人ぐらいで見込んでいるかということでございます。それぞれの内訳を申し上げます。旭地区の歳入は228万9,000円を見込んでおります。飯岡地区214万5,000円で、海上地区137万円ということで、合計で580万4,000円となります。干潟地区につきましては、計算方法が違いまして香取市との共同運行でございますから、これについては赤字補てんという形での補助になりますので、ここに見込んでございませんで。それと、料金は一応19年度においては100円でございます。ただ、身障者と入学前の幼児については無料ということでございます。この積算の根拠でございますけれども、17年度の数字が実績になっております。

それと18年度の伸びを若干見込んであるというところでございますので、旭地区については約2万5,000人、海上地区については約1万4,000人で、飯岡地区なんですけれども、従来の廃止代替の関係がありまして通学定期というものがまだ存在しておりますので、この部分は利用者の見込みが難しいんですけれども、それと18年までは70歳以上のお年寄りに対して無料でございましたけれども、19年度から廃止するというので現在周知を図っております。そこでの落ち込みがどの程度になるのか、その辺もわからない部分があるんですけれども、4万人弱になるかなというような想定の中での計算でございます。

以上です。

○委員長（平野 浩） 総務課長。

○総務課長（増田雅男） それでは1点訂正させていただきます。先ほどの島田和雄委員のアルファ化米1箱3,000食で60箱で1万8,000人と言いましたけれども、60箱で3,000食ですので、申しわけございません。

それと、バスの関係でございますが、動物園等はだめなのかということでございますが、今、動物園の方は許可しております。ただ、学校の低学年、3学年までです。それで、子ども会の方はすべて許可しております。それで、バスの運行規程の中に動物園はだめだと載っているのかということですが、別にそこまではうたってありません。あくまでも市の行事もしくは研修等を使用する場合ということで運行しております。

ちなみに、行政改革のアクションプランの中ではバスの今後の運行ということで一応うたっているんですが、現在3台ございます。これは徐々に廃止していきまして、最終的にはバスをなくして、各団体が使用する場合には助成制度に切りかえていく予定であります。

以上です。

○委員長（平野 浩） ほかに質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

○委員長（平野 浩） 特にないようですので、議案第1号中の所管事項の質疑を終わります。

続いて、議案第10号中の所管事項について、担当課より補足して説明がありましたら、お願いいたします。

総務課長。

○総務課長（増田雅男） それでは、補正予算書の11ページをお願いいたします。

10ページの後段になりますけれども、14款の県支出金、11ページの6目総務費県負担金及び7目の教育費県負担金の説明欄、それぞれ1の新市スタートアップ支援事業負担金474万

5,000円と394万8,000円の内容でございますが、この事業は平成15年から17年度に合併した市町村を対象に、17年度から19年度までに市町村の政策形成とか地域おこしとか教育関係だとか、こういう事業に携わる職員を県から1年間派遣していただけるという事業でございます。人件費の2分の1が県の負担で、2分の1が派遣先の市町村の負担となっているところでございます。今年度平成18年度、旭市といたしましては、徴税部門に1名、これが上の総務費の方です。それから教育部門に1名の派遣をお願いし、現在携わっていただいているところであります。この方々の人件費に係る県の負担分がここに計上したものでございます。以上です。

○委員長（平野 浩） 財政課長。

○財政課長（高埜英俊） 補正予算書の18ページをお願いいたします。18ページの一番下でございますが、土木費の住宅管理費の12節の役務費の手数料94万5,000円の減額でございます。これは、この前の視察のときにごらんいただきました飯岡地区の双葉団地のA棟、下永井団地、両方とも鉄筋4階建ての建物なんですけど、この耐震診断を今年度実施いたしました。その結果、耐震工事が不要ない、大丈夫だということになりました。この予算は、もし工事が必要になった場合には設計の判定審査会というものにかけなければならないんですけども、そのための手数料を予算化しておりましたので、それが不要になりましたので、全額マイナス補正ということでございます。

それで、その下に委託料の方で減額がございまして、こちらは入札の結果、金額が下がりましたので、それに合わせて減額するというものでございます。

以上です。

○委員長（平野 浩） 企画課長。

○企画課長（加瀬正彦） 13ページをお願いいたします。

電算システムの運用事業の中で介護保険システムの改修業務委託料ということで283万5,000円組んでございます。これにつきましては後期高齢者のシステムにつきまして国の方で補助金が早期についたということで、今回、補正をさせていただきます。あわせてこれは繰越明許という形での事業実施になるかと思っております。

それと、2番の統合型地理情報システムの整備事業でございますが、先ほどの新年度予算でも大きく下がった理由の中での1つになっておりましたけれども、これは入札と実績によりまして6,644万9,000円の減額を行うということでございます。当初、1億円からの事業費の予定であったものでございますけれども、入札によりまして契約額が4,083万4,500円とい

う形になりまして、これは17年、18年の2か年事業でございましたので、18年の支払い額以外の分を減額するものでございます。

続きまして、14ページをお願いいたします。説明欄の2、バス路線維持対策事業でございます。補助金の増加ということでお願いしてございます。地方バス路線維持費の助成金でございますが、この内容でございますが、神宮寺浜線の廃止の関係があります。これは当初、6月廃止というような形での予算措置を設定していたところでございますが、それが9月末、要するに3か月延びまして、その分の補てんも行わなければいけないということで増額をお願いしたところでございます。あと、府馬線につきまして実際に乗車実績が相当下がっているということで、これも損失補てん額が増ということで、今回、この数字をお願いしてございます。

以上です。

○委員長（平野 浩） 担当課の説明は終わりました。

議案第10号中の所管事項について、質疑がありましたら、お願いいたします。

高木委員。

○委員（高木武雄） 今、電子計算費で1億円のが4,000万円で入札ができたということでございますけれども、これは当初の積算が甘かったのか、それとも激しい競争の末こうなったのか、差し支えなかったらお願いします。

○委員長（平野 浩） 高木委員の質疑に対し、答弁を求めます。

企画課長。

○企画課長（加瀬正彦） 入札自体は平成18年2月3日に実施しております。これは激しいそれぞれの競争の結果こうなりました。積算につきましては、適正な形で実施されております。

○委員長（平野 浩） ほかに質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

○委員長（平野 浩） 特にないようですので、議案第10号中の所管事項の質疑を終わります。

続いて、議案第16号について、総務課より補足して説明がありましたら、お願いいたします。

総務課長。

○総務課長（増田雅男） 本会議で補足説明したとおりでございます。よろしく申し上げます。

○委員長（平野 浩） 総務課の説明が終わりました。

議案第16号について、質疑がありましたら、お願いいたします。

島田委員。

○委員（島田和雄） この条例ですけれども、廃止になる旭市監査委員条例というのがありましたけれども、これと内容的にはほぼ同じというように思いますけれども、ただ1つ気になるのは、新しい方の条例の第3条、この条例の施行に関し必要な事項は監査委員が別に定めとなっておりますけれども、廃止される方の条例を見ますと、同じような内容ですけれども、その中で「監査委員が市長と協議して別に定める」というふうに書かれているわけですが、この「市長と協議して」ということを抜いたことについて何か意図があるのかどうか、その辺をお聞きします。

○委員長（平野 浩） 島田委員の質疑に対し、答弁を求めます。

監査委員事務局長。

○監査委員事務局長（平野哲也） それでは、島田委員のご質問にお答えいたします。

経過を申し上げますと、本会議で総務課長の方から議案の補足説明がございました。従来
の監査委員条例を廃止して事務局設置条例になった今回の経緯を、重複しますけれども、もう一度申し上げますと、従来
の監査委員条例というのは、監査委員に関する規定、事務局に関する規定の2本立てになっておりました。これは総務課長が補足説明で申し上げましたように、自治法の改正で監査委員の規定については本法で規定されたので必要なくなった。ただし、事務局の設置については、まだ地方自治法上残っておりまして、条例により設置できると。そういった経過がございました。ですから、本法で規定されているものはあえて必要ないだろうというのが今回の改正の趣旨でもございます。そういった観点から見まして、委任のところ、この条例に関し必要な事項は監査委員が別に定める。旧監査委員条例では、市長と協議してということで確かにございました。ここの辺につきましても、簡単に言ってしまうと、前から自治法の中でもうたわれていたということで今回とったということなんですけれども、参考までに自治法
の関係を申し上げますと、地方自治法の第180条の4第2項の中で普通地方公共団体の委員会または委員は規則その他の規程を定め、または変更しようとする場合においてはあらかじめ当該地方公共団体の長に協議しなければならないという規定が既にごございました。今回整理するに当たりまして、あえて規定されているものは除いた方がいいだろうということになりまして、今回取ったという経過でございます。

以上です。

○委員長（平野 浩） 島田委員。

○委員（島田和雄） そういうことで了解しました。私が考えたのは、市長と協議するという

ことを抜いたということは、監査委員の独立性というのを高めて、しっかり監査をした方がいいんじゃないかということかなと思いましたので質問させていただきました。

○委員長（平野 浩） ほかに質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

○委員長（平野 浩） 特にないようですので、議案第16号の質疑を終わります。

続いて、議案第17号について、総務課より補足して説明がありましたら、お願いいたします。

総務課長。

○総務課長（増田雅男） 17号も本会議で説明したとおりです。よろしく申し上げます。

○委員長（平野 浩） 総務課の説明が終わりました。

議案第17号について、質疑がありましたら、お願いいたします。

（「なし」の声あり）

○委員長（平野 浩） 特にないようですので、議案第17号の質疑を終わります。

続いて、議案第18号について、総務課より補足して説明がありましたら、お願いいたします。

総務課長。

○総務課長（増田雅男） 18号も本会議で補足説明したとおりでございます。

なお、第1条の旭市行政組織条例から第9条の旭市特別職報酬等審議会条例までの新旧対照表をお手元に配布してありますので、参考にしていただきたいと思います。

以上です。

○委員長（平野 浩） 総務課の説明は終わりました。

議案第18号について、質疑がありましたら、お願いいたします。

（「なし」の声あり）

○委員長（平野 浩） 特にないようですので、議案第18号の質疑を終わります。

続いて、議案第19号について、総務課より補足して説明がありましたら、お願いいたします。

総務課長。

○総務課長（増田雅男） それでは、補足説明申し上げます。

これも新旧対照表をお手元に配布してあります。

そこで、まず、勤務時間の関係でございます。第6条第1項の関係でございます。現行の

旭市の勤務時間でございますが、午前8時30分から午後5時15分となっております。そのうち12時から12時15分と午後の15時から15時15分、この15分ずつ30分が休憩時間になっております。それで、休憩時間は12時15分から13時の45分と、このようになっておりますが、今回、休憩時間を廃止するというので、勤務時間が午前中が8時半から12時まで、午後は13時から17時30分まで、昼休み時間を12時から1時までの1時間と、このように変更するものでございます。

それから、同条第2項の関係、昼休みを45分とすることができるというケースでございますが、小学校就学前の子を養育している場合、小学校に就学する子を送迎する場合、家に要介護者がいて介護をする場合、妊娠中の女子職員の通勤を緩和する必要がある場合、このような場合には昼休みを1時間でなくして45分とすることができるという規定でございます。

それから、同条第3項、昼休みを一斉に与えないことについてでございますが、これにつきましては例えば市民課の諸証明等を発行する場合、昼休みにお客さんが見えます。その場合には長の判断で全職員を一斉に12時から休憩させるんじゃなくして、交代でローテーションを組んで休憩時間を与えるという規定でございます。

それから、附則の2項の経過措置でございますが、消防署等の場合は3部制の勤務になっております。このような場合には今までの5時15分を経過措置で当分の間はできるという規定になっております。

以上でございます。

○委員長（平野 浩） 総務課の説明は終わりました。

議案第19号について、質疑がありましたら、お願いいたします。

（「なし」の声あり）

○委員長（平野 浩） 特にないようですので、議案第19号の質疑を終わります。

続いて、議案第21号について、総務課より補足して説明がありましたら、お願いいたします。

総務課長。

○総務課長（増田雅男） それでは、議案第21号でございます。補足説明を申し上げます。

これも同じく新旧対照表をお手元に配布しておりますので、参考にさせていただきたいと思っております。

なお、今回減額いたします特別職の報酬でございますが、その次の教育長、第22号とも関連いたしますが、この金額は市長の方から報酬審議会に諮問した額でございます。それで答

申を得たものでございます。

以上です。

○委員長（平野 浩） 総務課の説明は終わりました。

議案第21号について、質疑がありましたら、お願いいたします。

高木委員。

○委員（高木武雄） 21号、22号一緒なんですけれども、特別職の給料が下がるということなんですけれども、これは近隣市町あるいは同規模程度の市と比べて高いのか安いのか、お願いいたします。

○委員長（平野 浩） 高木委員の質疑に対し、答弁を求めます。

総務課長。

○総務課長（増田雅男） 同規模、7万人といたしますと大体銚子市と八街市と比較したならば低いです。あと、近隣であれば匝瑳市と比較した場合は、この金額はうちの方がちょっといいです。ちなみに、匝瑳市の場合は、市長が74万1,000円、助役が69万4,000円、収入役が64万9,000円です。

以上です。

○委員長（平野 浩） 総務課長。

○総務課長（増田雅男） 香取市です。市長が80万円、助役が68万円、収入役が64万円。

以上です。

○委員長（平野 浩） ほかに質疑はありませんか。

島田委員。

○委員（島田和雄） この議案につきましては、旭市特別職報酬等審議会の答申に基づいて給料額を引き下げることですけれども、答申の内容がどのようなものであったかお伺いをします。

○委員長（平野 浩） 総務課長。

○総務課長（増田雅男） それでは、答申の内容について朗読します。理由及び意見だけ申し上げます。「今回の給料月額改定については、慎重な審議の結果、諮問どおりとすることで決定した。なお、審議の過程で委員より建議された特別職及び教育長の通勤に係る経費については、公共交通機関等を利用し、その運賃等を負担するときには、一般職の例により支給するよう申し添える」と、このようなことでございます。

なお、今回、特別職にこの金額で諮問したのは、特別職は昨年4月より2%減額を行

っております。それで今年度3月31日で切れます。

それと、議員ご存じのように、昨年3月議会でも議決いただきましたが、一般職の職員の給料が給料表の改正になって5%下がります。そこで、特別職の方でも、職員だけに痛みを与えるわけにいかないから、我々もこういう厳しい時代だから下げようじゃないかということで、今回このような結果になったものでございます。

以上です。

○委員長（平野 浩） ほかに質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

○委員長（平野 浩） 特にないようですので、議案第21号の質疑を終わります。

続いて、議案第22号について、総務課より補足して説明がありましたら、お願いいたします。

総務課長。

○総務課長（増田雅男） 先ほど21号で申し上げましたので、それと同じでございまして、補足説明はございません。

○委員長（平野 浩） 総務課は説明は終わりました。

議案第22号について、質疑がありましたら、お願いいたします。

（「なし」の声あり）

○委員長（平野 浩） 特にないようですので、議案第22号の質疑を終わります。

続いて、議案第23号について、総務課より補足して説明がありましたら、お願いいたします。

総務課長。

○総務課長（増田雅男） 議案第23号、補足説明申し上げます。

これも新旧対照表をお手元に配布してあります。

第21条第2項の関係、いわゆる管理職手当の関係でございしますが、本条例では一応限度額だけを定めておきまして、定額の額だとか経過措置については規則で定めるものでございます。

現在、管理職手当、課長の例で言いますと、本給に10%、46万円であれば4万6,000円が管理職手当で出ております。それで、同じ課長職であっても、入った年数だとか課長になってからの年数によって給料はばらつきがあります。それを今回の改正の趣旨は、いわゆる同じ課長職をやっているんだから手当で差をつけるのはおかしいんじゃないかというのが国の

方針でございます。それで今回このような改正になるわけです。例えば先ほど言いましたように、現行でいきますと月額4万6,000円をもらっているのを定額制にした場合4万5,000円になるといった場合に1,000円の差が生じます。4万6,000円の人が今度1,000円下がるわけです。では、この1,000円をいきなり下げるのかというのではなくして、19年度から23年度までの5年間で25%ずつ下げて調整するという改正でございます。ですから、4万6,000円の人が4万5,000円になりますよといった場合には、19年度はそのまま、20年度になりますと250円下がって4万5,750円、21年度は50%で4万5,500円、最終的に23年度で4万5,000円にするということです。下がる人の場合はこのような調整をします。ただ、上がる人もいます。それはどうするのかといいますと、19年度から上がります。ですから、その辺がちょっとおかしいんじゃないかなと私自身思っておりますし、同じ課長職であっても差があってもいいんじゃないのかなと個人的には思っております。

以上です。

○委員長（平野 浩） 総務課の説明は終わりました。

議案第23号について、質疑がありましたら、お願いいたします。

（「質疑なし」の声あり）

○委員長（平野 浩） 特にないようですので、議案第23号の質疑を終わります。

続いて、議案第32号について、総務課より補足して説明がありましたら、お願いいたします。

総務課長。

○総務課長（増田雅男） 委員会の中で余計なことをしゃべり過ぎましたので、申しわけございませんでした。

議案第32号でございます。これも本会議で説明したとおりです。規約の新旧対照表をお手元に配布していますので、よろしくお願いいたします。

以上です。

○委員長（平野 浩） 総務課の説明は終わりました。

議案第32号について、質疑がありましたら、お願いいたします。

（「なし」の声あり）

○委員長（平野 浩） 特にないようですので、議案第32号の質疑を終わります。

以上で付託議案についての質疑は終わりました。

議案の採決

○委員長（平野 浩） これより討論を省略して議案の採決を行います。

議案第1号、平成19年度旭市一般会計予算の議決についてのうち本委員会所管事項について、賛成の方の起立を求めます。

（賛成者起立）

○委員長（平野 浩） 全員賛成。

よって、議案第1号は原案のとおり可決されました。

議案第10号、平成18年度旭市一般会計補正予算の議決についてのうち本委員会所管事項について、賛成の方の起立を求めます。

（賛成者起立）

○委員長（平野 浩） 全員賛成。

よって、議案第10号は原案のとおり可決されました。

議案第16号、旭市監査委員事務局設置条例の制定について、賛成の方の起立を求めます。

（賛成者起立）

○委員長（平野 浩） 全員賛成。

よって、議案第16号は原案のとおり可決されました。

議案第17号、旭市副市長定数条例の制定について、賛成の方の起立を求めます。

（賛成者起立）

○委員長（平野 浩） 全員賛成。

よって、議案第17号は原案のとおり可決されました。

議案第18号、地方自治法の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整備に関する条例の制定について、賛成の方の起立を求めます。

（賛成者起立）

○委員長（平野 浩） 全員賛成。

よって、議案第18号は原案のとおり可決されました。

議案第19号、旭市職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条例の制定について、賛成の方の起立を求めます。

（賛成者起立）

○委員長（平野 浩） 全員賛成。

よって、議案第19号は原案のとおり可決されました。

議案第21号、旭市特別職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定について、賛成の方の起立を求めます。

（賛成者起立）

○委員長（平野 浩） 全員賛成。

よって、議案第21号は原案のとおり可決されました。

議案第22号、旭市教育委員会教育長の給与等に関する条例の一部を改正する条例の制定について、賛成の方の起立を求めます。

（賛成者起立）

○委員長（平野 浩） 全員賛成。

よって、議案第22号は原案のとおり可決されました。

議案第23号、旭市一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定について、賛成の方の起立を求めます。

（賛成者起立）

○委員長（平野 浩） 全員賛成。

よって、議案第23号は原案のとおり可決されました。

議案第32号、千葉県市町村総合事務組合を組織する地方公共団体の数の増減及び千葉県市町村総合事務組合同規約の一部を改正する規約の制定に関する協議について、賛成の方の起立を求めます。

（賛成者起立）

○委員長（平野 浩） 全員賛成。

よって、議案第32号は原案のとおり可決されました。

以上で本委員会に付託されました議案の審査は終了いたしました。

なお、委員長報告につきましては、委員長に一任願いたいと思いますが、これにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○委員長（平野 浩） ご異議ないようでございますので、委員長報告は委員長一任とさせていただきます。

所管事項の報告

○委員長（平野 浩） 次に、所管事項の報告に入ります。

報告がある所管課は、随時報告をしてください。

（発言する人なし）

○委員長（平野 浩） 特にないようでございますので、所管事項の報告を終わります。

○委員長（平野 浩） 以上をもちまして、審査は全部終了いたしました。

これにて本委員会を閉会いたします。

大変ご苦労さまでございました。

閉会 午後 零時 13分

旭市議会委員会条例第30条第1項の規定により署名する。

旭市議会総務常任委員会委員長 平野 浩